

授 業 概 要

科目名	キャリアプランニングI	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山岸 有里		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
自らの行動を見直し、主体性と協働性を身につける。 7つの習慣を理解し、重要性を知る。主に第1～3の習慣をにに付けられるように、何度もワークを行い、言葉を理解していく。自分のミッションステートメントを完成させ、今後に活かしていける計画をたて、実行できるようになる事を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
カウンセラーとして、30年勤務し心理学、カウンセリング、心理検査、心理演習等の科目の講義経験がある。教員、保育士等の研修を10年以上実施している。理解を深め実感できるように、具体的な体験、ワークを協働しながら行う授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書なし。配布資料活用。 『7つの習慣(参考文献)』					自分のノートが教材であり、資料として在籍中の実習や、卒業後も使えるもの を作っていくので、随時作成したノートの提出、共有をします。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 7つの習慣について知る。 原理、原則について理解を深める			9	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 最優先事項を優先するとはどういうことかをワークを通して理解を深める。				
	【到達目標】 ・原則とは ・パラダイムの転換 の理解を自分の言葉で記述する(小テスト5点)				【到達目標】 自分の行動を振り返るワークを記入				
2	【授業単元】 原理、原則について理解を深める。 自分の中にある習慣について整理し、自分のパラダイムを確認する。			10	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 自分の1～4領域を整理するワークを行い、いままでの日常を評価する。				
	【到達目標】 日常の自分のパラダイムを整理し、ワークシートに記入し、提出(小テスト5点)				【到達目標】 日常の行動振り返り、時間の使い方と目標を提出する(小テスト5点)				
3	【授業単元】 第1の習慣「主体性を発揮する」 なりたて姿をイメージでき、自ら選んだことを意識できるようなワークを行う			11	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 一番、優先すべきことは何かをグループワークを通して学ぶ				
	【到達目標】 ワークシートに記入し提出(小テスト5点)				【到達目標】 グループでまとめたワークシートを提出(小テストとする)				
4	【授業単元】 第1の習慣「主体性を発揮する」 「影響の輪を広げる」をグループで学び合いながら理解を深める			12	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 自己分析を個人ワークで行い、自己理解を深める				
	【到達目標】 ワークシートに記入し提出(小テスト5点)				【到達目標】 自己分析のワークシートを完成させ、提出する。				
5	【授業単元】 第1の習慣「主体性を発揮する」 ミッションステートメントをワークを通して自己理解を深めながら考える			13	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 3つの習慣の個人の自立を考え、グループでシェアする				
	【到達目標】 自分のミッションステートメントをワークシートに記入し提出(小テスト5点)				【到達目標】 自己分析のワークシート、計画表を提出(小テスト 5点)				
6	【授業単元】 第2の習慣 終わりを思い描くことから始めるについて理解を深める。 グループでのワークを通して、なぜこれが必要なのかの体験をしながら学ぶ。			14	【授業単元】 第1～3の習慣を振り返り、自分のミッションステートメント、価値にあった行動をとるために、夏休 みの目標、行動計画を作成する。次回の発表原稿の準備。				
	【到達目標】 人生のゴールを具体的な言葉にし、ワークシートに記入し提出(小テスト5点)				【到達目標】 ワークシート、計画表を記入し提出する。(小テスト5点)				
7	【授業単元】 第2の習慣 終わりを思い描くことから始めるについて理解を深める。 なぜ、この第2の原則が必要なのかをグループでまとめる。			15	【授業単元】 定期試験。3つの習慣を学んで、自分の今後の行動を考える グループ内で発表(ワークシートに記入した内容をお互いに発表し、修正を加える)				
	【到達目標】 自分の言葉でレポートを作成し、提出(小テスト5点)				【到達目標】 定期試験(グループワーク)及び発表				
8	【授業単元】 第3の習慣「最優先事項を優先する」 最優先事項を優先するとはどういうことか、第2領域とは何か。重要事項とは何かを知る。			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 1～3までの習慣について、使われている用語の意味を確認するテストを行う。(中テスト15点)			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、A からFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験、ワークシート記入で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点 満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数 でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
7つの習慣を学んで、実践できるようにしていく 出席をする									

授業概要

科目名	キャリアプランニングⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山岸 有里		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
自らの行動を見直し、主体性と協働性を身につける。 そのために、7つの習慣の第4～7の習慣を学ぶ。主に協働する大切さと、自立の必要性を理解しグループワークや演習を通して学び合い、自分の成長を事項評価できるようにすることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
カウンセラーとして、30年勤務し心理学、カウンセリング、心理検査、心理演習等の科目の講義経験がある。教員、保育士等の研修を10年以上実施している。理解を深め実感できるように、具体的な体験、ワークを協働しながら行う授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書なし。配布資料活用。 『7つの習慣(参考文献)』					自分のノートが教材であり、資料として在籍中の実習や、卒業後も使えるものを作っていくので、随時作成したノートの提出、共有をします。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 第1～3の習慣を振り返る。 前期に立てた目標の達成度を確認し、自己評価を行う。 うまく行った点、改善点についてグループでシェアする			9	【授業単元】 第5の習慣 理解してから理解される③ 理解してから理解されるとはどういうことなのかを自分なりにまとめる。				
	【到達目標】 自己評価を行ったものを提出(小テスト5点)				【到達目標】 信頼度高、引き出しを書き出し、自分の人間関係を整理するワークを記入し提出(小テスト5点)				
2	【授業単元】 自己理解、他者理解を深める。 「偏愛マップ」を作成し、自己理解ワークを行う。お互いに、紹介し合い理解を深め合う。			10	【授業単元】 第6の習慣 相乗効果を発揮する① シナジーを作り出す、相手と自分との違いを受け入れる 等の理解を深める				
	【到達目標】 偏愛マップを作成しそれを提出(小テスト5点)				【到達目標】 理解度を確認する小テストを実施(5点)				
3	【授業単元】 自己理解、他者理解を深める。 自分の未来に向けたマップの「夢のマップ」を作成し、自己理解ワークを行う。お互いに、紹介し合い理解を深め合う。			11	【授業単元】 第6の習慣 相乗効果を発揮する② 協力して課題を解決するグループワークを実施				
	【到達目標】 夢マップを作成しそれを提出(小テスト5点)				【到達目標】 相手を理解するワークの感想、気づきを記入し提出(5点)				
4	【授業単元】 第4の習慣 WIN-WINを考える① 事例を通して、Win-Loseとの違いを考える			12	【授業単元】 第6の習慣 相乗効果を発揮する③ 協力して課題を解決するグループワークを実施				
	【到達目標】 WIN-WINの事例を考え、自分の行動を振り返るワークを記入し、提出(小テスト5点)				【到達目標】 課題解決をするワーク内容からの学びを記入し提出(5点)				
5	【授業単元】 第4の習慣 WIN-WINを考える② 事例を通して、Win-LoseやLose-Loseになる要因を考察。どうすればWIN-WINにできるのかの考え方を身に付ける。競争から協働へ。			13	【授業単元】 第6の習慣 相乗効果を発揮する④ 協力して課題を解決するグループワークを実施				
	【到達目標】 WIN-WINにするためのワークを記入し、提出(小テスト5点)				【到達目標】 個の成功から、公の成功へと成長することについて自己の成長、学びを記入し提出(5点)				
6	【授業単元】 第5の習慣 理解してから理解される① 100に質問シートで、お互いを理解するグループワークを実施 相手を理解した行動とは何かを考える。相手のWINを知る			14	【授業単元】 第7の習慣 刃を研ぐ ミッションステートメント、今後のスケジュール(2年生)を考え、ワークに記入する。				
	【到達目標】 相手を理解するワークを記入し、提出(5点)				【到達目標】 目標ワークシート、計画表を記入し提出(5点)				
7	【授業単元】 第5の習慣 理解してから理解される② 共感的態度、傾聴 について演習実践。自己評価を実施。			15	【授業単元】 定期試験。7つの習慣を学んで、自己成長の軌跡と自分の今後の計画について決意をまとめる。 グループ内で発表し、承認を得る。				
	【到達目標】 演習を行った自己評価をレポートで記入し提出(小テスト15点)				【到達目標】 発表原稿を定期試験に変える				
8	【授業単元】 中テスト 共感的態度、傾聴 実践で、「相手を理解」できたか演習。			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験、ワークシート記入で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 自己評価、他者評価を実施し中テストとする(15点)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
7つの習慣を学んで、実践できるようにしていく 出席をする									

授業概要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかり易い文章の書き方を学ぶ講座です。前半は実習のための自己PRや志望動機などの文章をわかりやすく伝えるためのポイントを学びます。また、実習先で報告書を記入する際のポイントを学びます。後半は 就職試験や公務員試験でおこなわれる文章理解と小論文などにおいて、効果がある講座内容になります。具体的には、起承転結のある文章と論理的な文章を読み、その組み立てを学びます。最後に、学びを活かして、800文字で小論文を書きます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
流通業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、わかり易い文章の書き方を指導する。 授業実施後には、起承転結や、序論、本論、結論という、わかりやすく組み立てられた文章を書けるレベルまで到達できる授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 わかり易い文章とは①			9	【授業単元】 論理的に文章を読む。①『はやぶさ式思考法』				
	【到達目標】 相手本位の文章を考える。 仕事に必要な文章を考える。				【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。				
2	【授業単元】 わかり易い文章とは②			10	【授業単元】 論理的に文章を読む②『ローマから日本が見える』				
	【到達目標】 簡潔な文章を理解する。 一文を簡潔に。修飾の順序に気を付ける。				【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。				
3	【授業単元】 わかり易い文章③			11	【授業単元】 論理的に文章を読む③「下町ロケット」「小説の読み方」				
	【到達目標】 自己PRを書いてみる。 根拠を挙げ、相手に納得してもらう。				【到達目標】 描写から人物像を読み取る。 キーワードを意識して文章を読む。				
4	【授業単元】 わかり易い文章④			12	【授業単元】 小論文を書いてみる①				
	【到達目標】 志望動機を書いてみる。 なぜ社会福祉士になりたいのか。				【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。 情緒が中心文章と理知的な文章の違いを知る。				
5	【授業単元】 語彙力を高める①			13	【授業単元】 小論文を書いてみる②				
	【到達目標】 熟語を学ぶ。 三字熟語と四字熟語				【到達目標】 書き方の手順を知る。 小論文の評価のポイントを知る。				
6	【授業単元】 語彙力を高める②			14	【授業単元】 小論文を書いてみる③テーマを設定し、課題作文を書く。				
	【到達目標】 故事成語ととわざを学ぶ。 慣用句を学ぶ。				【到達目標】 小論文(課題作文)の提出。				
7	【授業単元】 語彙力を高める③ 同訓異字、同音異字、四字熟語などを学ぶ。			15	【授業単元】 定期試験(小論文試験)				
	【到達目標】 同訓異字、同音異字、対義語を学ぶ。				【到達目標】 試験終了後に解答・解説				
8	【授業単元】 1～7回目までの授業で学習した範囲から出題。			【成績評価の方法と基準】 評価は課題の提出4回(指定された内容を提出)を小テスト分として20点。中間試験(授業8回目・筆記試験)で20点の合計40点。期末試験が60点。合計100点満点で評価する。試験の範囲は、授業の中で案内。筆記試験は授業で確認した知識の定着度を確認する。評価は学則の規定に準ずる。					
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
文章に親しむ。まず、文章を読み、内容を理解することが大切です。									

授業概要

科目名	チャレンジプログラムⅠ指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関 芳隆		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
困りごと、相談ごとを話ができる関係性をクラスで作る 「自分」と「他者」を理解し意見を聞く力、話す力を身につける チームで協働する力を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として医療領域(精神科病院、急性期病院)、産業領域(障害者雇用支援事業)で相談支援業務を行ってきた教員が、現場で学んだコミュニケーションの取り方や協働する力、職業人としての身構え・気構え・心構えを身に着ける授業を実施する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業開始1週間の振り返り			9	【授業単元】 中間試験				
	【到達目標】 チャレンジプログラム指導、チャレンジプログラムの目的、流れを理解する。 授業の受け方を確認する 授業についての不安・不明なところを解消する				【到達目標】 日本精神医学資料館で学んだことをもとに班ごとに発表する。				
2	【授業単元】 GWIに向けた過ごし方			10	【授業単元】 協働のための規律とは①				
	【到達目標】 5月病の仕組みを知る。 乗り換え方を学ぶ 生活リズムを確立する。				【到達目標】 入学して3か月を振り返り個人、クラスを振り返る クラスで課題を出し合う。				
3	【授業単元】 「自分」と「他者」の視点の違いを知る①			11	【授業単元】 協働のための規律とは②				
	【到達目標】 自分についてを知る。 自分の価値観、ものの見方、感じ方を学ぶ				【到達目標】 クラスで出た課題をもとに改善策を考える 新たなクラスのルールを決める 席替え				
4	【授業単元】 「自分」と「他者」の視点の違いを知る②			12	【授業単元】 目標から逆算した行動計画をたてる				
	【到達目標】 他者からみた自分を知る。 価値観の違い、認識のズレを学ぶ				【到達目標】 目的、目標、行動の違い 目標シートの作成				
5	【授業単元】 円滑なコミュニケーションの取り方を学ぶ			13	【授業単元】 日常生活で「問い」をもつ				
	【到達目標】 他者の意見を聴く記述を身につける 自分の意見を相手に伝える技術を身につける				【到達目標】 「問い」を持つ意味 「問い」の立て方を学ぶ。 日常で「問い」を持ち主体的に関われるようになる。				
6	【授業単元】 集団と組織。協働とはなにか			14	【授業単元】 4年生の卒業研究聴講				
	【到達目標】 集団と組織の違いを学ぶ。 協働することの大切さを理解する。				【到達目標】 4年生の卒業研究を聞いてゴールを思い描く 問いを持って話を聞き、質問ができる				
7	【授業単元】 協働するための技術			15	【授業単元】 期末試験 夏休み・後期にむけた準備				
	【到達目標】 アサーショントレーニングを通して、自分の意見も相手の意見も大切にしながら 率直かつ適切にコミュニケーションをとる方法を学ぶ				【到達目標】 前期を振り返り、後期に向けた目標・課題・やることを抽出する 夏休みの注意点、後期に向けた準備ができる				
8	【授業単元】 チームアップ 日本の精神医療の歴史を学ぶ			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 日本精神医学資料館見学に向けて、見学班を作る 班で下調べを行う 班の中で意見を交わし、見学のテーマ、目的、課題を考える								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	チャレンジプログラムⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関 芳隆		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
5領域についての見学・専門職の講演・現場体験を通して、将来像を具体的に思い描く。 体験を通して対象者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ 自分の価値観・見方を知覚する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として医療領域(精神科病院、急性期病院)、産業領域(障害者雇用支援事業)で相談支援業務を行ってきた教員が、現場体験で得た学びと日常の授業との学びとの結びつきを伝え、理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材:適宜資料を配布					実習内容の振り返りとともに、調べ学習やボランティアの参加等を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (A)精神病院見学 (B)現場1日体験 【到達目標】 (A) 見学を通して、精神科医療の現場で働く公認心理師と精神保健福祉士の役割、業務を知り、将来の選択肢を広げる (B) 指定された領域の職場を体験し、そこで働く公認心理師と精神保健福祉士の役割・仕事内容、そして支援者との関わり方を学ぶ				9	【授業単元】 4日体験3日目 学びと振り返り 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
2	【授業単元】 (A)現場1日体験 (B)精神病院見学 【到達目標】 (A) 指定された領域の職場を体験し、そこで働く公認心理師と精神保健福祉士の役割・仕事内容、そして支援者との関わり方を学ぶ (B) 見学を通して、精神科医療の現場で働く公認心理師と精神保健福祉士の役割、業務を知り、将来の選択肢を広げる				10	【授業単元】 4日体験4日目 学びと振り返り 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
3	【授業単元】 (A)市原青年矯正センター見学 (B)4日体験事前準備 【到達目標】 (A) 矯正センター(刑務所)を見学することで、司法で働いている公認心理師・精神保健福祉士の仕事内容を知る また、センターを見学することで、将来の選択肢を広げる (B) 4日体験プログラムに先駆けて、自己紹介書を作成し、将来の実習・就職に向けた履歴書作成の土台とする				11	【授業単元】 4日体験 全体を通しての振り返り 新年に向けた準備 【到達目標】 4日体験プログラムを終えて、自身の成功事例・失敗事例・課題を振り返り、2年次以降の実習に活かす			
4	【授業単元】 (A)4日体験事前準備 (B)市原青年矯正センター見学 【到達目標】 (A)4日体験プログラムに先駆けて、自己紹介書を作成し、将来の実習・就職に向けた履歴書作成の土台とする (B) 矯正センター(刑務所)を見学することで、司法で働いている公認心理師・精神保健福祉士の仕事内容を知る また、センターを見学することで、将来の選択肢を広げる				12	【授業単元】 講演(医療分野) 【到達目標】 医療領域で活躍している心理職活躍を講演を通じて知ることにより、将来の選択肢を広げる			
5	【授業単元】 2年生連携プログラム発表見学 【到達目標】 1年後の地域連携プログラムに向けて、先輩の発表を聴くことにより、自身のモチベーションを向上させる				13	【授業単元】 講演(産業分野) 【到達目標】 産業領域で活躍している心理職活躍を講演を通じて知ることにより、将来の選択肢を広げる			
6	【授業単元】 4日体験事前準備、目標設定 【到達目標】 4日体験プログラムを臨むにあたって、気構え・身構え・心構えを再度構築する 後期中間時点での、自身の振り返りを行い、後期後半へのモチベーションを向上させる				14	【授業単元】 プログラム全体の振り返り 【到達目標】 見学・講演・体験すべてのプログラムを通して学んだこと、成長できたこと、課題に思ったことを振り返り、2年生の地域連携プログラムへの取り組みにつなげる			
7	【授業単元】 4日体験1日目 学びと振り返り 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる				15	【授業単元】 入学前教育発表に向けた準備 【到達目標】 4日体験を振り返り新1年生に注力するところ、注意するところ等をプレゼンできるようにする			
8	【授業単元】 4日体験2日目 学びと振り返り 【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる				【成績評価の方法と基準】 ①小テスト5点満点×14回 ÷2 =35点満点 ②定期試験 4日体験プレゼンPPT提出 30点満点 ③入学前教育 出席 35点満点				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
上記15回とは別に、チャレンジ前教育(動機付け)とチャレンジ後教育(PPT発表)の集中授業を実施します(合計15コマ)									

授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルティング		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生成AIの基本的な仕組みと活用方法を理解し、Copilot・NotebookLMなどのツールを使って、日常的に情報収集・整理・発信ができるようになる。 また、他の講義において生じた疑問点を生成AIで主体的に調べ、学びを深めることで、「わからないことを放置せず、自ら学ぶ習慣」を身につける。 さらに、プロンプトエンジニアリングの基礎を習得し、自分の思考を深めるための生成AIとの対話技術を身につけることで、将来的に実社会でも活用できる情報リテラシーを養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルティングのラーニングマネージャーが、生成AIの基礎的な仕組みから、Copilot・NotebookLMといったツールの実践的な使い方を段階的に指導する講義									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 NotebookLM基礎	生成AIを使って情報を効率よく検索・整理する力を身につけることができる			9	【授業単元】 生成AI＋CANVA資料作成	生成AIとCanvaを使って資料を作成できる		
	【到達目標】								
2	【授業単元】 NotebookLM活用	講義資料をNotebookLMに登録し疑問点を解消できる			10	【授業単元】 ビジュアルガイド作成1(準備)	Canvaを使ってビジュアルガイドを作成できる1		
	【到達目標】								
3	【授業単元】 生成AI入門	Copilotを使って生成AIを正しく活用できる			11	【授業単元】 ビジュアルガイド作成2(作成)	Canvaを使ってビジュアルガイドを作成できる2		
	【到達目標】								
4	【授業単元】 性格診断＋相談者体験	生成AIとの対話を通じて相談支援の可能性と限界を体験的に学ぶことができる			12	【授業単元】 ビジュアルガイド作成3(発表)	Canvaを使ってビジュアルガイドを作成できる3		
	【到達目標】								
5	【授業単元】 コミュニケーション体験	生成AIとの対話を通じて、自己と他者の理解を深めるコミュニケーション力を育むことができる			13	【授業単元】 ショート動画作成	生成AIを使ってショート動画を作成できる		
	【到達目標】								
6	【授業単元】 生成AIカウンセラー体験	生成AIを活用しカウンセラーの体験を実施できる			14	【授業単元】 各科目の小テスト作成と共有	各科目の講義資料を活用し小テストを作成し共有できる		
	【到達目標】								
7	【授業単元】 NotebookLM活用(小テスト作成)	講義資料を活用し小テストを作成し共有できる			15	【授業単元】 生成AI定期試験	生成AIの活用に関する知識を再確認し、注意点や倫理を理解した上で活用できる		
	【到達目標】								
8	【授業単元】 中テスト生成AIレポート提出	生成AIで調べた内容をもとに、自分なりにレポートを構成・提出できる			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、定期試験はPCを使用した生性AIに関連する選択問題で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
生成AIは便利な道具ですが、鵜呑みにせず自ら考える力が重要です。問い方や使い方を工夫し、主体的な学びに活かしましょう。									

授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生成AIの活用を日常的な学習や思考整理、情報発信に結びつけ、自らの意見や視点をもって活用できる力を養う。ツールごとの特徴を理解し、目的に応じて使い分けながら、プレゼンやレポート作成など実践的なアウトプットに活かせるようになる。さらに、生成AIとの対話を通じて自己理解や他者への伝達力を高め、社会でも通用する情報リテラシーを身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、前期で習得した生成AIの基本的な活用スキルを土台とし、後期では「実際の課題に対してどう活かすか」を重視した応用的な内容に取り組む講義									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 AIリテラシー	身近なAIを知り、適正かつ有効に活用できる			9	【授業単元】 Excel×生成AI1	生成AIを活用してExcelの基本操作ができる1		
	【到達目標】								
2	【授業単元】 AI機械学習	AIブームの背景を知り、実際に体験を通して理解することができる			10	【授業単元】 Excel×生成AI2	生成AIを活用してExcelの基本操作ができる2		
	【到達目標】								
3	【授業単元】 Gemini活用(絵本)	Geminiを活用して絵本の企画・作成・共有を体験し、創造的な表現力とAI活用スキルを高めることができる			11	【授業単元】 生成AIアプリ作成	バイブコーディングを活用しアプリを作成できる		
	【到達目標】								
4	【授業単元】 画像生成AI活用	画像生成AIの仕組みとリスクを理解し、安全かつ創造的に画像を生成・共有する力を身につけることができる			12	【授業単元】 生成AI×実習プレゼン作成1	生成AIを活用し実習プレゼンを作成できる1		
	【到達目標】								
5	【授業単元】 自己PR作成	生成AIを使って自分らしさが伝わる自己PR文と志望動機が作成できる			13	【授業単元】 生成AI×実習プレゼン作成2	生成AIを活用し実習プレゼンを作成できる2		
	【到達目標】								
6	【授業単元】 Word×生成AI1	生成AIを活用してWordの基本操作ができる1			14	【授業単元】 生成AI×実習プレゼン作成3	生成AIを活用し実習プレゼンを作成できる3		
	【到達目標】								
7	【授業単元】 Word×生成AI1	生成AIを活用してWordの基本操作ができる2			15	【授業単元】 生成AI定期試験	生成AIを活用する絵でのリテラシーを確認できる		
	【到達目標】								
8	【授業単元】 Word×生成AI中テスト	生成AIを活用してビジネス文書の書式を確認できる			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、定期試験はPCを使用した生性AIに関連する選択問題で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
生成AIは便利な道具ですが、鵜呑みにせず自ら考える力が重要です。問い方や使い方を工夫し、主体的な学びに活かしましょう。									

授業概要

科目名	レクリエーション・アクティビティ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	金松 和		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体と心のつながりを学ぶ。 身体を動かすことがどう心に変化が生じるのかということを学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
私は民間スポーツクラブにて10年ほど勤務し、その後、大学・高校などの部活動でトレーナー活動を行っています。健康とは体にどのような良いことがあるかを知ってもらえる授業を行ってみたいです。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料					授業時間外では普段の歩き方、立ち方に注意しましょう。猫背・反り腰を腰痛や肩凝りを起こします。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 座学：体を動かす楽しさ・大切さとは 実技：レクリエーション			9	【授業単元】 座学・実技：ストレッチで健康な体になろう！				
	【到達目標】 座学：体を動かす楽しさ・大切さを理解し、文章にすることができる。 実技：レクリエーションを通じて体を動かす楽しさを感じることができる。				【到達目標】 ストレッチの注意点を理解でき、ストレッチの動作を3つ正しい姿勢で実践できる。				
2	【授業単元】 座学：規則正しい生活って何が良い？ 実技：風船パレーをやってみよう！			10	【授業単元】 座学・実技：ストレッチで健康な体になろう！				
	【到達目標】 座学：規則正しい生活を理解し、文章にすることができる。 実技：みんなで風船パレーを楽しくできる。				【到達目標】 1日10分、ストレッチを実践して体の変化に3つ挙げることができる。				
3	【授業単元】 座学：規則正しい生活って何が良い？～睡眠編～ 実技：脳トレ！をやってみよう！			11	【授業単元】 座学・実技：たくさん歩いて健康な体になろう！				
	【到達目標】 座学：規則正しい生活の為に睡眠の大切さを理解し、文章にすることができる。 実技：脳トレ！を実践し、楽しくできる。				【到達目標】 正しい歩き方(姿勢・歩幅など)を理解でき、実践することができる。				
4	【授業単元】 座学：規則正しい生活って何が良い？～運動編～ 実技：筋トレをやってみよう！			12	【授業単元】 座学・実技：たくさん歩いて健康な体になろう！				
	【到達目標】 座学：規則正しい生活の為に運動の大切さを理解し、文章にすることができる。 実技：筋トレを実践し、大切さを感じることができる。				【到達目標】 1日8,000歩、歩いて体の変化を3つ挙げることができる。				
5	【授業単元】 座学・実技：バラスポーツ(ポッチャ)をやってみよう！			13	【授業単元】 座学・実技：正しい痩せ方(ダイエット)を知ろう！				
	【到達目標】 バラスポーツ(ポッチャ)のルールを理解し、みんなで楽しく実践できる。				【到達目標】 正しい痩せ方(ダイエット)について理解し、文章にすることができる。				
6	【授業単元】 実技：バラスポーツ(ポッチャ)をやってみよう！			14	【授業単元】 座学・実技：〇〇ダイエットに挑戦！				
	【到達目標】 バラスポーツ(ポッチャ)をみんなで協力しながら、楽しく実践できる。				【到達目標】 〇〇ダイエットに挑戦して体の変化を3つ挙げることができる。				
7	【授業単元】 座学・実技：ロコモ度チェックをやってみよう！			15	【授業単元】 座学：振り返り 試験：グループワーク				
	【到達目標】 ロコモ度チェックの必要性・測定項目・実施方法・評価方法を理解し、実践できる。				【到達目標】 今までの授業を振り返り、運動がもたらす体の変化を理解し、どうしたら継続できるかをグループで話し合い、発表することができる。				
8	【授業単元】 運動を考えてみましょう！			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 みんなが楽しくできる運動を考え、発表できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
積極的に行動しましょう。									

授 業 概 要

科目名	心理アセスメント演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
学生は以下を目標とする。 1.心理検査を楽しみながら体験している 3.結果を見て「なるほど」と考えることができる 2.基本的な心理検査を手順通りに実施できる 4.人の多様性や個人差を面白いと感じられる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた教員が担当する。本授業は、心理検査や心理実験を「知識として学ぶ」のではなく、「体験して、驚いて、考えて、楽しみながら理解すること」を目的とする。学生自身が検査を受け、実施し、結果を共有することで、心理アセスメントの面白さと奥深さを実感し、将来の臨床・支援場面につながる実践的な視点を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
担当教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 ●オリエンテーション：心理検査っておもしろい？ ・心理検査クイズ大会 「当たる／当たらない」の体験 ・授業全体の流れ紹介 【到達目標】 心理検査に対する不安や先入観を言葉にできる 心理検査が「当たる／当たらない」と感じる体験をする 本科目を安心して参加できる場だと感じる				17・18	【授業単元】 ●性格検査って何が分かる？ ・質問紙と投影法のミニ体験 ・同じ人でも違う見え方 ・解釈の幅を楽しむ 【到達目標】 質問紙法と投影法の違いを体験的に理解する 同じ人でも異なる側面が見えることを楽しむ 解釈に幅があることを受け止める			
	3・4	【授業単元】 ●自分を測ってみよう①：性格チェック ・簡易性格検査の体験 ・結果を見てワイワイ考える ・「当たってる感」の正体 【到達目標】 性格検査を受ける体験を楽しむ 結果を見て自分との共通点や違和感に気づく 人によって受け取り方が異なることを実感する				19・20	【授業単元】 ●心理実験をやってみよう ・錯覚・注意・記憶の実験 ・自分がだまされる体験 ・心のクセに気づく 【到達目標】 簡単な心理実験に主体的に参加する 自分が錯覚や思い込みに影響されることを実感する 心の仕組みへの興味を深める		
5・6		【授業単元】 ●自分を測ってみよう②：ストレス・気分 ・ストレス尺度体験 ・日による変動を考える ・数値で心を測る不思議さ 【到達目標】 心理状態が数値化される体験をする 気分や状態が状況によって変動することに気づく 尺度結果をそのまま信じすぎない視点をもつ					21・22	【授業単元】 ●観察してみよう ・行動観察ゲーム ・見ているつもりで見えていない体験 ・観察の楽しさと怖さ 【到達目標】 行動観察を意識して行う体験をする 観察と解釈が異なることに気づく 観察の難しさと面白さを言葉にする	
	7・8	【授業単元】 ●人を測るってむずかしい？ ・説明の仕方で結果が変わる体験 ・指示の違いによる反応の差 ・検査者の影響を体感する 【到達目標】 検査の説明の仕方が反応に影響することを体感する 検査者の態度や声かけの重要性に気づく 「測る側」の難しさを前向きに感じる				23・24		【授業単元】 ●アセスメントごっこ ・架空ケースをみんなで分析 ・情報を足したり引いたり ・見立てが変わる面白さ 【到達目標】 架空ケースをもとに意見交換を楽しむ 情報の量や種類で見立てが変わることを体感する 他者の視点から新たな気づきを得る	
9・10		【授業単元】 ●知能検査をやってみよう① ・知能検査の一部体験 ・できた／できないの感情共有 ・緊張感を味わう 【到達目標】 知能検査の一部課題を実際に体験する 課題中の緊張感や感情の動きを味わう できた／できない以外の気づきを言語化する					25・26	【授業単元】 ●伝えてみよう ・結果をやさしく説明する練習 ・専門用語禁止ルール ・分かってもらえる喜び 【到達目標】 専門用語を使わずに結果を説明してみる 相手の反応を見ながら伝える体験をする 「伝わる」ことの難しさと喜びを味わう	
	11・12	【授業単元】 ●知能検査をやってみよう② ・ペアでの実施体験 ・「時間」「声かけ」の難しさ ・やってみて分かる大変さ 【到達目標】 知能検査を検査者として実施してみる 手順や時間管理の難しさを体感する 実施後に自分の課題点を振り返る				27・28		【授業単元】 ●心理難になったつもりで ・ロールプレイ総合演習 ・検査→説明まで通し体験 ・「できた感」を味わう 【到達目標】 心理難役として一連の流れを体験する これまでの学びを実践で使ってみる 自分なりの成長を実感する	
13・14		【授業単元】 ●結果を見てみよう ・プロフィール作成 ・数字から人を想像する ・思い込みに気づく 【到達目標】 簡単なプロフィールを作成できる 数値から人の特徴を想像する体験をする 思い込みや決めつけに気づく					29・30	【授業単元】 ●定期試験(ふりかえり)：心理検査は楽しかった？ ・一番印象に残った体験 ・できるようになったこと共有 ・次の学びにつなげる 【到達目標】 授業を通しての印象や変化を振り返る 心理アセスメントへの抵抗感の変化に気づく 今後の学習や実習につながる視点をもち	
	15・16	【授業単元】 ●中テスト 【到達目標】 これまでの授業内容を説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(15・16回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・デバイスは十分な充電を行って講義を受けて下さい。 ・グループワークでの討論等に積極的に参加して下さい。									

授業概要

科目名	カウンセリングの基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
●カウンセリングの見立てと方針についての考え方を理解できる。 ●様々な事例を設定したロールプレーを通して、査定、見立て、方針を立てることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療現場や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、カウンセリングの理解や支援方法を習得する授業を行う。さらに、ロールプレーを通して、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指す。講義は、事例を設定しロールプレーを行う授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:カウンセリングの見立てと方針 創元社					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、この授業の目的について理解する。 カウンセリングとは何か？				9	【授業単元】 事例8 見立てをまとめる			
	【到達目標】 この授業の目的と進め方について理解する。 公認心理師が行うカウンセリングについて説明できる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、状態像、自分像、心の動きを観察し、見立てをまとめることができる。			
2	【授業単元】 事例1 事例とタイトルとあらすじ				10	【授業単元】 事例9 目標を定める			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 事例にタイトルをつけることで、その事例の特徴を表現することができる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの今後の目標を定めることができる。			
3	【授業単元】 事例2 情報を集める				11	【授業単元】 事例10 方法を選択する			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中でどのような情報が足りていないのかを把握し、カウンセリングを通して必要な情報を集めることができる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、目標に向けた方法を選択することができる。			
4	【授業単元】 事例3 曖昧な情報を明確化する				12	【授業単元】 事例11 構造を整える。			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で曖昧な表現を明確にすることができる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、目標に向けて構造を整えることができる。			
5	【授業単元】 事例4 得られた情報を整理する				13	【授業単元】 事例12 途中経過において評価する。			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、得られた情報を整理することができる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、途中経過を評価することができる。			
6	【授業単元】 事例5 状態像を査定する				14	【授業単元】 事例13 最終時に評価する。			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの状態像を想像することができる。					【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、最終時に評価することができる。			
7	【授業単元】 事例6 人物像を査定する				15	【授業単元】 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントがどういった人物かを想像することができる。					【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト(15満点)、事例7 心の動きを理解する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 中テスト(これまでの振り返り) 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントやカウンセラーの心の動きを観察し理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。ロールプレーをたくさんしていきます。欠席や遅刻がないようにしてください。									

授業概要

科目名	大学院対策講座Ⅰ	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期集中	担当 教員	福井博一 久保田康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1・2・3年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
学生には、精神保健福祉士の資格取得は勿論だが、公認心理師・臨床心理士の資格を取得し、心の専門家を目指してもらいたい。そのために心理系大学院に進学し、必要な学び、経験を培ってほしい。本講座においては、本気で大学院進学を目指す学生を対象としている。自分を励み、高め、行動し、あなた自身の到達目標である心理系大学院入学を達成してほしい。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
前期終了・後期終了後に集中講座を来校型で実施する。英語と心理学は交互に行う。講師による課題等も出るが、期限内に質の高い課題を提出し、小・中・定期試験は講師の指示に従う。また、参加者同士の情報交換(大学院情報、勉強方法等)は積極的に行い、継続した学習ができるよう互いのモチベーションを高めてほしい。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：英語：公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則108キーワード100 心理英語編(講談社)、院試単語(ナツメ社) 心理学：合格ナビ 公認心理師・臨床心理士 心理学用語集(東京図書)					暗記すること、課題においては、主体的に時間を確保し努力を惜しまない。 大学院選び、研究計画書、面接等は常勤職がサポートするため、声掛けを自ら行うこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション：大学院入試の概要、入試のポイントの説明(心理学・英語・研究計画書・面接等)、大学院選び、本講座の説明、教科書について、登録するかの確認				17・18	【授業単元】 心理学 心理学の応用～その1～			
	【到達目標】 入試の流れ、ポイントについて理解する 入試の勉強に対するモチベーションを高める					【到達目標】 「臨床心理学の基礎」分野の過去問をマスターすることができる。			
3・4	【授業単元】 英語 院入試対策(英語)授業の進め方について 自分の実力を知る(文法・英単語)				19・20	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の㊸・英単語(基礎単語・心理英単語)			
	【到達目標】 院入試までの英語の学習の仕方について理解する 授業の進め方について理解する 自分の今の実力について理解する					【到達目標】 英文読解をざっと読んで概要を掴むことができるようになる。 英文を素早く読めるようにこれまで習った単語や文法を復習し理解する。			
5・6	【授業単元】 心理学 大学院入試・心理学の傾向と対策 心理学の基礎～その1～				21・22	【授業単元】 心理学 心理学の応用～その2～			
	【到達目標】 ・大学院入試における心理学の傾向と対策を理解することができる。 ・「感覚・知覚・認知」分野の過去問をマスターすることができる。					【到達目標】 「精神医学」分野の過去問をマスターすることができる。			
7・8	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の㊸⑨・英単語(基礎単語・心理英単語)				23・24	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の㊸⑩・英単語(基礎単語・心理英単語)			
	【到達目標】 英文読解を正確に読むために正確な文法を習得する。 心理英文読解を読むために必要な基本的な英単語と心理英単語の語彙数を増やす。					【到達目標】 英文読解をざっと読んで概要を掴むことができるようになる。 英文を素早く読めるようにこれまで習った単語や文法を復習し理解する。			
9・10	【授業単元】 心理学 心理学の基礎～その2～				25・26	【授業単元】 心理学 心理学の応用～その3～			
	【到達目標】 「学習・人格・情動」分野の過去問をマスターすることができる。					【到達目標】 「心理査定」分野の過去問をマスターすることができる。			
11・12	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の㊸⑪・英単語(基礎単語・心理英単語)				27・28	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の11・12・英単語(基礎単語・心理英単語)			
	【到達目標】 英文読解を正確に読むために正確な文法を習得する。 心理英文読解を読むために必要な基本的な英単語と心理英単語の語彙数を増やす。					【到達目標】 英文読解をざっと読んで概要を掴むことができるようになる。 英文を素早く読めるようにこれまで習った単語や文法を復習し理解する。			
13・14	【授業単元】 心理学 心理学の基礎～その3～				29・30	【授業単元】 心理学 心理学の応用～その4～			
	【到達目標】 「動機・知能」「社会心理学」分野の過去問をマスターすることができる。					【到達目標】 「心理療法」分野の過去問をマスターすることができる。			
15・16	【授業単元】 英語 英文読解(ヘルガードの心理学・大学院対策テキストより) 英文法の㊸⑫・英単語(基礎単語・心理英単語)				【成績評価の方法と基準】 本講座においては科目単位はないが、 学習の習熟度を確認するために、小テスト、中テスト、定期試験を実施ことがある。 その際は、講師の指示に従うこと。				
	【到達目標】 英文読解を正確に読むために正確な文法を習得する。 心理英文読解を読むために必要な基本的な英単語と心理英単語の語彙数を増やす。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書・筆記用具・デバイスを持参するように。 疑問質問は後回しにしない。									

授業概要

科目名	障害者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	幾田こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・障害者福祉の歴史的背景と変遷、理念、制度の発展過程について理解できる。 ・障害者福祉に関連する法制度やサービスの概要について、具体的な内容を説明できる。 ・障害福祉の現場で果たす役割や支援のあり方について、自身の考えを持つことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
地域活動支援センターで精神保健福祉士・社会福祉士として相談援助業務にあたる傍ら、地域連携による障害者支援を担うソーシャルワーカーについて大学院にて研究を修めた教員が、実践現場や国家試験を視野に入れ、障害者福祉の基礎的な知識と理論に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】 「2027年版 みんなが欲しかった！社会福祉士の教科書 共通科目編」(TAC出版)					・インターネット等で日頃から障害者や障害児に関する話題に触れ、興味関心を持つようにすること。 ・授業後はレジュメ・資料・参考図書の内容を復習し、小テストの内容について再度確認を行うこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害に対する考え方(1)			9	【授業単元】 障害者福祉に関する法律(1)				
	【到達目標】 障害の法的な定義、特性を理解する。				【到達目標】 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法、発達障害者支援法の概要を理解する。				
2	【授業単元】 障害に対する考え方(2)			10	【授業単元】 障害者福祉に関する法律(2)				
	【到達目標】 ICFとICIDH、医学モデルと社会モデルを学び、その違いについて理解する。				【到達目標】 障害者総合支援法の概要と障害福祉計画について理解する。				
3	【授業単元】 障害者福祉の理念			11	【授業単元】 障害者福祉に関する法律(3)				
	【到達目標】 ノーマライゼーションの理念について、歴史的背景から理解する。 障害者福祉に関する重要な概念を理解する。				【到達目標】 障害者総合支援法の具体的なサービス(介護給付、訓練等給付)について理解する。				
4	【授業単元】 障害者福祉の歴史(1)			12	【授業単元】 障害者福祉に関する法律(4)				
	【到達目標】 日本の障害者福祉の発展過程について、各時代の状況や背景を踏まえて理解する。				【到達目標】 障害者総合支援法の具体的なサービス(自立支援医療、地域生活支援事業)について理解する。 障害支援区分とサービスの支給決定の仕組みについて理解する。				
5	【授業単元】 障害者福祉の歴史(2)			13	【授業単元】 障害者福祉に関する法律(5)				
	【到達目標】 障害者権利条約の内容と成立までの過程について理解する。 障害者基本法について、背景や経緯を含めて理解する。				【到達目標】 障害者差別解消法の概要を理解する。 障害者虐待防止法の概要を理解する。				
6	【授業単元】 障害者の生活実態			14	【授業単元】 障害者に対する支援の方法				
	【到達目標】 障害者の生活実態について統計データを基に把握する。 障害者世帯のニーズと支援のあり方について理解する。				【到達目標】 障害者の相談支援機関や相談支援専門員の役割について理解する。 障害者福祉に関する支援者の役割について知る。				
7	【授業単元】 障害者やその家族を取り巻く社会環境と課題			15	【授業単元】 これまでのまとめ/定期試験				
	【到達目標】 障害者が生活する上で直面する様々な困難について理解する。 障害者虐待の実態を知り、理解する。				【到達目標】 これまでのまとめ、定期試験、解答解説				
8	【授業単元】 これまでのまとめ/中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでのまとめ、中テスト、解答解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この科目では「障害のある人の生活をどう支えるか」という視点を持ち、そこから制度やサービスの仕組みを理解することが大切です。また、他の科目と関連する内容も多く含まれていますので、日常目にするニュースや出来事を学びと結びつけ、自らの関心を広げていくという姿勢が役立ちます。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、ソーシャルワーク専門職として法的な位置づけを元に専門性について理解する 2、ソーシャルワークの定義や構成要素について理解する 3、ソーシャルワークの原理や概念について理解する 4、ソーシャルワーク専門職としての倫理について理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、ソーシャルワーカーとしての倫理観や心構えなどを、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形での授業進行を心がける。また、社会福祉士としての考え方を介護支援専門員との視点を交えて伝えていけるよう授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】 最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの基盤と専門職(中央法規出版) タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料				【授業時間外における学習】 予習・復習として、ソーシャルワーク専門職としてどのような資質が必要となり、どのような役割を果たすのかを日常的に考察する。授業での発表や提出は事前通知する。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 導入ガイダンス 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)			9	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(1)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職について理解できる ・社会福祉士法及び介護福祉士法について理解できる ・精神保健福祉士法について理解できる				【到達目標】 ・ソーシャルワーク前史について理解できる ・ソーシャルワークの基礎確立期について理解できる				
2	【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)			10	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(2)				
	【到達目標】 ・社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について理解できる ・社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシーについて理解できる				【到達目標】 ・ソーシャルワークの発展期について理解できる ・ソーシャルワークの展開期と統合化について理解できる				
3	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念(1)			11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(3)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの定義の変遷について理解できる ・ソーシャルワークについて理解できる ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について理解できる				【到達目標】 ・日本における社会事業前史について理解できる ・日本における社会事業の基礎確立期について理解できる ・日本におけるソーシャルワークの展開について理解できる				
4	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念(2)			12	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(1)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークを構成する要素について理解し、説明することができる				【到達目標】 ・専門職の倫理概念について理解できる ・各種倫理綱領について理解できる				
5	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(1)			13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(2)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの原理について理解できる ・人権を尊重し養護することの意味について理解できる ・集団的責任を果たすことについて理解できる ・多様性の尊重について理解できる				【到達目標】 ・各種倫理綱領について理解できる				
6	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(2)			14	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(3)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの理念について理解できる ・当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて理解できる				【到達目標】 ・倫理的ジレンマについて理解できる				
7	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(3)			15	定期試験 前期授業の振り返り				
	【到達目標】 ・当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて理解できる				【到達目標】 ・前期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り				
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする)			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。					
	【到達目標】			・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】 ソーシャルワークの専門職の基礎となる分野です。「専門職の価値とは何か」を理解できるよう心掛けてください。部分的に、授業内でグループワークを取り入れ、専門職として考える力も習得できるよう進行する予定です。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	山田 伸
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおける専門的相談援助(ソーシャルワーク)について理解する。 2. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の1つであるコミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)におけるスーパービジョンについて理解する。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
参考図書:最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で専門的相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。 授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
コマ 授業計画 【授業単元】 オリエンテーション 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) ソーシャルワーカーが学ぶ理論 1 【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する。 ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する ・ソーシャルワーク固有の視点とは何かを考える				コマ 授業計画 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 アセスメント① アセスメントの意義と目的アセスメントの方法 アセスメントの留意点 9 【到達目標】 ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・「生活者」や「生活」への接近の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会環境への視点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ ・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ			
2 【授業単元】 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) システム理論 【到達目標】 ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論を援用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する				10 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 アセスメント② アセスメントの方法 アセスメントの留意点 【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働の重要性について学ぶ ・体系的で多角的な視点から個人と社会に迫るアセスメントについて学ぶ			
3 【授業単元】 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) 生態学理論 【到達目標】 ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステムの視座とは何かを理解する ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する				11 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 プランニング① プランニングの意義と目的 プランニングのプロセスと方法 【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する			
4 【授業単元】 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 【到達目標】 ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本的な内容を理解する ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する				12 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 プランニング② プランニングのプロセスと方法 プランニングにおける留意点 【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する			
5 【授業単元】 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける専門的相談援助(ソーシャルワーク) 【到達目標】 ・人の生活に生じる課題は、「人と環境の交互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルから捉える視点を養う				13 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 支援の実施 モニタリング 効果測定 【到達目標】 ・支援の実践における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する			
6 【授業単元】 人と環境の交互作用に関する理論と専門的相談援助(ソーシャルワーク) ソーシャルワークの目標と展開過程 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ソーシャルワークの目標について理解する ・ソーシャルワークの展開過程について、その概要を理解する ・人が他者から援助を受け入れるプロセスを学ぶ				14 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 支援の終結 支援の結果評価 アフターケア 【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
7 【授業単元】 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) ケースの発見 エンゲージメント(インテーク) 【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリー・クライアント、援助希求力の弱い人たちへの支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践におけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				15 【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
8 【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・前期第1〜7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
専門職として実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、専門職として考え、語り、行動する際によりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。							

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	山田 伸
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
1. 人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおける専門的相談援助(ソーシャルワーク)について理解する。 2. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の1つであるコミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)におけるスーパービジョンについて理解する。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
参考図書:最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 【共通科目】(日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版				他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、専門的相談援助(ソーシャルワーク)は人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ① ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特徴、歴史的な概要、流れについて理解する 生活モデル、治療モデル、ストレスモデル			9	【授業単元】 ケアマネジメント(ケースマネジメント) ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法 【到達目標】 ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する		
2	【授業単元】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ② ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ			10	【授業単元】 グループを活用した支援 グループワークの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 グループワークとセルフヘルプグループ 【到達目標】 ・グループワークが何を目的に実践されるのかを学ぶ ・グループ・プロセスを理解して、実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフヘルプグループの区別を理解する		
3	【授業単元】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③ ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ			11	【授業単元】 コミュニティワーク コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 コミュニティワークの理論的系譜とモデル 【到達目標】 ・地域の課題に対するコミュニティワークの目的について理解する ・コミュニティワークの展開過程、各技法の特徴やねらい、計画や評価の視点、手法を理解する ・住民が主体となる地域福祉活動の意義を学ぶ ・コミュニティワークの歴史を学ぶ		
4	【授業単元】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ④ ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ			12	【授業単元】 ソーシャルアドミニストレーション ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 組織介入・組織改善の実践モデル 組織運営における財源の確保 【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入・組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する		
5	【授業単元】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ⑤ ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ(アドラー心理学、ロゴセラピー 交流分析、神経言語プログラミング)			13	【授業単元】 ソーシャルアクション ソーシャルアクションの概念とその意義 コミュニティ・オーガナイズイング 【到達目標】 ・事例を通じて、ソーシャルアクションの基本を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニティ・オーガナイズイングの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニティ・オーガナイズイングの系譜を理解する		
6	【授業単元】 ソーシャルワークの面接 面接の意義と目的 面接の方法と実際 【到達目標】 ・日常会話と面接の特徴の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する			14	【授業単元】 スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンの意義、目的、方法 コンサルテーションの意義、目的、方法 【到達目標】 ・スーパービジョンの意義、目的、機能について理解する ・スーパービジョンの方法について理解する ・コンサルテーションの意義と目的、方法について理解する ・コンサルテーションとスーパービジョンの違いを理解する		
7	【授業単元】 ソーシャルワークの記録 記録の意義と目的 記録の内容 第3節 記録のフォーマット 【到達目標】 ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・さまざまな記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ			15	【授業単元】 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える		
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(学習問題)			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
専門職として実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、専門職として考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきます。							

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関 芳隆/幾田 こずえ/各務 勝博
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を理解することができる ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面接技術の基本を習得することができる 演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
保健医療分野・福祉分野にて社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員としてソーシャルワークを実践した教員達が、ソーシャルワークの基礎となるマインドや対人援助技術をグループワークを中心に実践的な授業を実施する							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
授業配布資料				他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を習得すること			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 面接の基本技法① 個人の価値観とソーシャルワークの専門職としての価値観		
	【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる				【到達目標】 ・個人の価値観とソーシャルワークの専門職の相違を説明することができる		
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの使命と役割			10	【授業単元】 面接の基本技法② 「言語」コミュニケーションと「非言語」コミュニケーションの活用		
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての「価値観」を説明することができる ・ソーシャルワーカーが活躍する場所と役割をすることができる				【到達目標】 ・言語、非言語コミュニケーションについて理解し、非言語の箇所の背景とその後の反応について考えることができる		
3	【授業単元】 ソーシャルワーカーの「倫理」			11	【授業単元】 面接の基本技法③ 信頼関係構築に向けた適切な質問技法		
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーの行為には「価値」や「倫理」が存在していることを知り、倫理綱領と行動規範を理解しうえ、事例問題に取り組むことができる				【到達目標】 ・クライアントに対する質問の種類を知り、技術を実施することができる		
4	【授業単元】 自己理解と自己覚知①			12	【授業単元】 面接の基本技法④ 「言い換え」と「要約」		
	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる				【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる		
5	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			13	【授業単元】 模擬インテーク面接準備		
	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる				【到達目標】 ・模擬インテーク面接の準備 ・面接の基本技術を使い、面接の組み立てを考えることができる		
6	【授業単元】 自己理解と自己覚知③			14	【授業単元】 定期試験		
	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自分が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる				【到達目標】 ・グループで模擬インテーク面接を実施する		
7	【授業単元】 他者理解 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用			15	【授業単元】 模擬インテーク面接の振り返り		
	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレンスを考えることができる				【到達目標】 ・模擬インテーク面接を振り返り、面接時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる		
8	【授業単元】 中間振り返り、中テスト			【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点について振り返る			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
他科目で学んだ内容を含み、科目を横断的に展開していくので、分からない部分は自身で調べ、復習するようにしてください。							

授業概要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①精神保健福祉領域における「障害」の概念と、社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)や社会的障壁の歴史的変遷について論理的に説明できる。②ソーシャルワークの代表的な実践アプローチ(心理社会的アプローチ、問題解決アプローチ、生活モデル、ストレングスマodel等)と、それを提唱した主要な人物の理論を比較し、具体的に説明できる。③日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づき、自己決定の尊重、パートナーリズムの回避、秘密保持などの職業倫理と、現場で生じる倫理的ジレンマについて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と価値、障害者の権利擁護とエンパワメント、精神保健福祉に関する法制度とサービス、精神保健福祉の歴史と展望などについて、実例を交えた講義を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神保健福祉の原理(最新 精神保健福祉士養成講座 5)(中央法規出版)					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、精神保健福祉に関するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーションと精神保健福祉の概念				9	【授業単元】 援助関係の形成とバイステックの7原則			
	【到達目標】 本科目の目的と、心理カウンセラーが精神保健福祉を理解できる意義。障害者福祉の思想と原理の歴史的展開を導入として理解できる。					【到達目標】 面接の基礎となるラポール形成と、個別化、意図的な感情表出、統制された情緒的関与、受容、非審判的態度などの7原則を実践的に理解できる。			
2	【授業単元】 「障害」の概念とパラダイムシフト				10	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論①(初期の理論)			
	【到達目標】 医学モデルから社会モデルへの転換、ICF(国際生活機能分類)に基づく障害の捉え方と、谷中輝雄が提唱した「生活のしづらさ」の概念を理解できる。					【到達目標】 リッチモンドの「社会診断」、ロビンソンの機能主義、ホリスが提唱した「状況の中にある人」を中心とする心理社会的アプローチを理解できる。			
3	【授業単元】 社会的排除とノーマライゼーションの理念				11	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論②(問題解決・課題中心)			
	【到達目標】 ニイリエの「ノーマライゼーションの8つの原則」や、ヴォルフエンズベルガーの「ソーシャルロール・パロリゼーション」など、歴史的な理念を理解できる。					【到達目標】 パールマンの「4つのP」に基づく問題解決アプローチ、リードとエプシュタインの課題中心アプローチを比較・理解できる。			
4	【授業単元】 日本の精神保健医療の歴史①(戦前～戦後)				12	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論③(システム論・生態学)			
	【到達目標】 1900年の精神病患者監護法(私宅監置)から1950年の精神衛生法制定に至る、精神障害者の処遇の歴史を理解できる。					【到達目標】 ビンカスとミナハンの「4つのシステム」、ジャーメインとギッターマンのエコロジカル・アプローチ(生活モデル)について理解できる。			
5	【授業単元】 日本の精神保健医療の歴史②(現代の動向)				13	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論④(現代的アプローチ)			
	【到達目標】 1984年の宇都宮病院事件を契機とした1987年の精神保健法への改正と、任意入院制度の創設など人権擁護強化の背景を理解できる。					【到達目標】 ラップらが提唱したストレングスマodel、ソロモンのエンパワメントアプローチ、ホワイトのナラティブアプローチを習得する。			
6	【授業単元】 精神保健福祉士の誕生と法的責務				14	【授業単元】 マクロ領域のアプローチとコミュニティワーク			
	【到達目標】 1997年の精神保健福祉士法成立の経緯。法の目的、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、誠実義務(2010年追加)、資質向上の責務を理解できる。					【到達目標】 個別支援(ミクロ)から地域・社会(マクロ)への展開。コミュニティオーガニゼーション、ソーシャルアクション、ソーシャルプランニングの概念を理解できる。			
7	【授業単元】 専門職の倫理と価値(倫理綱領)				15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づき、クライアントの自己決定の尊重、パートナーリズムの回避、専門職の権力性と倫理的ジレンマを事例から理解できる。					【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、〇×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士の主な支援対象者となる人と社会の捉え方」に関する知識の整理と定着を図れること。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授業概要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①精神病患者監護法から精神保健福祉法へと至る日本の精神医療・福祉の歴史的背景と、関連法規（生活保護法、障害者総合支援法など）の基本的な枠組みを概説できる。②アドボカシー（権利擁護）の概念を理解し、ケースアドボカシー、クラスアドボカシー、セルフアドボカシー、ピアアドボカシー等の機能と実践方法について説明できる。③多職種連携（チーム医療）における各種モデル（マルチディシプリナリ、インターディシプリナリ、トランスディシプリナリ等）の違いを理解し、心理職として他の専門職と協働する意義を説明できる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と価値、障害者の権利擁護とエンパワメント、精神保健福祉に関する法制度とサービス、精神保健福祉の歴史と展望などについて、実例を交えた講義を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神保健福祉の原理（最新 精神保健福祉士養成講座 5）（中央法規出版）					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、精神保健福祉に関するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 権利擁護（アドボカシー）の機能と実践 【到達目標】 セルフ、ピア、ケース、クラス、シチズンアドボカシーの違いを理解し、合理的配慮の概念とともに権利擁護の実践手法を理解できる。				9	【授業単元】 就労支援と産業精神保健 【到達目標】 障害者雇用促進法、ハローワーク、就労移行支援事業所の役割と、IPS（個別職業紹介とサポート）、EAP（従業員支援プログラム）、リワーク等の支援を理解できる。			
2	【授業単元】 精神保健医療に関する法制度と人権 【到達目標】 精神保健福祉法における各種入院形態（任意入院、医療保護入院、措置入院等）の成立要件と、隔離・身体拘束の制限等に関する人権擁護の仕組みを理解できる。				10	【授業単元】 地域生活支援とリカバリーの概念 【到達目標】 包括型地域生活支援プログラム（ACT）、クラブハウスモデルなどの実践例と、全人的回復を目指す「リカバリー」の概念を理解できる。			
3	【授業単元】 障害者の生活支援に関する法制度 【到達目標】 障害者基本法、障害者差別解消法、および障害者総合支援法に基づくサービス提供の仕組み（居宅介護、地域活動支援センター等）について理解できる。				11	【授業単元】 現代の精神保健課題①（依存症と家族支援） 【到達目標】 アルコール・薬物依存症の理解（ハームリダクション）、家族の課題（共依存、イネイブラー）、セルフヘルプグループとヘルパーセラピー原則を理解できる。			
4	【授業単元】 経済的支援に関する法制度（生活保護等） 【到達目標】 救護法から続く生活保護法の歴史と8種類の扶助（生活、医療、住宅等）、生活困窮者自立支援法、障害基礎年金等の制度概要を理解できる。				12	【授業単元】 現代の精神保健課題②（社会的孤立とトラウマ） 【到達目標】 セルフネグレクト、ヤングケアラーなどの複合的課題と、トラウマインフォームドアプローチに基づく心理的・福祉的支援の重要性を理解できる。			
5	【授業単元】 権利擁護を支える関連制度 【到達目標】 成年後見制度、日常生活自立支援事業、各種虐待防止法（高齢者、障害者、児童）などの法的メカニズムと専門職の通報義務を理解できる。				13	【授業単元】 専門職の成長（スーパービジョンとバーンアウト） 【到達目標】 専門職のバーンアウト予防と成長のためのスーパービジョン（管理的、教育的、支持的機能）や、ピアスーパービジョン、コンサルテーションの意義を理解できる。			
6	【授業単元】 医療・福祉機関における専門職の役割 【到達目標】 医師、保健師、看護師、公認心理師、作業療法士等の業務独占・名称独占の定義と、社会復帰調整官等の関連職種役割について理解できる。				14	【授業単元】 精神保健福祉の原理の総合復習 【到達目標】 これまでの知識を総動員し、実際の国家試験事例を用いて、法制度の活用、アドボカシー、アプローチの選択を総合的に復習し、連続性のある知識を理解できる。			
7	【授業単元】 多職種連携（チームアプローチ）の理論と実践 【到達目標】 マルチディシプリナリ、インターディシプリナリ、トランスディシプリナリ・モデルの違いと、チームビルディング（タックマンモデル等）を理解できる。				15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り（まとめ） 【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説 【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士の主な支援対象者となる人と社会の捉え方」に関する知識の整理と定着を図れること。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、〇×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援 第2版」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション				9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における家族の課題と支援～その1～			
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の目標・予定・進め方について理解できる。 ・国家試験過去問の傾向と対策について理解することができる。 ・精神保健とは、ということについて理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・返却・講評された中間試験を振り返り、後半の課題を明確にすることができる。 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その1～。			
2	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その1～				10	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その2～			
	【到達目標】 ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その2～。			
3	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その2～				11	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その3～			
	【到達目標】 ・社会・時代の変化と精神保健の課題の変化について考え、理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・思春期の家族関係・友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自らの人間関係にについて振り返ることができる。			
4	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その3～				12	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その4～			
	【到達目標】 ・社会的孤立の問題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・性と心の結びつきについて理解し、説明することができる。 ・精神保健における性行動への対応について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その4～				13	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その5～			
	【到達目標】 ・社会的貧困の問題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・性別違和について理解し、説明することができる。 ・性別違和の当事者の生きづらさとその支援について理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その5～				14	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その6～			
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の歴史について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・結婚に関する意識調査に基づく結婚観の変化について理解し、説明することができる。 ・結婚により生じる精神保健の問題について理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その6～				15	【授業単元】 ・定期試験			
	【到達目標】 ・エリクソンのライフサイクルについて理解し、説明することができる。 ・各発達段階の課題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・前期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・中テスト				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とうかがわれるかを想定しながら授業に参加してください。									

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。									
①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。									
②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援 第2版」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・精神保健における学校教育の課題と支援～その1～ 【到達目標】 ・後期後半の授業の目的・予定について理解することができる。 ・現代の学校教育における諸課題について理解し、説明することができる。				9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における職場の課題と支援～その1～ 【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その1～。			
2	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・いじめの問題とその対策について理解し、説明することができる。				10	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その2～。			
3	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その3～ 【到達目標】 ・学校における暴力問題について理解し、説明することができる。 ・非行問題について理解し、説明することができる。				11	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その3～ 【到達目標】 ・過労死の問題と対策について理解し、説明することができる。			
4	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その4～ 【到達目標】 ・子どもの自殺とその対策について理解し、説明することができる。				12	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その4～ 【到達目標】 ・事業場における勤労者のメンタルヘルス対策について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その5～ 【到達目標】 ・教職員の精神疾患の現状について理解し、説明することができる。 ・教職員の支援について理解し、説明することができる。				13	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その1～ 【到達目標】 災害支援について理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その1～ 【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その1～。				14	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・緩和ケアについて理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その2～ 【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その2～。				15	【授業単元】 ・定期試験 【到達目標】 ・後期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・中テスト 【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60％、毎回授業の小テスト40％の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とどうかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授業概要

科目名	精神障害リハビリテーション論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	伊藤 純子		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解することができる。 ②精神科リハビリテーションの理念と方法を説明できる。 ③精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係性を理解することができる。 ④当事者や家族に対する理解を深めることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
生活や就労支援、精神障害者人権センター等での支援経験を持つ教員が、実践例や当事者の体験談等のエピソードを交え、実践的な理解が促進されるよう、わかりやすい授業を行う。また、理論と実践との間にあるギャップを前提に、精神保健福祉士(ソーシャルワーカー)に求められる揺らぎの力(ジレンマ)に目を向け、精神保健福祉士として働く上でのやりがいやたのしさを伝えることに焦点を充てる。その中で、精神障害者は、本来は支え合えるはずの地域や社会の中で、生きづらさを感じながら生活しているという現実を知り、考察する上で、当事者中心の視点を大切にした対話的・参加型の授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 精神保健福祉士養成講座 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 精神障害リハビリテーション論					授業で学んだ知識を仲間と共有したり、日常生活や対人関係において活用する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】テキストP2～8 (1) 科目オリエンテーション (2) 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク 【到達目標】 (1) 本科目の概要と意義を理解することができる (2) 精神障害リハビリテーションの要素と特徴を理解することができる (3) 精神保健ソーシャルワークの機能を理解することができる (4) 精神障害リハビリテーションと精神保健ソーシャルワークの違いを理解することができる				9	【授業単元】テキストP139～161 社会的リハビリテーションプログラム 【到達目標】 社会的リハビリテーションプログラムについて具体的に学び、理解することができる 社会的リハビリテーションが実施されている機関について把握することができる 精神障害リハビリテーションプログラムへの精神保健福祉士のかかわりを知ることができる			
2	【授業単元】テキストP9～32 (1) 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 (2) 精神障害リハビリテーションの理念と定義 【到達目標】 (1) 精神障害リハビリテーションの原理を理解することができる、(2) ソーシャルワークの価値を理解することができる、(3) 精神障害リハビリテーションにおける多職種連携について理解することができる、(4) リハビリテーションの理念と定義を理解することができる、(5) 精神障害リハビリテーションに至る歴史的経緯と定義について理解することができる、(6) 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの考え方について理解することができる				10	【授業単元】テキストP163～173 教育的リハビリテーションプログラム 【到達目標】 特別支援教育の実施機関について理解を深めることができる 特別支援教育における各プログラムについて理解を深めることができる 障害のある学生への支援について学ぶことができる			
3	【授業単元】テキストP33～52 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 【到達目標】 (1) 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの概要を理解することができる (2) 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの実践概要を理解することができる (3) 4つのリハビリテーションの関連性について考えることができる				11	【授業単元】テキストP174～195 家族支援プログラム 【到達目標】 精神障害リハビリテーションにおける家族支援の視点について学ぶことができる 精神障害リハビリテーションにおけるさまざまな家族支援プログラムの方法について学ぶことができる セルフヘルプグループとしての家族会と精神保健福祉士の支援のあり方について学ぶことができる			
4	【授業単元】P54～75 精神障害リハビリテーションの対象 チームアプローチ 【到達目標】 (1) 精神障害リハビリテーションの対象について理解することができる、(2) 精神障害者の法制度上の位置づけについて理解することができる、(3) 精神障害者の特性について理解することができる、(4) チームアプローチと多職種連携の概要を把握することができる、(5) 各専門職の役割を理解する、(6) チームアプローチの方法や課題を学ぶことができる				12	【授業単元】テキストP196～206 リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 【到達目標】 マインドフルネスの概要とエクササイズを理解し、実践に活かすことができる オープンダイアログの考え方を理解することができる リハビリ・カレッジについて理解することができる			
5	【授業単元】テキストP76～88 精神障害リハビリテーションのプロセス 【到達目標】 (1) 精神障害リハビリテーションは、多職種による包括的な支援システムであることを理解することができる (2) そのプロセスが利用者との共同作業であることを理解することができる (3) その評価は、個人レベルと事業所レベルの評価を含む複合的なものである				13	【授業単元】P208～231 精神障害リハビリテーションの動向と実際 【到達目標】 自身の経験を活かして活動するピアサポーターの多様性を理解することができる 精神障害者の家族を支援する活動の意義を学ぶことができる ケアラーがケアを行うことによって受ける影響について理解を深めることができる			
6	【授業単元】テキストP90～111 医学的リハビリテーションプログラム 【到達目標】 (1) 精神科医療機関で実施されるリハビリテーションプログラムの目的と内容を理解することができる、(2) 精神科医療機関で行われているリハビリテーションプログラムにかかわる専門職や診療報酬のための施設基準や算定基準について理解することができる、(3) 各プログラムにおける精神保健福祉士の関与について理解することができる				14	【授業単元】 各授業の振り返り 【到達目標】 各授業で学んだことを振り返り整理すると共に、学んだことや理解したことを記憶に定着させることができる 定着させた概念や手法を実践に活かすことに挑戦することができる 定期試験に備えることができる			
7	【授業単元】テキストP112～138 職業的リハビリテーションプログラム 【到達目標】 (1) 職業リハビリテーションの概要と援助過程を理解することができる (2) 精神障害における職業リハビリテーションの支援対象を把握することができる (3) 職業リハビリテーションプログラムの内容と実際に学ぶことができる				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 第1回から第14回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる			
8	【授業単元】テキストP2～138 中テスト 【到達目標】 第1回から第7回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
●知識の定着に向けてキーとなる概念やポイントとなるキーワードを理解し、自分の考えを述べられることを目標とする。 ●小テストでは、各回のレジュメで最低限覚えておいてほしいキーとなる概念やキーワードを中心に出题する。									

授業概要

科目名	公認心理師の職責	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①公認心理師の役割を理解し、法的義務、倫理に基づき、各分野の公認心理師の業務を知り、多職種連携や地域連携を視野に入れた活動として業務を捉える視点を身につける。 ②自己の課題発見、生涯学習の準備を行えるよう意識を責任感を持って取り組む姿勢を身につける。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士としてさまざまな年代の人達の、さまざまな相談に応じ、現在教育分野・福祉分野・私設カウンセリングルームにて臨床活動を行なっている講師が、これから公認心理師を目指す人たちにとって、公認心理師の土台となる考え方や倫理観を考えながらグループワークを通してさまざまな見方を知り、実践に役立つ授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:公認心理師の職責 ミイネルヴァ書房					日々の生活の中で、自分自身の考え方や行動を振り返り、心理師としての倫理観を取り入れながら生活する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・対人援助職とは？公認心理師とは？				9	【授業単元】 司法分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)			
	【到達目標】 ・この科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・対人援助職・公認心理師としての「職責」について説明することができる。					【到達目標】 ・司法の分野で求められていることを説明できる。 ・司法の分野での具体的な業務を説明できる。			
2	【授業単元】 公認心理師の役割とは？				10	【授業単元】 産業労働における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)			
	【到達目標】 ・公認心理師法について説明できる。 ・5分野の中で求められている公認心理師の役割を説明できる					【到達目標】 ・産業の分野で求められていることを説明できる。 ・産業の分野での具体的な業務を説明できる。			
3	【授業単元】 守秘義務とは？				11	【授業単元】 多職種連携と地域連携			
	【到達目標】 ・職業倫理について第一原則から七原則まで説明できる。 ・第40・41・42条の意味を理解し、説明できる。					【到達目標】 ・連携による支援について説明できる。 ・チームにおける公認心理師の役割について説明できる。			
4	【授業単元】 安全確保とは？				12	【授業単元】 支援者としての自己課題発見・解決能力①			
	【到達目標】 ・支援を要する者等の安全を確保するための具体的な配慮を説明できる					【到達目標】 ・自分自身を振り返り自分自身の課題を説明できる。 ・自分自身の課題への対処法を説明できる。			
5	【授業単元】 保健医療分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				13	【授業単元】 支援者としての自己課題発見・解決能力②			
	【到達目標】 ・保健医療の分野で求められていることを説明できる。 ・保健医療の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・自分自身を振り返り自分自身の課題を説明できる。 ・自分自身の課題への対処法を説明できる。			
6	【授業単元】 福祉分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				14	【授業単元】 生涯学習への準備と公認心理師の今後の展開			
	【到達目標】 ・福祉の分野で求められていることを説明できる。 ・福祉の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・生涯にわたる自己研鑽の必要性について説明できる。 ・今後の公認心理師の役割について説明できる。			
7	【授業単元】 教育分野における公認心理師の役割とは？ (グループ発表)				15	【授業単元】 定期テスト 振り返り			
	【到達目標】 ・教育の分野で求められていることを説明できる。 ・教育の分野での具体的な業務を説明できる。					【到達目標】 ・これまでの振り返りをし、自分の疑問点を説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト お金と生涯設計				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・これまでを振り返り、疑問点などを共有し、説明できる。 ・心理師の賃金と生涯設計について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
公認心理師としての基本的な内容になります。自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。グループ発表やロールプレーなどしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。									

授業概要

科目名	心理学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿相周一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 “こころ”の諸機能や発達過程、“こころ”の健康・不適応、心理学的支援を理解し、説明できることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、医療(特に依存症の再発予防や犯罪の再犯防止)や教育等の領域で臨床活動に携わる。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論ミネルヴァ書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目オリエンテーション			9	【授業単元】 動機付け				
	【到達目標】 心理学とはどのような学問かを説明できる				【到達目標】 動機付けを説明できる				
2	【授業単元】 “こころ”の健康・不適応、ストレスについて			10	【授業単元】 学習				
	【到達目標】 ストレス理論を説明できる				【到達目標】 学習を説明できる				
3	【授業単元】 心理学の歴史(1)			11	【授業単元】 記憶				
	【到達目標】 科学的な心理学誕生以前の歴史を説明できる				【到達目標】 記憶を説明できる				
4	【授業単元】 心理学の歴史(2)			12	【授業単元】 言語と思考				
	【到達目標】 科学的な心理学誕生以降を説明できる				【到達目標】 言語と思考を説明することができる				
5	【授業単元】 神経・脳			13	【授業単元】 発達				
	【到達目標】 神経・脳を説明できる				【到達目標】 発達を説明できる				
6	【授業単元】 感覚・知覚			14	【授業単元】 パーソナリティと知能				
	【到達目標】 感覚・知覚を説明できる				【到達目標】 パーソナリティと知能を説明できる				
7	【授業単元】 感情			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説				
	【到達目標】 感情を説明できる				【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている				
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授 業 概 要

科目名	心理学概論	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 “こころ”の諸機能や発達過程、“こころ”の健康・不適応、心理学的支援を理解し、説明できることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、医療(特に依存症の再発予防や犯罪の再犯防止)や教育等の領域で臨床活動に携わる。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論 ミネルヴァ書房 参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 “こころ”の健康、不適応、ストレスについて			9	【授業単元】 心理療法(行動療法、認知行動療法)				
	【到達目標】 “こころ”の健康、不適応、ストレスを説明できる				【到達目標】 行動療法と認知行動療法の概要を説明できる				
2	【授業単元】 精神医学・精神疾患の歴史(1)			10	【授業単元】 心理療法(人間性心理学)				
	【到達目標】 精神医学と精神疾患の歴史を説明できる				【到達目標】 人間性心理学の概要を説明できる				
3	【授業単元】 精神医学・精神疾患の歴史(2)			11	【授業単元】 社会心理学				
	【到達目標】 精神医学と精神疾患の歴史を説明できる				【到達目標】 社会心理学を説明できる				
4	【授業単元】 心理アセスメント			12	【授業単元】 各領域の臨床現場				
	【到達目標】 心理アセスメントを説明できる				【到達目標】 各領域の臨床現場を説明することができる				
5	【授業単元】 心理療法概論			13	【授業単元】 “こころ”の健康について				
	【到達目標】 心理療法の概要を説明できる				【到達目標】 “こころ”の健康を説明できる				
6	【授業単元】 心理療法(精神分析1)			14	【授業単元】 心理学総論				
	【到達目標】 精神分析の概要を説明できる				【到達目標】 心理学を説明できる				
7	【授業単元】 心理療法(精神分析2)			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説				
	【到達目標】 精神分析の概要を説明できる				【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている				
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授業概要

科目名	臨床心理学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	望月勇希		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床心理学の代表的理論について学び説明ができる。現代社会における心の健康にかかわる問題の多様さを理解し、心理学的支援の重要性やその留意点、そのために必要なコミュニケーションについても理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で10年以上の経験のある講師がその実務経験を活かし、それぞれの領域特有の心理学的支援の事例を取り入れながら臨床心理学の基礎的な内容について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
なし					ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立てて心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 公認心理師と臨床心理学				9	【授業単元】 心の奥深くを探る			
	【到達目標】 公認心理師と臨床心理学についてそれぞれ関係性についても説明できる。					【到達目標】 精神分析的アプローチについて学び説明できる。様々な学派があることを説明できる。			
2	【授業単元】 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法				10	【授業単元】 行動で心の動きをとらえる 考え方を変えて気持ちも変える			
	【到達目標】 臨床心理学理論の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学び説明できる。					【到達目標】 行動療法的アプローチと認知行動療法的アプローチについて学び説明できる。行動療法の流れや認知モデルについて説明できる。			
3	【授業単元】 心理学的支援法のさまざまな理論と方法、その発展				11	【授業単元】 人間関係のなかで心をとらえる			
	【到達目標】 心理学的支援法のさまざまな理論と方法があることを説明できる。					【到達目標】 システム論、家族療法について学び説明できる。事例についてシステム論を用いた説明ができる。			
4	【授業単元】 臨床心理学の対象となる問題				12	【授業単元】 心を構成する社会の物語を理解する			
	【到達目標】 心理学的問題の背景や成因を説明できる。					【到達目標】 ナラティブ・アプローチについて学び説明できる。社会構成主義の視点から社会問題について述べることができる。			
5	【授業単元】 生涯発達と心理的問題				13	【授業単元】 心理学的支援法における留意点			
	【到達目標】 生涯発達と心理的問題について学び説明できる。ライフサイクルを自身に照らして説明できる。					【到達目標】 心理学的支援にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学び説明できる。			
6	【授業単元】 危機介入と支援者への心理的支援				14	【授業単元】 社会のなかでの臨床心理学的支援			
	【到達目標】 セルフケアや心の健康、メンタルヘルス対策について説明できる。					【到達目標】 医療・、保健、福祉、教育、産業、司法・矯正など様々な領域で臨床心理学的支援が行われていることを説明できる。			
7	【授業単元】 安心できる関係を大切にする				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説			
	【到達目標】 来談者中心療法(パーソン・センタード・アプローチ)を説明できる。3つの条件を説明できる。					【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 総復習によって1回から7回までの臨床心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループや個人、ペアなどで体験しながら学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。									

授業概要

科目名	知覚・認知心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人の感覚や知覚などについてやその機序や障害、人の認知や思考などについてやその機序や障害について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育などの多領域で臨床経験のある講師が、その実務経験を活かし、心理学の知識が心理学的支援にどのようにつながるかについても交え授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認心理師の基礎と実践⑦[第7巻] 知覚・認知心理学箱田裕司編 遠見書房					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 知覚・認知心理学を学ぶ前に				9	【授業単元】 第7章 記憶(グループ発表)			
	【到達目標】 知覚や認知の定義について説明できる。					【到達目標】 記憶の構造やワーキングメモリー、長期記憶や忘却、顕在記憶と潜在記憶について説明できる。			
2	【授業単元】 第1章 知覚・認知心理学とは				10	【授業単元】 第8章 知覚の表象と構造(グループ発表)			
	【到達目標】 知覚・認知心理学の歴史や研究法について説明できる。					【到達目標】 宣言的知識と手続き的知識、スキーマとスクリプトについて説明できる。			
3	【授業単元】 第2章 感覚(グループ発表)				11	【授業単元】 第9章 イメージの性質と機能(グループ発表)			
	【到達目標】 感覚の種類や構造、特性について説明できる。					【到達目標】 イメージについてやその性質や機能について説明できる。			
4	【授業単元】 第3章 視知覚(グループ発表)				12	【授業単元】 第10章 問題解決・推論・意思決定(グループ発表)			
	【到達目標】 目の構造や網膜の役割について説明できる。					【到達目標】 問題解決や推論、判断とN35:X39意思決定について心理学的に説明できる。			
5	【授業単元】 第4章 聴知覚(グループ発表)				13	【授業単元】 第11章 認知の個人差(グループ発表)			
	【到達目標】 聴覚の仕組みや聴覚情報の処理される過程について説明できる。					【到達目標】 認知の個人差、IQとEQについて説明できる。			
6	【授業単元】 第5章 感性(グループ発表)				14	【授業単元】 第12章 知覚・認知の障害(グループ発表)			
	【到達目標】 感性についてや快、不快、感性と創造の関係について説明できる。					【到達目標】 視知覚や記憶の障害について説明できる。			
7	【授業単元】 第6章 注意(グループ発表)				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説			
	【到達目標】 注意についてや注意の仕組みや機序について説明できる。					【到達目標】 科目の重要なポイントが確認できる。 自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 総復習によって1回から7回までの知覚・認知心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。ロールプレーをたくさんしていきます。欠席や遅刻がないようにしてください。									

授業概要

科目名	学習・言語心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
○人の行動が変化するプロセスについて説明できる ○言語の習得におけるしくみを説明することができる								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、グループでの発表やグループワークを通して、支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。授業は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、映像や技法の実技を取り入れていく。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
教科書:「学習・言語心理学(ミネルヴァ書房)」				自分自身の役割を明確にし、協力し、グループ発表を行う。担当する内容を理解し、まとめ、スライドを作成すること。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション・学習の定義と学習の段階			9	【授業単元】 学習への動機づけ(グループ発表)			
	【到達目標】 ・この授業の進め方や取り組み方について説明できる ・「学習」の定義を説明できる				【到達目標】 ・内発的動機づけ・外発的動機づけについて説明できる ・原因帰属の4つのパターンについて説明できる			
2	【授業単元】 古典的条件づけ(グループ発表)			10	【授業単元】 言語の発生の基盤(グループ発表)			
	【到達目標】 ・古典的条件付けについて説明できる ・古典的条件付けの臨床的应用について説明できる				【到達目標】 ・チョムスキーの生成文法理論について説明できる ・共同注意について説明できる ・ブローカ野とウェルニッケ野について説明できる			
3	【授業単元】 道具的条件付け(グループ発表)			11	【授業単元】 話し言葉の発達(グループ発表) 書き言葉の発達			
	【到達目標】 ・道具的条件付けについて説明できる ・シェイピングについて説明できる				【到達目標】 ・IDSの特徴について説明できる。 ・心の理論について説明できる ・外言・内言について説明できる			
4	【授業単元】 知識・概念の獲得と変容(グループ発表)			12	【授業単元】 リテラシーと生涯発達(グループ発表)			
	【到達目標】 ・素朴概念について説明できる ・認知的基盤とは何かについて説明できる				【到達目標】 ・機能的リテラシーについて説明できる ・リテラシーの発達を支える3つの機能について説明できる。			
5	【授業単元】 学習と問題解決(グループ発表)			13	【授業単元】 第二言語・外国語の習得(グループ発表)			
	【到達目標】 ・問題解決とはどういうことを説明できる ・アルゴリズムとヒューリスティックについて説明できる				【到達目標】 ・バイリンガルのタイプについて説明できる ・第二言語習得に影響を与える要因について説明できる			
6	【授業単元】 社会や集団での学習(グループ発表)			14	【授業単元】 学習と言語の障害(グループ発表)			
	【到達目標】 ・熟達の過程について説明できる ・協働学習を評価する方法について説明できる				【到達目標】 ・ICFの提示する障害の概念について説明できる ・構音障害、吃音症、場面緘黙について説明できる			
7	【授業単元】 学習の熟達と身体化(グループ発表)			15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
	【到達目標】 ・熟達化とはどういうことが説明できる ・身体化とはどういうことが説明できる				【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている			
8	【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中間テストを実施する			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第7回目までの授業内容を理解できている							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
授業で学んだことを通して、自分や身近な人の言動を振り返る習慣をつけていただきたい								

授業概要

科目名	発達心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・生涯における心と身体の発達と各発達段階の特徴を説明することができる。 ・認知機能や感情、社会性をどのようにして獲得していくのかを説明することができる。 ・自己と他者と関係性の作り方を説明することができる。 ・各発達段階を知ることによって支援者となった際のクライアントをイメージすることが出来る。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた経験を活かして、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材:配布資料					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目の全体概要の説明 虐待のメカニズムを知り、なぜ発達心理学を学ぶ必要があるのかを知る				9	【授業単元】 青年期まで 道徳性の発達 自我同一性の発達			
	【到達目標】 現代社会における虐待問題を知る。 虐待のメカニズムについて説明することができる。 発達心理学を学ぶことの重要性を説明することができる。					【到達目標】 道徳性、自我同一性について理解し、説明することができる。 道徳性においては、外の世界を知的にとらえる力、他者の視点に立って考えることの大切さを説明することができる。			
2	【授業単元】 各発達段階における課題を知ろう				10	【授業単元】 青年期以降(青年期と成人期、中年期、老年期) 青年期の恋愛、家族形成、中年期危機、死の受容プロセスについて			
	【到達目標】 成熟優位説、環境優位説、環境閾値説、補続説の違いを説明することができる 発達段階説を理解し、これから学ぶ発達心理学の全体像を把握する。					【到達目標】 青年期の恋愛や成人期以降の家族形成、中年期、老年期の心理社会的課題について説明することができる。 老年期の必要な支援について説明することができる。			
3	【授業単元】 胎児期と乳児期				11	【授業単元】 知能について知能検査と発達検査について			
	【到達目標】 胎児期における考えるべきリスクを知る。 赤ちゃんの持つ防衛本能について説明することができる。 新生児の視力、聴力、学習力を説明することができる。					【到達目標】 子どもの心身の発達の程度を調べる知能検査や発達検査の概要を説明することができる。 支援において検査がどのように活用できるかを説明することができる。			
4	【授業単元】 乳児期 原始反射				12	【授業単元】 発達障害の理解と支援① 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)			
	【到達目標】 乳児期に見られる原始反射について説明することができる。 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。					【到達目標】 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)について説明することができる。 障害によりどんな困難や悩みが生じるかを想像することができる。			
5	【授業単元】 乳児期 愛着形成				13	【授業単元】 発達障害の理解と支援② 発達障害者(児)の支援機関や療育方法			
	【到達目標】 その後の心の発達、人間関係に大きく影響を及ぼす愛着形成について、その重要性を説明することができる。					【到達目標】 発達障害による二次障害について説明することができる。 発達障害者(児)について必要な支援について説明できる。			
6	【授業単元】 乳児期と児童期 言葉の発達				14	【授業単元】 これまでのまとめ			
	【到達目標】 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。					【到達目標】 第13回目までの授業内容を説明することができる。 定期試験に向けて、これまでの授業のポイントを振り返る。			
7	【授業単元】 幼児期から児童期の社会化(遊びと認知の発達) ジェンダーとセクシュアリティ				15	【授業単元】 定期試験及び解説			
	【到達目標】 幼児期から児童期における心理社会的課題について説明することができる。 児童期の必要な支援について説明することができる。					【到達目標】 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。									

授業概要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルティング		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1年次に学んだ情報リテラシーおよび生成AI活用の基礎を踏まえ、情報の収集・整理・要約・記録・資料作成といった基本的な実践力を身につける。目的に応じて必要な情報を集め、信頼性を確認しながら整理し、生成AIを補助的に活用して、わかりやすい報告文や発表資料としてまとめることができるようになることを目標とする。また、著作権、個人情報保護、AI利用時の注意点など、適切な情報活用に必要な基礎的態度を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルティングのラーニングマネージャーが、1年次の基礎内容を振り返りながら、2年次で必要となる情報活用の基礎力を強化する講義を実施する。具体的には、情報の収集方法、信頼性の確認、NotebookLM等を用いた資料の整理、生成AIを活用した要約、メモや記録の整理、報告文の作成、Canva等を用いた発表資料の作成、発表演習を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 1年次の振り返りと2年次の学習目標				9	【授業単元】 資料作成① テーマ設定			
	【到達目標】 1年次の学習内容を振り返り、2年次の授業の目的を理解できる。					【到達目標】 目的と対象者に応じたテーマ設定ができる。			
2	【授業単元】 実務で求められる情報活用力				10	【授業単元】 資料作成② 構成作成			
	【到達目標】 学習・実習・就職活動で必要となる情報活用力を説明できる。					【到達目標】 生成AIを活用しながら、わかりやすい資料構成を作成できる。			
3	【授業単元】 情報収集と信頼性の見極め				11	【授業単元】 資料作成③ スライド作成			
	【到達目標】 目的に応じて情報を収集し、信頼性を判断できる。					【到達目標】 Canva等を活用し、伝わりやすいスライドを作成できる。			
4	【授業単元】 NotebookLMを活用した資料整理				12	【授業単元】 発表の基礎と伝え方			
	【到達目標】 資料を整理し、必要な情報を要約・抽出できる。					【到達目標】 相手に伝わる説明の仕方を理解し、実践できる。			
5	【授業単元】 AIを活用した要約と比較整理				13	【授業単元】 テーマ別発表準備			
	【到達目標】 複数の情報を比較し、わかりやすく整理できる。					【到達目標】 収集・整理した情報を発表用にまとめることができる。			
6	【授業単元】 メモ・記録の整理方法				14	【授業単元】 発表演習			
	【到達目標】 メモや記録から要点を抜き出し、整理できる。					【到達目標】 作成した資料を用いて発表し、改善点を把握できる。			
7	【授業単元】 報告文・要約文の作成基礎				15	【授業単元】 前期定期試験			
	【到達目標】 簡潔で読みやすい報告文・要約文を作成できる。					【到達目標】 前期に学んだ情報収集・整理・資料作成・発表の基礎を総合的に確認できる。			
8	【授業単元】 前期中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、定期試験はPCを使用した生性AIに関連する選択問題で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前期前半で学んだ情報整理・要約・AI活用の基礎を確認できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
生成AIは便利な道具ですが、鵜呑みにせず自ら考える力が重要です。問い方や使い方を工夫し、主体的な学びに活かしましょう。									

授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
前期に身につけた情報収集・整理・資料作成の基礎をもとに、実習・現場・就職活動などを見据えた、より実践的な情報活用力を身につける。実務文書の作成、自己分析、自己PR、業界研究、調査課題への取り組みを通して、必要な情報を整理し、自分の考えを適切に文章や資料で表現し、他者にわかりやすく伝えることができるようになることを目標とする。また、生成AIを活用する際には、内容を確認・修正しながら適切に活用し、自ら判断して情報を扱う姿勢を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋産学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、前期に習得した基礎を発展させ、実習や進路準備を意識した実践的な課題に取り組む。具体的には、実習や現場で役立つ情報整理、業界研究・企業研究、記録や報告を想定した実務文書作成、自己分析、自己PR・志望動機作成、調査課題の設定・情報収集・資料作成・発表を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 前期の振り返りと後期の学習計画				9	【授業単元】 調査課題① テーマ設定			
	【到達目標】 前期の学びを整理し、後期の目標を明確にできる。					【到達目標】 関心のあるテーマについて、適切な調査課題を設定できる。			
2	【授業単元】 実習・現場で役立つ情報整理				10	【授業単元】 調査課題② 情報収集			
	【到達目標】 実習や現場で必要な情報を整理する方法を理解できる。					【到達目標】 調査に必要な情報を収集し、要点を整理できる。			
3	【授業単元】 業界研究・企業研究の基礎				11	【授業単元】 調査課題③ 構成作成			
	【到達目標】 就職活動や進路選択に必要な情報を収集・整理できる。					【到達目標】 調査内容を相手に伝わる順序で構成できる。			
4	【授業単元】 実務文書作成① 記録と報告				12	【授業単元】 調査課題④ 資料作成			
	【到達目標】 事実を正確に伝える実務文書の基本を理解できる。					【到達目標】 発表用資料や提出資料を作成できる。			
5	【授業単元】 実務文書作成② 文書の改善				13	【授業単元】 発表・相互評価①			
	【到達目標】 生成AIを補助的に使いながら、文書をわかりやすく修正できる。					【到達目標】 発表を行い、他者の発表に対して適切な評価や意見交換ができる①			
6	【授業単元】 自己分析と経験の棚卸し				14	【授業単元】 発表・相互評価②			
	【到達目標】 自分の経験・強み・課題を整理できる。					【到達目標】 発表を行い、他者の発表に対して適切な評価や意見交換ができる②			
7	【授業単元】 自己PR・志望動機作成				15	【授業単元】 後期定期試験			
	【到達目標】 自分の考えを文章でわかりやすく表現できる。					【到達目標】 通年で学んだ情報活用・文書作成・資料作成・発表・AI活用の理解を総合的に確認できる。			
8	【授業単元】 後期小テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、定期試験はPCを使用した生性AIに関連する選択問題で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 後期前半で学んだ実務文書作成・自己分析の内容を確認できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
生成AIは便利な道具ですが、鵜呑みにせず自ら考える力が重要です。問い方や使い方を工夫し、主体的な学びに活かしましょう。									

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域連携プログラムの意義や目的を理解し、対人援助職として必要な対人スキルを身に着け、主体的に実習に取り組む準備を行い、実習を通じて自己理解と成長を確認することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、実習前に学生に必要なスキルと事前準備を整え、学生が実習中に日々の授業での学びをを活かして主体的な姿勢で実習に臨むことができるよう指導する。また、実習を通して自己の課題を明確にし、自己の成長を確認できる機会を作る。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
【対人援助職に必要な人間力の育成と地域連携プログラムの実習準備、振り返りと学びの発表】									
<地域連携プログラムの内容> ★ねらい 学生自身が実習先を主体的に調査・開拓し、実習依頼、活動計画、実践、振り返りまでを行うプロジェクト型学習(PBL)である。 学生は地域社会や対人援助現場との関わりを通して、心理支援職として必要な主体性、コミュニケーション能力、協働力、社会人基礎力を実践的に身につける。 また、実習先との調整や実践活動を通して、自ら課題を発見し、他者と関係を築きながら行動する力を養うことを目的とする。 本科目は「学校から与えられた実習」に参加するのではなく、学生自らが実習機会を創出する過程を重視し、心理支援者としての姿勢形成とキャリア意識の育成を図る。 ★取り組む内容 心理5領域の中で自分の将来像に合った実習先で、現場ニーズに合わせた社会貢献につながる活動を通して、対象の理解と支援の実際を現場体験する(実習) 1. 実習先調査・開拓 心理・福祉・教育・地域支援等の分野について調査を行い、自身の関心や将来像を踏まえながら実習先候補を検討する。 その後、電話・メール・訪問等を通して実習依頼を行い、社会人として必要な基本的コミュニケーションを実践的に学ぶ。 2. 実習計画・準備 実習目的や目標を整理し、実習先との調整を行う。 活動内容や役割を確認しながら、心理支援職として求められる態度や倫理について理解を深める。 3. 実習実践 社会貢献を念頭に、実際の現場において、現場のニーズに合った対人援助や支援活動を体験する。 現場職員との関わりや利用者理解を通して、支援の実際について学ぶ。 4. 振り返り・成果共有 実習後は活動記録や振り返りを行い、自身の成長や課題について整理する。 また、成果発表を通して他者の経験からも学び、多角的視点を養う。 ★現場体験日程 前期:9月2日(水)～9月25日(金)※実習前後教育を含む ※うち10日間 ※後期は、実習報告 ★活動を通じた振り返り・活動報告会 現場体験で取り組んだ内容については、後期に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
グループワークやペアワーク等で、主体的に課題解決に臨む姿勢を求める。					・講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は課題提出とする。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間
【授業を通じての到達目標】									
今まで学んだ知識・スキルを活かし、自己の将来像に合った領域のニーズを把握して、自分にできる社会貢献を主体的に探索・実践する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
<地域連携プログラムの内容>									
★ねらい 学生自身が実習先を主体的に調査・開拓し、実習依頼、活動計画、実践、振り返りまでを行うプロジェクト型学習(PBL)である。 学生は地域社会や対人援助現場との関わりを通して、心理支援職として必要な主体性、コミュニケーション能力、協働力、社会人基礎力を実践的に身につける。 また、実習先との調整や実践活動を通して、自ら課題を発見し、他者と関係を築きながら行動する力を養う。 本科目は「学校から与えられた実習」に参加するのではなく、学生自らが実習機会を創出する過程を重視し、心理支援者としての姿勢形成とキャリア意識の育成を図る。									
★取り組む内容 心理5領域の中で自分の将来像に合った実習先で、現場ニーズに合わせた社会貢献につながる活動を通して、対象の理解と支援の実践を現場体験する(実習)									
4月～5月 前期①～⑤ 20コマ ・公認心理士・PSWの役割と活動領域を理解する ・自分がどんな実習をしたいか考える(どこで、どのような社会貢献ができるか) ・地域の資源の調査 ・実習先候補探し ・実習依頼(メール・電話等)⇒その後学校が本依頼									
6月 前期⑥～⑨ 16コマ ・実習目標の設定 ・実習における倫理理解(守秘義務・個人情報保護) ・専門職としての情報収集、アセスメント方法の理解 ・実習記録の書き方の理解 ・実習計画書の作成 ・自分に必要な力、実習でつけたい力									
7月 前期⑩～⑫ 12コマ ・施設訪問…オリエンテーションにうかがう(情報収集しアセスメントにつなげる) ・施設、利用者のニーズの把握 ・実習計画書の調整 ・実習要綱の確認 ・実習計画発表準備									
9月2～4日 実習前教育 12コマ ・実習記録の準備 ・直前チェック ・実習前計画発表会準備 ・発表									
9月5日～22日 10日間の現場実習 40コマ									
9月23日～25日 実習後教育 12コマ ・実習計画の評価 ・自己の課題への取り組みとその成果 ・報告会の準備									
10月1日～ 各自で発表資料まとめ 10月22日・10月29日 地域連携プログラム報告会実施 ※まとめと報告会で8コマ									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。 また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して評価を行う。 評価の基準等は学則に準ずる。				

授業概要

科目名	スクールソーシャルワーク論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・不登校、いじめ、虐待、ヤングケアラーなど子どもを取り巻くさまざまな課題に対し、学校という拠点を切り口にソーシャルワーカーとしてどのような支援が必要とされているのかを説明できるようになる									
・具体的な事例に関する学びを通し、環境に関わるという視点を踏まえたミクロ、メゾ、マクロレベルでの支援の展開やとりわけ実践の現場で必要とされるケース会議のファシリテートについて具体的なスキルを習熟する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
スクールソーシャルワーカーとしての実践経験や専門学校や大学での講義経験のある講師がソーシャルワーカーとしての基盤を踏まえながら現場でのさまざまなエピソードを例に挙げ、実践的なスキル									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基本的に基本的に教員が教材を配布する 【参考】三訂版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト 他					子どもや家族の課題また昨今の教育体制や学校のあり方について注意を払って、自らの問題意識を確認しておくこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業とシラバスの説明(学校とソーシャルワーク)				9	【授業単元】 学校現場における他職種の実践を知る			
	【到達目標】 スクールソーシャルワークとは何かを説明することができる					【到達目標】 学校現場における他職種の実践を知り、それぞれの価値観でなされる支援を尊重できるようになる			
2	【授業単元】 ソーシャルワークのグローバル定義と子どもの権利条約				10	【授業単元】 スクールソーシャルワーカーによる環境への働きかけ			
	【到達目標】 ソーシャルワークのグローバル定義を踏まえた上でソーシャルワーカーは子どもの権利条約の具現化のために現場でどのように寄与できるのかを他者と共有できるようにする					【到達目標】 スクールソーシャルワーカーが面接をすることの多い母親の置かれた状況と支援の方向性について捉えなおし、支援の可能性を拡げる			
3	【授業単元】 スクールソーシャルワークの専門性(実践スタンダード)				11	【授業単元】 事例研究(エコマップの作製)			
	【到達目標】 スクールソーシャルワーク実践スタンダードの必要性を理解し、その具体的なあり方について認識することができる					【到達目標】 事例をもとにエコマップを作成し、ケースを環境の視点からとら得直すことができるようになる			
4	【授業単元】 組織におけるスクールソーシャルワーカーの立場と関連職種				12	【授業単元】 ケース会議の準備(ネットワーキング・関係づくり)			
	【到達目標】 学校組織におけるソーシャルワーカーの位置づけを踏まえながら、学校に関わる関連職種についてその専門性や立場を理解する。					【到達目標】 利用者のためにケース会議をする意味を確認し、どのような関係機関にどのような主旨で参加を依頼するのかを他者に説明できるようになる			
5	【授業単元】 学校種ごとの特徴と関連機関				13	【授業単元】 ケース会議の運営①(ファシリテート・問題の所在を明らかにする)			
	【到達目標】 学校種ごとの特徴とそこで生ずる課題、及び連携をとることの多い関係機関について具体的な状況をイメージしながら言語化することができる					【到達目標】 関係機関それぞれのアセスメントや取り組みを共有し、チームで総合的に状態像を捉えられるようになる。またそのプロセスをファシリテートできるようにする			
6	【授業単元】 不登校をとりまく課題を知る				14	【授業単元】 ケース会議の運営②(支援計画をたて役割分担をする)			
	【到達目標】 不登校新聞を参考に、不登校当事者の実際を知り、子どもや保護者の聴きとられていない声や本当のニーズを理解し、他者にも具体的に伝えることができる					【到達目標】 経過報告で終わらないケース会議をするために、何ができるかということ念頭に、会議を運営する視点を養う。その際支援者の自己満足のための会議では無い姿勢を徹底できるようにする。			
7	【授業単元】 スクールソーシャルワークの個別支援の実践				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 スクールソーシャルワークの個別支援の援助のプロセスについてソーシャルワークの視点から説明をすることができる					【到達目標】 前半、後半の内容を含めた定期テストを行う			
8	【授業単元】 スクールソーシャルワーカーの多様な支援(ミクロ・メゾ・マクロ)中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 スクールソーシャルワーカーには多様な支援のレベルがあることを認識しそれを中テストの中で復習をしつつ、前半の学びを総合的に捉えることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
隣接領域でソーシャルワークという専門性を活かすには専門的な価値観とスキルの習熟がより現実的に必要とされることを踏まえ、学びを確実に実践に活かす心構えで受講すること									

授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
使用教材は授業ごとに配布する				授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	【授業単元】 イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス教養法～トインビーホール			9	【授業単元】 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策をの変化を見る			
	【到達目標】 ・エリザベス教養法の内容が説明できるようになる。 ・新教養法の3つの原則を上げることができる。 ・トインビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。				【到達目標】 ・高齢化率の変遷を説明できる ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる ・働き方の変遷を説明できる。			
2	【授業単元】 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワイマール共和国の誕生			10	【授業単元】 社会保障予算の抑制委へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正(1990)			
	【到達目標】 ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結末と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワイマール共和国誕生の意義を解説できる				【到達目標】 ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。			
3	【授業単元】 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」			11	【授業単元】 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」			
	【到達目標】 ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ベヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味を端的に説明できる。				【到達目標】 ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1996「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる			
4	【授業単元】 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり			12	【授業単元】 新自由主義的改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008:後期高齢者医療制度 2004:年金改革			
	【到達目標】 ・レーガノミクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。				【到達目標】 ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあつたかを説明できる ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる			
5	【授業単元】 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908)			13	【授業単元】 安倍政権下の社会福祉政策			
	【到達目標】 ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べることができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史的意味を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。				【到達目標】 ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言える ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス 新・三本の矢の意味するところを説明できる			
6	【授業単元】 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942)			14	【授業単元】 社会的包摂と地域共生社会の構築へ			
	【到達目標】 ・方面委員制度・済世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べることができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の事情を述べられる。				【到達目標】 ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係を解説できる ・「一億総活躍プラン」と地域共生社会の関係を解説できる・「我が事・丸ごと」地域共生社会 ・「我が事・丸ごと」地域共生社会をイメージできる			
7	【授業単元】 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961)			15	【授業単元】 ・社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験			
	【到達目標】 ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生活保険法の改正点を挙げることができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる				【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973)			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会「962年勧告」の重要部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しが始まった背景を解説できる			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。								

授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 福祉政策において重要な概念・理念				9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状			
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマライゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる					【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる			
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース)				10	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題			
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる					【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設につて解説できる			
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 分配の正義				11	【授業単元】 福祉国家の類型			
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる					【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・ティトマスの福祉国家の分類を説明できる ・E・アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウィレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる			
4	【授業単元】 福祉サービスの供給				12	【授業単元】 アメリカの社会保障制度			
	【到達目標】 ・ウルフェンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行棒理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMIについて説明できる ・ベストフの「福祉トライアングル」を説明できる					【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる			
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 福祉政策と教育政策				13	【授業単元】 イギリスの社会保障制度			
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を説明できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する					【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる			
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P233～238				14	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制			
	【到達目標】 ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べるができる。 ・住宅政策の課題をあげられる					【到達目標】 ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルト改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる			
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 P245～				15	【授業単元】 ・社会福祉政策と理念の総復習 ・後期試験			
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる					【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P239～244				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションのそれぞれの違いを明確に説明できる。 ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	遠藤龍／幾田こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の考え方を理解する。 ・地域福祉推進のための、目的、福祉行政の実施体制と役割、福祉計画について理解する。 ・包括的支援体制におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療・福祉分野におけるソーシャルワーク実務と専門教育経験のある教員が、実践現場を視野に入れ、地域福祉についての基礎的な知識と理論に関する講義を行うとともに、「国家試験に合格をすること」を前提に、わかりやすく、身につく授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】 「2027年版 みんなが欲しかった！ 社会福祉士の教科書 共通科目編」(TAC出版)					・インターネット等で日頃から地域福祉に関する話題に触れ、興味関心を持つようにすること。 ・授業後はレジュメ・資料・参考図書の内容を復習し、小テストの内容について再度確認を行うこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 地域福祉の概念(1)	【到達目標】 地域で暮らし暮らし続ける意味を理解し、その原動力について考察を深める。			9	【授業単元】 地域福祉の歴史(3)	【到達目標】 戦前、戦後の日本における地域福祉の歴史について理解する。		
2	【授業単元】 地域福祉の概念(2)	【到達目標】 「主体」「問題・ニーズ」「政策・制度」「実践・援助方法」の側面から地域福祉を概観できる。			10	【授業単元】 地域福祉の歴史(4)	【到達目標】 現代の日本における地域福祉の歴史について理解する。		
3	【授業単元】 コミュニティと地域社会(1)	【到達目標】 地域社会の変遷を概観する。			11	【授業単元】 地域福祉の法・制度	【到達目標】 「介護保険法」「生活困窮者自立支援法」を中心に、制度の創設と地域福祉の推進について理解		
4	【授業単元】 コミュニティと地域社会(2)	【到達目標】 地域社会における「問題解決方法」の変化について理解する。			12	【授業単元】 地域福祉の対象	【到達目標】 「社会的孤立・孤立状態にある人」および「社会的排除の状態にある人」について考察し、地域社会が抱える問題について理解する。		
5	【授業単元】 地域福祉の理念	【到達目標】 地域社会の重要性と地域福祉の実現において望ましい支援のあり方について理解する。			13	【授業単元】 地域福祉の推進主体(1)	【到達目標】 地域福祉を推進する主体のうち、フォーマルな機関・団体に焦点をあて、理解を深める。		
6	【授業単元】 地域福祉の歴史(1)	【到達目標】 イギリスにおける地域福祉の歴史について理解する。			14	【授業単元】 地域福祉の推進主体(2)	【到達目標】 地域福祉を推進する主体のうち、インフォーマルな団体に焦点をあて、理解を深める。		
7	【授業単元】 地域福祉の歴史(2)	【到達目標】 アメリカ、北欧における地域福祉の歴史について理解する。			15	【授業単元】 これまでのまとめ/定期試験	【到達目標】 前期のまとめ、定期試験、解答解説		
8	【授業単元】 これまでのまとめ／中テスト	【到達目標】 これまでのまとめ、中テスト、解答解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 社会福祉法の制定以降、「地域福祉」は社会福祉の分野で最も重要な位置づけがなされています。日常生活において地域住民の一員であるという意識を持ち、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成についての考え方を基盤として、地域福祉の意義・目的・展開について広く学んでいってください。									

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	遠藤龍／幾田こずえ			
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
・地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の考え方を理解する。 ・地域福祉推進のための、目的、福祉行財政の実施体制と役割、福祉計画について理解する。 ・包括的支援体制におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
医療・福祉分野におけるソーシャルワーク実務と専門教育経験のある教員が、実践現場を視野に入れ、地域福祉についての基礎的な知識と理論に関する講義を行うとともに、「国家試験に合格をすること」を前提に、わかりやすく、身につく授業を展開していく。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
【参考図書】 「2027年版 みんなが欲しかった！社会福祉士の教科書 共通科目編」(TAC出版)					・インターネット等で日頃から地域福祉に関する話題に触れ、興味関心を持つようにすること。 ・授業後はレジュメ・資料・参考図書の内容を復習し、小テストの内容について再度確認を行うこと。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 地域福祉の推進主体(3)				9	【授業単元】 地域福祉のサービスと活動(1)				
	【到達目標】 地域福祉を推進する主体のうち、専門職などの人材に焦点をあて、理解を深める。					【到達目標】 「社会的孤立・孤立状態にある人」および「社会的排除の状態にある人」を生み出さないための制度を理解する。				
2	【授業単元】 地域福祉の推進方法(1)				10	【授業単元】 地域福祉のサービスと活動(2)				
	【到達目標】 コミュニティソーシャルワーカーが必要とされる今日の背景について理解する。					【到達目標】 「社会的孤立・孤立状態にある人」および「社会的排除の状態にある人」を生み出さないための取り組み事例を学ぶ。				
3	【授業単元】 地域福祉の推進方法(2)				11	【授業単元】 住民主体のまちづくりと活動				
	【到達目標】 コミュニティ・オーガニゼーションの理論を学び、実践的側面からコミュニティソーシャルワークを考察する。					【到達目標】 住民主体の活動の必要性とその特徴について理解する。				
4	【授業単元】 地域福祉の推進方法(3)				12	【授業単元】 地域福祉の財源(1)				
	【到達目標】 地域アセスメントにより、地域生活課題を把握し、課題解決の手がかりとなる資源や計画を立案する。					【到達目標】 地域福祉の主体と財源の考え方について理解し、公的財源の現状を学ぶ。				
5	【授業単元】 地域福祉の推進方法(4)				13	【授業単元】 地域福祉の財源(2)				
	【到達目標】 地域アセスメントにより、地域生活課題を把握し、課題解決の手がかりとなる資源や計画を立案する。					【到達目標】 地域福祉の主体と財源の考え方について理解し、公的財源の現状を学ぶ。				
6	【授業単元】 地域福祉の推進方法(5)				14	【授業単元】 地域福祉のこれから				
	【到達目標】 地域福祉計画の展開過程と概要、評価方法について理解する。					【到達目標】 時代の変化に合わせた地域福祉の在り方について考察する。				
7	【授業単元】 災害時における支援体制				15	【授業単元】 これまでのまとめ/定期試験				
	【到達目標】 非常時や災害時における法制度を理解し、非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援体制について具体的に理解する。					【到達目標】 これまでのまとめ、定期試験、解答				
8	【授業単元】 これまでのまとめ／中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでのまとめ、中テスト、解答解説									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
社会福祉法の制定以降、「地域福祉」は社会福祉の分野で最も重要な位置づけがなされています。日常生活において地域住民の一員であるという意識を持ち、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成についての考え方を基盤として、地域福祉の意義・目的・展開について広く学んでいってください。										

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、終結という相談援助のプロセスを理解し、各段階における具体的技術を解説できる。②ストレングス・モデルやナラティブ・アプローチ、解決志向アプローチといった現代的な実践モデルを、具体的な事例に適用して支援方針を策定できる。③精神科リハビリテーションの原則、ケアマネジメント、多職種チームアプローチの意義を理解し、連携におけるソーシャルワーカーの役割を論じることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と価値、障害者の権利擁護とエンパワメント、精神保健福祉に関する法制度とサービス、精神保健福祉の歴史と展望などについて、実例を交えた講義を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワークの理論と方法(最新 精神保健福祉士養成講座 6)(中央法規出版)					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、ソーシャルワークに関連するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ソーシャルワークの定義と歴史			9	【授業単元】 面接技術の深化				
	【到達目標】 ソーシャルワークの起源から現代の定義、心理学との接点、専門職としての倫理と価値を理解できる。				【到達目標】 ブリーフセラピーやRFTの知見を活かした質問技法、リフレーミングの実践方法などについて理解できる。				
2	【授業単元】 人と環境の相互作用理論			10	【授業単元】 集団を活用した支援				
	【到達目標】 一般システム理論、エコロジカル・アプローチ、ICF(国際生活機能分類)の活用を理解できる。				【到達目標】 グループワークの過程、SST(社会生活技能訓練)の基本訓練モデルについて理解できる。				
3	【授業単元】 現代の実践モデルとアプローチ			11	【授業単元】 地域援助とケアマネジメント				
	【到達目標】 ストレングス、エンパワメント、解決志向、ナラティブの各モデルの基礎を理解できる。				【到達目標】 コミュニティワーク、多職種連携(チームアプローチ)、社会資源の開発などについて理解できる。				
4	【授業単元】 援助過程Ⅰ:受理と関係構築			12	【授業単元】 権利擁護と意思決定支援				
	【到達目標】 インテーク、アウトリーチ、エンゲージメント。ラポール形成の技法を理解できる。				【到達目標】 成年後見制度、アドボカシー、虐待防止について理解できる。				
5	【授業単元】 援助過程Ⅱ:アセスメント			13	【授業単元】 児童・教育分野の実践				
	【到達目標】 課題分析、ジェノグラム、エコマップなどを用いた家族・環境の可視化技法を理解できる。				【到達目標】 スクールソーシャルワークの実践。不登校、ひきこもり、家族へのアプローチなどについて理解できる。				
6	【授業単元】 援助過程Ⅲ:計画と実施			14	【授業単元】 産業・司法・記録の技術				
	【到達目標】 プランニング(短期・長期目標設定)、インターベンション、社会資源の活用の技法について理解できる。				【到達目標】 職場復帰支援(EAP)、司法連携、ソーシャルワーク記録(逐語、要約)の方法などについて理解できる。				
7	【授業単元】 援助過程Ⅳ:評価と終結			15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り(まとめ)				
	【到達目標】 モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション(終結)の手続きについて理解できる。				【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。				
8	【授業単元】 1回～7回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、○×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 1回～7回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 授業内容を踏まえた中テストを実施することで、相談援助における、プロセス・実践モデル・支援者の役割などに関する知識の整理と定着を図れること。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	山田 伸	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
1. 人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおける専門的相談援助(ソーシャルワーク)について理解する。 2. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の様々な実践について理解する。 3. 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)について理解する。 4. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)の1つであるコミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. 専門的相談援助(ソーシャルワーク)における家族支援の実践について理解する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
参考図書:最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目](日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版				他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、専門的相談援助(ソーシャルワーク)は人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 【到達目標】 前期の学習内容を振り返る。 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークについて、概要を理解する。			9	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 精神障害者家族の課題① 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・精神障害者家族とは ・精神保健福祉法と家族			
2	【授業単元】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 支援の展開(人・環境へのアプローチ)-事例分析① 【到達目標】 実践モデルが実際の実践にどう活用されているかを理解する。 エコロジカルアプローチを理解し、その具体的な展開過程を理解する。			10	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 精神障害者家族の課題② 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・ケアラーと家族ケアラー支援 ・精神障害に関連したケアラーのニーズ ・ケアラー支援			
3	【授業単元】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 支援の展開(人・環境へのアプローチ)-事例分析② 【到達目標】 実践モデルが実際の実践にどう活用されているかを理解する。 エンパワメントアプローチを理解し、その具体的な展開過程を理解する。			11	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 家族理解の変遷① 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・家族病因論 ・家族システム論 ・感情表出研究と家族心理教育			
4	【授業単元】 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ) 連携の意義と目的 チームビルディング 【到達目標】 連携とそれに関連する用語について整理する。 グループとチームの違いについて学ぶ。			12	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 家族理解の変遷② 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・ストレス・コーピング・モデル ・アルコール依存症の家族研究			
5	【授業単元】 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ) 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の実践-事例分析① 【到達目標】 事例のプロセスを通して、多職種連携の実践を理解する。 多様な職種、風性にある人々と連携・協働しながら、支援課題にアプローチすることを理解する。			13	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 家族支援の方法① 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・家族支援の対象と機能、方法 ・家族支援の代表的な方法			
6	【授業単元】 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ) 多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の実践-事例分析② 【到達目標】 事例のプロセスを通して、多職種連携の実践を理解する。 多様な職種、風性にある人々と連携・協働しながら、支援課題にアプローチすることを理解する。			14	【授業単元】 精神保健福祉分野における家族支援の実践 家族支援の方法② 【到達目標】 精神保健福祉分野における家族支援について理解する。 ・家族のリカバリー ・家族関係における暴力への介入			
7	【授業単元】 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義 精神障害者の地域生活支援とコミュニティワークの実践-事例分析 【到達目標】 精神障害者が地域生活をおくるうえで、課題となるものを考える。			15	【授業単元】 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
専門職として実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、専門職として考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始めます。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。								

授業概要

科目名	精神医学と精神医療(精神疾患とその治療)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	一木 崇弘		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神医学・精神医療の歴史を説明することができる。 ②精神医学と心理学や心身医学との関係を理解する。 ③精神医学のモデルを理解し、精神疾患について多角的に理解する。 ④精神医療や精神保健福祉、司法精神医学に関する法律を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、医学博士・精神保健福祉士・社会福祉士を有し、医学部で教育研究に従事する教員が担当する。精神医学および精神医療は、病的な精神状態を扱う医学・医療の一分野であり、その内容は自然科学、人文学、司法、人権、社会保障など、非常に広範囲にわたる。本授業では、精神医学の基礎的な知識を広く学ぶことを目的とし、特に精神科医療機関で頻繁に接する精神疾患や、精神科医療に従事する際に知っておくべき独自の法制度について詳しく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・精神医学と精神医療(最新精神保健福祉士養成講座) ・西園マハ文:「対人援助職のための精神医学講座～グループディスカッションで学ぶ」読信書房					授業終了後に、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメ資料を用いて授業の予習・復習を行うこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 (第1回、第2回) 精神医学総論				17・18	【授業単元】 (第17回) 自殺予防 (第18回) 睡眠障害			
	【到達目標】 (第1回)精神医学の学問的特徴や歴史の変遷について理解する。(第2回)脳・神経の解剖や大脳の役割、精神病態について理解する。					【到達目標】 (第17回) わが国における自殺予防対策の現状、自殺の促進・予防因子、取り組み、自殺対策基本法について理解する。(第18回)睡眠障害の概念と概日リズム睡眠障害と過眠症を中心に解説するとともに、睡眠衛生指導や睡眠薬について理解を深める。			
3・4	【授業単元】 (第3回、第4回) 統合失調症				19・20	【授業単元】 (第19回) 薬物療法 (第20回) 非薬物療法			
	【到達目標】 統合失調症は本邦精神科で最も入院患者数が多いとされ、精神科医療機関に勤務する者にとって最も知識と経験を求められる疾患と言える。本講義では統合失調症の歴史的背景や疾患のさまざまな概念の理解を目的とする。病態や経過における抗精神病薬など治療に関することや、医療者として患者と向き合う姿勢などについても解説する。					【到達目標】 (第19回)精神医学・精神医療で用いられる薬物とその効果に触れ、薬物療法について理解を深める。(第20回)精神療法、精神科リハビリテーション、ニューロモデュレーション、心理社会的支援について理解する。			
5・6	【授業単元】 (第5回、第6回) 気分障害				21・22	【授業単元】 (第21回) 心理検査・精神医学的検査 (第22回) 精神医療・精神保健の動向			
	【到達目標】 (第3回、第4回)気分障害、特にうつ病の増加が指摘されるが、その概念は現在も変遷を続けている。本講義ではうつ病、気分障害の歴史を中心に解説することで、理解を深めることを目的にする。現在用いられている気分障害の分類と、症状の具体的な解説を行い、病像の理解を深める。また、抗うつ薬についてなど治療についても解説する。					【到達目標】 (第21回)精神科臨床で用いられる心理検査、精神医学的検査について理解する。(第22回)厚生労働省患者データを用いて、外来・入院患者の動向や精神科医療の形態(外来・入院・訪問)について理解する。			
7・8	【授業単元】 (第7回、第8回) 認知症				23・24	【授業単元】 (第23回) 精神保健福祉法 (第24回) 医療観察法			
	【到達目標】 社会の高齢化と共に、精神科医療機関でも近年認知症患者の受診機会が増している。本講義では認知症と加齢による物忘れの違いなど一般的なことから、代表的な認知症疾患と各疾患の病態像の特徴などを中心に学ぶ。					【到達目標】 (第23回)わが国の精神障害者への処遇の歴史を振り返り、精神保健福祉法が成立した経緯や法の趣旨、入院形態について理解を深める。(第24回)司法精神医療の構造や医療観察法の成立した経緯、治療プログラムについて理解する。			
9・10	【授業単元】 (第9回) 不安症および心的外傷・ストレス関連障害 (第10回) 摂食障害				25・26	【授業単元】 (第25回) 地域精神保健・精神科救急 (第26回) 精神科リエンソン			
	【到達目標】 (第9回)神経症性障害およびストレス関連障害の概略と分類される疾患について説明する。特に頻度の高い疾患については症例提示も行い理解を深める。(第10回)摂食障害の疫学、診断、治療、心理社会的支援について理解する。					【到達目標】 (第25回)精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(にも包括)の概要と事例について解説し、地域精神保健について理解を深める。また、わが国の精神科救急医療提供体制の現状と課題についても理解する。(第26回)総合病院における精神科の役割、精神科リエンソンチーム、せん妄について理解する。			
11・12	【授業単元】 (第11回) 依存症 (第12回) てんかん				27・28	【授業単元】 (第27回) 災害メンタルヘルス (第28回) 社会的ひきこもり			
	【到達目標】 (第11回)依存症の疫学、類型、対応の仕方について生物学的・心理学的・社会的に解説する。(第12回)てんかんの概要、疫学、薬物治療、てんかん患者の運転免許取得について理解する。					【到達目標】 (第27回)災害時のメンタルヘルス支援もわが国の精神保健上の課題である。本講義では、こころの不調、メンタルヘルス支援とDPATの役割について理解する。(第28回)近年、社会的ひきこもり状態(ひきこもり)は、精神医学と社会的孤立の両分野で注目されるようになってきた。精神医学的視点からひきこもりの病態と支援について理解する。			
13・14	【授業単元】 (第13回) パーソナリティ障害および行動の障害				29・30	【授業単元】 (第29回) 総括 (第30回) 期末テスト			
	【到達目標】 (第13回)パーソナリティ障害の種類と特徴、対応について解説する。(第14回)児童思春期の神経発達症や虐待・トラウマ関連障害、児童思春期精神医療と多職種連携のあり方について講義する。					【到達目標】 「精神医学と精神医療」の内容について復習を行い、精神医学の学問的体系や精神保健福祉士として必要な精神医学的知識について整理する。			
15・16	【授業単元】 (第15回) 中テスト (第16回) 周産期のメンタルヘルス				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 (第15回)前半の授業内容の振り返りを行う。(第16回)妊娠・出産期に特有の身体的・心理的負担や、妊娠中・産後のうつ病、不安障害、適応障害などの精神的問題を解説する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事例提示の部分はディスカッションを行います。討論への積極的な参加を期待します。精神医学の理解には、基礎的な医学知識を必要とします。予習復習をしておいてください。									

授業概要

科目名	精神保健福祉制度論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 精神障害者に関する制度・施策について理解する。 2. 精神障害者の医療に関する制度について理解する。 3. 精神障害者の生活支援に関する制度について理解する。 4. 精神障害者の経済的支援に関する制度について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、メンタルヘルスの課題を抱えた人々の法制度の体系について基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論[第2版] (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第1節 精神障害者に関する制度・施策の体系 【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する ・社会保障が精神障害者に果たす機能と役割を体系的に理解する ・精神保健福祉の特性や制度および施策の仕組みを把握する ・ライフサイクル(今・10年後・30年後)と精神障害者に関する制度や施策の関係について学ぶ				9	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第1節 生活支援の基本的な考え方 【到達目標】 ・生活支援とは何を意味しているかを理解する ・障害者の生活をサポートする障害者総合支援法の体系を把握する ・障害者総合支援法の支援の流れを知る			
2	【授業単元】 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第3節 精神障害者に関する制度活用の流れ・事例から 【到達目標】 ・事例を通じて本科目を学ぶ意味を考える ・さまざまな制度・サービスが、実際のケースと密接につながっていることを知る				10	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第2節 相談支援制度 【到達目標】 ・相談支援制度が構築された歴史的経緯を把握する ・障害者総合支援法による相談支援の枠組みを理解する ・精神保健福祉分野における相談支援の課題を考える			
3	【授業単元】 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第2節 精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴 【到達目標】 ・精神障害者の医療や福祉制度の策定過程の変遷を学ぶ ・精神障害者に関する制度の成立過程の特徴を学ぶ ・精神保健福祉制度の成立過程を精神保健福祉士の視点で学ぶ				11	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第3節 居住支援制度 【到達目標】 ・居住支援制度の展開と意義性について理解し、居住支援にかかわるケアサービスについて学習する ・居住支援における精神保健福祉士の役割と基本的視点を踏まえて、住居の確保および居住継続支援のあり方について理解を深める ・居住支援制度の課題について、居住支援システムの基礎整備と精神保健福祉士の実践課題から考察する			
4	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第1節 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 【到達目標】 ・精神保健福祉法の概要について学ぶ ・精神障害者の権利擁護について考える ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する				12	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第4節 就労支援制度 【到達目標】 ・精神障害者が働くことの意味を理解する ・精神障害者に関連する就労支援の法制度を理解する ・就労を通じた自己実現について考える			
5	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第2節 精神科医療がかかわりをもつ施策 【到達目標】 ・精神科医療がかかわりをもつ施策について把握する ・各施策の概要について学ぶ ・施策や内容について、精神保健福祉士の視点で学ぶ				13	【授業単元】 第4章 精神障害者の経済的支援 第1節 精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割 第2節 所得保障にかかわる経済的支援／第3節 経済的負担の軽減 【到達目標】 ・精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の必要性について学ぶ ・所得保障の中核となる障害年金および関連する制度を学ぶ ・精神障害者の経済負担を軽減する制度や施策を体系的に理解する ・経済的支援に果たす精神保健福祉士の役割と制度や施策の課題を把握する			
6	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第3節 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 【到達目標】 ・医療観察法の目的や仕組みについて理解する ・医療観察制度における多職種チームの実践と精神保健福祉士の役割を理解する ・医療観察制度が精神保健医療福祉に及ぼした影響や今後の可能性について学ぶ				14	【授業単元】 第5章 精神障害者と生活困窮 第1節 生活困窮と生活保護制度 第2節 生活困窮者自立支援制度／第3節 低所得者対策 【到達目標】 ・生活保護制度の概要の概要について理解する ・生活困窮者自立支援法の概要について理解する ・低所得者対策の概要とその重要性について理解する			
7	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第4節 精神障害者の医療と関連する施策 【到達目標】 ・関連施策や支援の歴史的経緯について把握する ・関連施策や支援の概要について学ぶ ・関連施策や支援について精神保健福祉士の実践として理解する				15	【授業単元】 定期試験 解説及び学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、学習目標の達成度を振り返り、今後の学びについて考える			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・後半の授業内容について確認する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学び理解する必要があります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきます。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長谷川 賢治	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
本科目の到達目標は以下のとおりです。①ソーシャルワーカーの役割、倫理観について説明できる。②精神保健福祉士に求められる知識、技術を実践できる。③多様な関係機関との連携を理解し、多職種連携の重要性を説明できる。④事例検討を通して、課題解決に必要な視点を習得できる。⑤自己覚知を深め、他者を尊重した対人援助を実践できる。⑥グループワークを通して、協調性、コミュニケーション能力を向上させることができる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と専門性、ソーシャルワークの基本、精神保健福祉に関連する制度と政策、多様なニーズへの対応、ソーシャルワークの展開について、講義 / 事例検討 / グループワーク / ロールプレイを活用した授業を実施します。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
ソーシャルワーク演習【専門】(最新 精神保健福祉士養成講座 7)(中央法規出版)					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、ソーシャルワークに関連するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション:支援の目的と基本的な考え方			9	【授業単元】 行動を科学的に理解する基礎:行動の客観的な記録			
	【到達目標】 ソーシャルワークの全体像と本演習の目的を理解できる。 支援対象者を「変わらない存在(被害者)」と決めつけるのではなく、支援によって「自ら変わり、自己決定できる存在」として捉えるという視点を知る。				【到達目標】 支援現場の「やる気がない」といった曖昧な言葉を使わず、客観的な事実として行動を定義する方法を理解できる。 行動が起きる前の「きっかけ」、実際の「行動」、その直後の「結果」の3つの枠組みで問題を整理する訓練を実践できる。			
2	【授業単元】 対人援助の基礎態度:信頼関係を築く関わり方			10	【授業単元】 行動が増減する法則の理解と環境調整			
	【到達目標】 相手を受容し、共感的に理解する支援者の基本的な態度を学ぶ。 支援者と対象者が対等な立場で協力し合い、相手の自覚性を引き出す面接の姿勢を、小グループでのロールプレイを通じて実践できる。				【到達目標】 人の行動がなぜ繰り返されたり、起きなくなったりするのかという法則(報酬と罰のメカニズム)を深く理解できる。 実際の支援では、罰で抑えつけるのではなく、望ましい行動が自然と増えるように環境を整える戦略をグループで立案できる。			
3	【授業単元】 やる気を引き出す支援と、希望の物語の再構築			11	【授業単元】 行動の「スイッチ」を見つける:環境のデザイン			
	【到達目標】 人が自ら行動を起こすための3つの欲求(自分で決める、できると感じる、人となつかる)の仕組みを理解できる。 支援対象者の「うまくいかない」という思い込みを、本人の強みを活かして「希望を持てる見方」へと書き換える支援方法を事例を通して実践できる。				【到達目標】 特定の状況下でのみ行動が起きる理由を理解できる。 問題行動が起きた後の対応だけでなく、時間や空間などの環境を見直し、良い行動を自然に引き出す「事前の工夫(環境のスイッチ)」を再設計する演習を実践できる。			
4	【授業単元】 面接の基本技術と「開かれた質問」の活用			12	【授業単元】 頻出する相談内容の理解とアセスメント(評価)技術Ⅰ			
	【到達目標】 傾聴と要約といった基本技法に加え、「はい、いいえ」で答えられない「開かれた質問」の作り方を理解できる。 時間軸や内的体験、視点転換など多様な角度から質問を意図的に作成し、対話を深める技術をペアワークで実践できる。				【到達目標】 精神保健福祉現場で頻出する相談内容(主訴)を分類し、背景を読み解く。 「非現実的な訴え」「消極的な訴え」「対人関係を避ける訴え」「悲観的な訴え」を取り上げ、相手を受容しつつ必要な配慮を見極める評価技術を実践できる。			
5	【授業単元】 相手の隠れた強み(リソース)を見つける質問技術			13	【授業単元】 頻出する相談内容の理解とアセスメント(評価)技術Ⅱ			
	【到達目標】 対象者自身が気づいていない無意識の強みや「打たれ強さ」を引き出す質問の技術を理解できる。 過去に努力なく続けられた経験などからモチベーションの源泉を見つけ出し、現在の課題解決に転用する方法を分析・実践できる。				【到達目標】 引き続き、「被害の訴え(虐待など)」「攻撃的な訴え」「話題を避ける訴え」「感情のコントロールが難しい訴え」について学ぶ。 支援者が感情的に巻き込まれないための対処や、適切な支援の境界線を設定する技術を実践できる。			
6	【授業単元】 目標設定と現状把握の面接技術(支援モデル前半)			14	【授業単元】 精神科救急と危機対応(クライシス・マネジメント)の初動			
	【到達目標】 対象者の自立を支える面接の手順を学ぶ。 「もし問題が解決したら」といった問いを用いて本質的な理想の姿を描き、事実と思い込みを切り分けて現在の状況を正確に把握する技術を演習を通じて実践できる。				【到達目標】 興奮や自傷・他害リスクを伴う緊急性の高い事態での対応プロセスを理解できる。 相手に安心感を与える声かけを用い、支援者と対象者の安全を確保する初動対応と、警察や医療機関等との迅速な連携をシミュレーションで実践できる。			
7	【授業単元】 アイデア出しから行動計画・振り返りの面接技術(支援モデル後半)			15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 目標に向けた選択肢を上げ、現在の達成度を数値で評価し、すぐに行動できる「小さな一歩」を計画する方法を理解できる。 さらに行動後の振り返りから学びを得るまでの一連の面接の流れを、総合的に実践できる。				【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、○×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切り上げとする。				
	【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 前半で学んだ面接の基本姿勢、動機づけの仕組み、質問技術、目標設定から行動計画までの基礎概念に関する筆記試験を実施する。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。								

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①ソーシャルワーカーの役割、倫理観について説明できる。②精神保健福祉士に求められる知識、技術を実践できる。③多様な関係機関との連携を理解し、多職種連携の重要性を説明できる。④事例検討を通して、課題解決に必要な視点を習得できる。⑤自己覚知を深め、他者を尊重した対人援助を実践できる。⑥グループワークを通して、協調性、コミュニケーション能力を向上させることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と専門性、ソーシャルワークの基本、精神保健福祉に関連する制度と政策、多様なニーズへの対応、ソーシャルワークの展開について、講義 / 事例検討 / グループワーク / ロールプレイを活用した授業を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習[専門](最新 精神保健福祉士養成講座 7)(中央法規出版)					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、ソーシャルワークに関連するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
	【授業単元】 困難事例に対する段階的な支援プロセスの全体像					【授業単元】 言葉やルールが行動に与える影響の理解			
1	【到達目標】 支援が滞る事例を開示する段階的な支援モデル全体を理解できる。 対象者の不適切な行動を安易に病氣と決めつけず、過酷な環境を生き抜くための「生存戦略」として受け止め、心身の健康を最優先する初期評価を実践できる。				9	【到達目標】 人が「ルールや言葉」に従う心理的な仕組みを深く理解できる。 他人の承認や罰を避けるためだけに行動する危険性を知り、現実の状況に基づく柔軟な行動へと対象者をどう移行させるかについて、事例から議論・実践できる。			
2	【授業単元】 ステップ1:支援の合意形成と対等な関係づくり					【授業単元】 不安や心配が行動を縛るメカニズムと解決の糸口			
	【到達目標】 相談の緊急度を見極め、支援の適切な距離感を設定する方法を理解できる。 支援者の価値観の押し付けを排し、「その苦痛はもつともである」と相手の状況を受け入れることで対等で強固な支援関係(合意形成)を築く対話を実践できる。				10	【到達目標】 「何も起きなかったこと」が行動を強烈に維持させる仕組みを理解できる。 慢性的な不安や完璧主義が、どのようにして「破局を防げた」という魔法のコントロール感を生み出し人を望に陥れるかを科学的に分析し、解決の糸口を見つけるアプローチを実践できる。			
3	【授業単元】 ステップ2:対話を通じて「気づき」を促す技術Ⅰ					【授業単元】 言葉かけによる価値の変換と、集団の行動メカニズム			
	【到達目標】 対象者の強固な思い込みに対し、真面向から否定せず安全に矛盾に気づかせる対話技法を理解できる。 「現在と未来」「自分と社会からの反応」といった視点から質問し、本人に現状維持の「コストと限界」を自覚させるロールプレイを実践できる。				11	【到達目標】 言葉の力を用いて、行動の結果(報酬)の価値を変化させる動機づけの技法を理解できる。 さらに、個人の行動分析を超え、組織やチームの協働パターンを支配し、時に組織の病理を生み出す「集団のメカニズム」を説明できる。			
4	【授業単元】 ステップ3:対話を通じて「気づき」を促す技術Ⅱ					【授業単元】 社会課題を解決するための環境・制度のデザイン			
	【到達目標】 精神的に不安定な対象者に対し、心理的な防御を迂回する高度な対話技術を理解できる。 主体をモデルに置き換えたり、生活の失敗領域から趣味の得意領域へと文脈を変えたりして、潜在的な力(リソース)を引き出す手法を実践できる。				12	【到達目標】 貧困の連鎖や環境問題など、複雑な社会課題を持続させている仕組みの裏を理解できる。 個人の意識向上や行動変容を促すだけでなく、法律や経済システムという「社会のルール(OS)」自体をデザインし直す視点を獲得できる。			
5	【授業単元】 ステップ4:本当の目的を明らかにし、不適切な手段を手放す					【授業単元】 対人援助職としての8つの心得と職業倫理			
	【到達目標】 対象者の「本来の目的(例:安全の確保)」と「機能していない手段(例:自傷、他者への依存)」を対話を通じて切り離す方法を理解できる。 「一歩べき」という義務感から「したい」という欲求へ目的を整理し、自ら行動を変えることの合理性を納得させる演習を実践できる。				13	【到達目標】 精神保健福祉士のプロとしての倫理と支援の心構えを理解できる。 「過保護の書」を知り、配慮と本人の努力の境界線を見極める。支援者自身の偏った認知を徹底的に点検し、ユーモアや利他主義等の「成熟した防衛」へと昇華させる自己研鑽の手法を実践できる。			
6	【授業単元】 ステップ5:支援計画の立案と周囲の資源の活用					【授業単元】 総合演習:複雑な事例に対する見立てとロールプレイ			
	【到達目標】 整理された目的を達成するための新たな手段を再構築できる。 個人の努力に頼るだけでなく、ルールや環境の調整(合理的配慮)を組み込み、最小のエネルギーで最大の効果を生む「信頼できる、熟慮された依存先を増やすことによる自立」をデザインするグループワークを実践できる。				14	【到達目標】 これまで学んだ動機づけ、行動分析、支援プロセス、集団・社会の視点を全て動員し、複数の課題が絡み合う複雑な困難事例に対する見立て(アセスメント)を実施できる。支援計画の立案から、初回の合意形成、気づきを促す介入に至るまでの総合的なロールプレイを実践できる。			
7	【授業単元】 ステップ6:計画の実行・見守りと「失敗から学ぶ」支援					【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 計画を実行する段階において、試行錯誤や「失敗」を価値ある学習として保証する支援のあり方を理解できる。 状態悪化時の対処法を事前に共有し、自立に向けて支援の頻度を段階的に減らす(フェイディング)戦略を実践できる。				15	【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 前半で学んだ支援プロセスの各ステップにおける介入技術と、支援者としての自己客観視に関する筆記試験を実施する。				科目の評価は、定期試験を60％、毎回授業の小テストと中テストの合計を40％の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、〇×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授 業 概 要

科目名	心理学研究法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、心という形のないものを実証的に研究していく上で必要になる知識・技術を解説する。また、異なる研究法を具体的に例示し、周辺分野を参照しながら体験できる内容を取り入れ、実際に研究の手続きを踏めるような講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要教材】配布資料(コマシラバス)、スライド、各種ワークシートなど 【参考教材】 福島哲夫・尾久裕紀他(編)(2020)。公認心理師必携テキスト改訂2版 松井豊(2022)。三訂版 心理学論文の書き方 河出書房新社。 日本心理学会(2022)。執筆・投稿の手引(2022年改訂版)					心理学の基本であるため、概念や専門用語は多く取り上げる。そのため、日頃から授業内容の復習や、実際の「心理学論文」や「書籍」を読んでおくことが望ましい。また、主体的に自己理解や関心分野への知識を深める行動を推奨する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション:心理学研究法とは何か				9	【授業単元】 実験法(5):実験者としての模擬実践と報告について			
	【到達目標】 心理学における研究の意義について理解し、自身の考えを交えて説明することができる。					【到達目標】 前回は異なる実験を体験することにより、中間課題の達成を示す実験レポートを記述し、実験結果や実験手続きを報告することができる。			
2	【授業単元】 心理学研究における科学的方法論とその実際について				10	【授業単元】 観察法(1):観察法に必要な環境設定について			
	【到達目標】 科学的要件に基づいた研究が心理学において、どのように定義されるのか説明することができる。					【到達目標】 観察法の実施手順について理解し、具体例を交えて説明することができる。			
3	【授業単元】 心理学研究法の種類と変数について				11	【授業単元】 観察法(2):観察法による実践的データ収集について			
	【到達目標】 心理学研究法の種類の概要から、実験に関わる変数(独立変数、従属変数、媒介変数、隠変数)、心理学研究にとって必要不可欠な倫理事項や配慮などを具体的な内容として説明することができる。					【到達目標】 観察法の実践を通じて、収集したデータの構成について報告することができる。			
4	【授業単元】 信頼性と妥当性について				12	【授業単元】 検査法(1):検査法の概要と成り立ち、知能検査について(1)			
	【到達目標】 データを扱う際に必須となる信頼性、妥当性について、具体的な内容から説明できる。信頼性や妥当性を確かめる方法を説明することができる。					【到達目標】 検査法の概要と代表的な知能検査や知能に関わる検査について学び、その内容について説明することができる。			
5	【授業単元】 実験法(1)実験法の概要と形式について				13	【授業単元】 検査法(2)知能検査について(2)			
	【到達目標】 実験法の概要と実験にまつわるルールなどについて、実践に即した説明をすることができる。					【到達目標】 性格(人格)検査の代表的なものを理解し、一部検査を実際に体験することで、検査手続きを把握し、説明することができる。			
6	【授業単元】 実験法(2)実験法の注意点				14	【授業単元】 検査法(3)人格(性格)検査Ⅰ－質問紙法について(1)			
	【到達目標】 実験法の結果を歪ませる要因とその対策についてや、実験法の結果をまとめるレポートの書き方について説明することができる。					【到達目標】 性格(人格)検査の代表的なものを理解し、一部検査を実際に体験することで、検査手続きを把握し、説明することができる。			
7	【授業単元】 実験法(3)模擬実験体験				15	【授業単元】 検査法(4)人格(性格)検査Ⅱ－質問紙法について(2)、期末試験課題			
	【到達目標】 実験法で行う実験を実験参加者として体験し、実験手続きや得られたデータをどのように扱い、まとめていくかを説明することができる。					【到達目標】 性格(人格)検査の代表的なものを理解し、一部検査を実際に体験することで、検査手続きを把握し、説明することができる。また、期末試験課題にて結果について報告できる。			
8	【授業単元】 実験法(4):実験レポートと認知分野				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 模擬実験の結果を記述し、実験法の対象となる認知領域や日常場面でも起きうる現象について説明することができる。				科目の評価は、毎回授業の小テスト課題40%、定期試験課題60%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テスト課題は各回5点満点、中テスト課題は15点とし、その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					各回の小テスト課題並びに定期試験課題の評価基準は授業内で提示する。				
・内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。 ・グループ体験も実施するため、協力的な姿勢を求める。 ・疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。					授業内で提示するワークは、期限内の提出がなされない場合、授業展開に支障が出るものもある。回によってはワークへの参加や課題提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。				

授 業 概 要

科目名	心理学研究法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、心という形のないものを実証的に研究していく上で必要になる知識・技術を解説する。また、異なる研究法を具体的に例示し、周辺分野を参照しながら体験できる内容を取り入れ、実際に研究の手続きを踏めるような講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要教材】配布資料(コマシラバス)、スライド、各種ワークシートなど 【参考教材】 福島哲夫・尾久裕紀他(編)(2020)。公認心理師必携テキスト改訂2版 松井豊(2022)。三訂版 心理学論文の書き方 河出書房新社。 日本心理学会(2022)。執筆・投稿の手引(2022年改訂版)					心理学の基本であるため、概念や専門用語は多く取り上げる。そのため、日頃から授業内容の復習や、実際の「心理学論文」や「書籍」を読んでおくことが望ましい。また、主体的に自己理解や関心分野への知識を深める行動を推奨する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 検査法(4) 投影法について(1)-代表的な投影法-				9	【授業単元】 質的研究(3) 事例研究法<1>臨床的事例の読み取り			
	【到達目標】 性格(人格)検査のうち、投影法の成り立ちや種別について理解し、代表的な検査の概要と実施手順について説明することができる。					【到達目標】 事例研究法の概要を理解し、臨床的事例を読み取る上で模擬事例を通して、検討する箇所を推論し、指摘できる。また、論ずることで得られた方向性を中間課題として報告できる。			
2	【授業単元】 検査法(5) 投影法について(2)-描画法と研究倫理				10	【授業単元】 質的研究(4) 事例研究法<2>とその他の研究法			
	【到達目標】 検査法(投影法)に含まれる代表的な描画法と研究における倫理事項について説明することができる。					【到達目標】 系統的事例研究法やその他に挙げられる研究法の概要を理解し、模擬事例に対して検討を重ね、事例読解について関心を深めることができる。			
3	【授業単元】 調査法(1) 質問紙法の概要～回答形式と質問文～				11	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(1)－研究テーマ			
	【到達目標】 調査法の代表的な質問紙法の概要を理解し、回答形式や質問文の原則などについて説明することができる。					【到達目標】 文献の検索や論文の基本構成、文献表の作成方法を理解し、自身の関心のあるキーワードと研究テーマについて決定することができる。			
4	【授業単元】 調査法(2) 質問紙作成と実施手順				12	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(2)－必要書類作成			
	【到達目標】 質問紙の作成や模擬調査の体験を通じて概要を理解し、実施手順を説明することができる。					【到達目標】 共有資料となるレジュメの作成方法を学び、文章表現や引用文献・参考文献の記載形式などについて実践することができる。			
5	【授業単元】 面接法(1) 面接法の手続きと配慮事項				13	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(3)－論理構成			
	【到達目標】 面接法の具体的な手続きを学び、面接場面で注意すべき配慮事項などについて説明することができる。					【到達目標】 レジュメに必要な複数の論文を収集し、研究論理をはじめとした、構成展開について組み立てることができる。			
6	【授業単元】 面接法(2) 調査面接の展開と聴く側のテクニック				14	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(4)－結論と展望			
	【到達目標】 調査面接の展開に伴って必要となる姿勢や聴き取る力の向上に繋がる手法について実践することができる。					【到達目標】 レジュメの作成を通じて、結論における研究分野の展望と問題点を読み取り、今後必要となる研究の方向性について説明することができる。			
7	【授業単元】 質的研究(1) 質的データの集積を要する研究について－KJ法－				15	【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(5)－共有とディスカッション			
	【到達目標】 質的研究に該当する文献やKJ法などの基本構成について理解し、説明することができる。					【到達目標】 これまでの収集した資料に自身の展望と意見をまとめ、期末課題における研究資料として完成し、他者と共有することができる。			
8	【授業単元】 質的研究(2) 質的研究におけるデータの活用について－GTA他－				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 GTA法などの得られた言語データから得られるナラティブと付随する調査者の影響について説明することができる。				科目の評価は、毎回授業の小テスト課題40%、定期試験課題60%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テスト課題は各回5点満点、中テスト課題は15点とし、その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 各回の小テスト課題並びに定期試験課題の評価基準は授業内で提示する。 授業内で提示するワークは、期限内の提出がなされない場合、授業展開に支障が出るものもある。回によってはワークへの参加や課題提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。 ・グループ体験も実施するため、協力的な姿勢を求める。 ・疑問点や分からない点は積極的に自分で調べることや質問をすること。									

授 業 概 要

科目名	心理学統計法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。 ①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計の概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計の位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要資料】配布資料(コマシラバス)、スライド、ワークシートなど 【参考資料】川端・荘島(2014)『心理学のための統計学入門 誠信書房 (上記はシリーズとなっており、全9巻となっている) 小宮・布井(2018)『Excelで今すぐはじめる心理統計―簡単 ツールHADで基本を身につける 講談社。』					研究で用いる統計の習熟に必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcelや統計ソフト)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。授業内容を振り返り、パソコンスキルの向上や分析手順の練習をすることが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション:尺度水準について				9	【授業単元】 推測統計(1)信頼性の検証方法とサンプリング			
	【到達目標】 心理学における統計的処理の必要性について理解し、尺度水準を説明することができる。					【到達目標】 データの信頼性を検証する方法を実施することができ、統計のサンプリングについて説明することができる。			
2	【授業単元】 データの可視化と度数分布について				10	【授業単元】 推測統計(2)母集団と不偏性について			
	【到達目標】 データを俯瞰するために必要なグラフなどの種類を知り、度数分布表の作成方法などを説明し、実践できる。					【到達目標】 標本抽出から母数を推測するために必要な概念とその推定について説明することができる。			
3	【授業単元】 代表値について				11	【授業単元】 統計的仮説検定(1)統計的に意味のある差について			
	【到達目標】 代表値(平均値、中央値、最頻値)について説明し、算出方法を知ることができる。					【到達目標】 統計的仮説検定を成立させる統計論理を説明し、統計的に意味のある差の水準について説明することができる。			
4	【授業単元】 分散と標準偏差について				12	【授業単元】 統計的仮説検定(2)z検定とヒューマンエラーについて			
	【到達目標】 データを得た場合の分散と標準偏差について理解し、説明することができる。					【到達目標】 標本からうかがえる母集団の特徴を読み取るために用いるz検定の概要や、結果の読み取りで起きるヒューマンエラーについて説明することができる。			
5	【授業単元】 標準得点と偏差値について				13	【授業単元】 統計的仮説検定(3)t検定の概要			
	【到達目標】 正規分布から得られる標準得点と偏差値の算出について理解し、実施することができる。					【到達目標】 2つの要因からなるt検定の概要とその公式などを理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 関係性の分析(1)散布図と共分散①				14	【授業単元】 統計的仮説検定(4)t検定の展開と実践			
	【到達目標】 2つ以上の量的変数を扱う際の関係の程度を調べる前の、データの散らばりについて読み取り、計算することができる。					【到達目標】 Excelの操作に準じた実践体験を通じて、3種類のt検定を実施することができる。			
7	【授業単元】 関係性の分析(2)共分散と相関係数②				15	【授業単元】 統計的仮説検定(5)検定結果の報告			
	【到達目標】 相関関係を算出するための共分散の扱いと関係の程度を示す相関係数について説明することができ、計算することができる。					【到達目標】 t検定をはじめとした統計の実践において、報告すべき内容を説明できる。また、期末課題として複数の必要資料を作成することができる。			
8	【授業単元】 関係性の分析(3)擬似相関と連関、基本統計量とは				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 中間課題を踏まえ、相関関係を読み取る上での注意点を理解し、質的変数における関係性について説明し、計算することができる。また、基本統計量について説明することができる。				科目の評価は、毎回授業の小テスト課題40%、定期試験課題60%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テスト課題は各回5点満点、中テスト課題は15点とし、その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					各回の小テスト課題並びに定期試験課題の評価基準は授業内で提示する。				
・統計処理を行うため、計算も授業内で行う。電卓などの活用を推奨する。 ・統計ソフト、パソコンの使い方の習熟が必要なので練習すること。 ・タブレット(ipad)では統計処理ができないため、可能であれば自身のノートパソコンを持参することが望ましい。(学校のパソコンも使用可能)					授業内で提示するワークは、期限内の提出がなされない場合、授業展開に支障が出るものもある。回によってはワークへの参加や課題提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。				

授 業 概 要

科目名	心理学統計法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができることを目標とする。 ①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計的概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計の位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要資料】配布資料(コマシラバス)、スライド、ワークシートなど 【参考資料】川端・荘島(2014)『心理学のための統計学入門 誠信書房 (上記はシリーズとなっており、全9巻となっている) 小宮・布井(2018)『Excelで今すぐはじめる心理統計ー簡単 ツールHADで基本を身につける 講談社。』					研究で用いる統計の習熟に必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcelや統計ソフト)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。授業内容を振り返り、パソコンスキルの向上や分析手順の練習をすることが望ましい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 統計的仮説検定(9)信頼区間と偏相関係数			9	【授業単元】 因子分析(4)因子分析(後編)と類似した分析				
	【到達目標】 散布度から導き出す四分位数と分布の形状に注目し、結果の有効性を示す信頼区間について説明し、計算することができる。				【到達目標】 統計ソフトを用いた因子分析の具体的な手順を実施後に、その結果について読み取り、因子得点を算出することができる。また、因子分析による結果について中間課題として報告できる。				
2	【授業単元】 統計的仮説検定(7)カイニ乗検定について			10	【授業単元】 因子分析(5)因子得点から展開する分析ー基本統計量と項目分析、相関分析ー				
	【到達目標】 独立性の検定による連関の有無を検証する実施手順を理解し、クラメールの連関係数などの算出を実施することができる。				【到達目標】 因子得点を用いた基本的分析として、統計ソフトによる基本統計量、項目分析、相関分析を実施して、表が作成できる。				
3	【授業単元】 分散分析(1)分散分析に用いる用語と概要			11	【授業単元】 回帰分析(1)単回帰分析				
	【到達目標】 分散分析に関わる用語と用いる際の注意点、概要について説明することができる。				【到達目標】 回帰分析のうち、単回帰分析の概要を理解し、実践することができる。				
4	【授業単元】 検定の展開(2)と分散分析(2)F検定と一元配置			12	【授業単元】 回帰分析(2)重回帰分析				
	【到達目標】 分散分析における「一元配置分散分析」について理解し、説明、実施することができる。				【到達目標】 回帰分析のうち、重回帰分析の概要を理解し、実践することができる。				
5	【授業単元】 分散分析(3)有意の読み取りと二元配置			13	【授業単元】 回帰分析(3)結果報告と図作成				
	【到達目標】 分散分析における検定式と有意差の扱いについて理解し、結果を報告することができる。また、二元配置における概要を説明することができる。				【到達目標】 回帰分析の結果報告で必要な結果の読解と図を作成することができる。				
6	【授業単元】 因子分析(1)多変量解析と因子分析の概要			14	【授業単元】 その他の統計分析と発展的分析法について				
	【到達目標】 多変量解析に含まれる因子分析の概要について説明することができる。				【到達目標】 共分散構造モデルをはじめとした発展的な分析手法について理解し、説明することができる。				
7	【授業単元】 因子分析(2)実施手順と解釈			15	【授業単元】 質的分析法と質的報告				
	【到達目標】 実際の統計ソフトから因子分析を実行するまでにどのような展開を経るか手順について説明することができる。				【到達目標】 質的研究によって得られたデータを他の変数と処理するための手順を理解し、実施した上で報告することができる。また、これまでの分析を通じた資料を期末課題として作成できる。				
8	【授業単元】 因子分析(3)因子分析の実践(前編)			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 統計ソフトを用いた因子分析の具体的な手順について実行することができる。			科目の評価は、毎回授業の小テスト課題40%、定期試験課題60%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テスト課題は各回5点満点、中テスト課題は15点とし、その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 各回の小テスト課題並びに定期試験課題の評価基準は授業内で提示する。 授業内で提示するワークは、期限内の提出がなされない場合、授業展開に支障が出るものもある。回によってはワークへの参加や課題提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・統計処理を行うため、計算も授業内で行う。電卓などの活用を推奨する。 ・統計ソフト、パソコンの使い方の習熟が必要なので練習すること。 ・タブレット(ipad)では統計処理ができないため、可能であれば自身のノートパソコンを持参することが望ましい。(学校のパソコンも使用可能)									

授 業 概 要

[illegible]

授業概要

科目名	心理的アセスメント	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①心理的アセスメントの目的と意義について理解し、説明することができる。 ②心理的アセスメントの方法と実際について理解し、説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理的アセスメントを行ってきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、心理的アセスメントに関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理的アセスメント総論～その1～ ・心理的アセスメント総論～その2～			17・18	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その7～ ・検査法の実際と事例～その8～				
	【到達目標】 ・本科目の目標・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントの目的・対象・内容・方法の概要について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントのプロセスについて理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～バウム・テスト～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～HTP他～。				
3・4	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その3～ ・心理的アセスメント総論～その4～			19・20	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その9～ ・検査法の実際と事例～その10～				
	【到達目標】 ・心理的アセスメントと精神医学的診断の異同について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントと病理水準の関連について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト①②～。				
5・6	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その5～ ・心理的アセスメント総論～その6～			21・22	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その11～ ・検査法の実際と事例～その12～				
	【到達目標】 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる①。 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる②。				【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト③④～。				
7・8	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その7～ ・心理的アセスメント総論～その8～			23・24	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その13～ ・検査法の実際と事例～その14～				
	【到達目標】 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる①。 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる②。				【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～TAT・PFスタディ～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SGT～。				
9・10	【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その9～ ・心理的アセスメント総論～その10～			25・26	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その15～ ・検査法の実際と事例～その16～				
	【到達目標】 ・心理的アセスメントにおける検査法とその分類について理解し、説明することができる。 ・テスト・バッテリーについて理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法①②～。				
11・12	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その1～ ・検査法の実際と事例～その2～			27・28	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その17～ ・検査法の実際と事例～その18～				
	【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMPI～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～CMI他～。				【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法③④～。				
13・14	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その3～ ・検査法の実際と事例～その4～			29・30	【授業単元】 ・17回目～28回目までの振り返り ・定期試験				
	【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SDS他～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMSE他～。				【到達目標】 ・17回目～28回目までの振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。				
15・16	【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その5～ ・前半15回の振り返り				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・作業検査法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～内田クレペリン～。 ・前半15回の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。				・定期試験60％、毎回授業の小テスト40％の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。									

授業概要

科目名	福祉心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根 大介	
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
- 福祉現場において生じる問題とその背景について、理解、説明することが出来る。 - 福祉現場における心理社会的課題と必要な支援方法について、理解、説明することが出来る。 - 虐待、認知症に関する必要な支援について、理解、説明することが出来る。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた教員が、福祉的諸問題(高齢・障害・虐待等)について整理し、当事者、関係者への心理学的支援方法について授業を行ないます。授業を通して、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。								
【使用教科書・教材・参考図書】 教材：配布資料teamsにアップします。資料を確認できるデバイスをご持参ください。				【授業時間外における学習】 授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の展開と心理的支援、生活を抱える心理的支援についての概略を学ぶ			9	【授業単元】 認知症高齢者の心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 社会福祉の歴史的展開と現代の福祉政策の概要について説明することができる。 福祉心理学の考え方について説明することができる。 福祉制度と心理療の役割について説明することができる。				【到達目標】 認知症による症状と心理問題について説明することができる。 認知症高齢者への心理支援について説明することができる。			
2	【授業単元】 暴力被害者への心理支援について学ぶ			10	【授業単元】 ひきこもりの現状と心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 DVの実態・構造・被害・加害者の心理について説明することができる。 支援方法・留意点について説明することができる。 DVによる子どもへの影響について説明することができる。				【到達目標】 ひきこもりの実態や支援施策について説明することができる。 ひきこもりの方への支援方法について自分の考えを踏まえて説明することができる。			
3	【授業単元】 高齢者への心理支援について学ぶ			11	【授業単元】 自殺予防の心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 高齢者福祉関連の法律とその概要について説明することができる。 認知症の実態、診断基準、症状、支援について説明することができる。 高齢者福祉における心理支援について説明することができる。				【到達目標】 自殺者の実態(どの性別や年齢が多いのか、その理由等)について説明することができる。 自殺対策の取り組みについて説明することができる。 自殺を考えている人や遺族、未遂者へのかかわり方について例を挙げながら説明できる。			
4	【授業単元】 障害・疾病のある人への心理支援について学ぶ 発達障害児に対する現状と問題、心理支援について学ぶ			12	【授業単元】 精神障害者への心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 障害・疾病のある人への心理支援について理解できる 発達障害の特徴、二次障害について説明することができる。 発達障害児への支援方法について説明することができる。				【到達目標】 精神障害者を支える制度とサービスについて説明することができる。 精神障害者が抱える困難さについて説明することができる。 公認心理師が精神障害者を支援するときに必要な基本姿勢について説明できる。			
5	【授業単元】 生活困窮・貧困への心理支援について学ぶ			13	【授業単元】 家族・職員への心理支援について学ぶ			
	【到達目標】 生活困窮・貧困の実態と心理支援について理解できる(オームレス・生活保護・貧困女性等) 公認心理師の役割について説明することができる。				【到達目標】 福祉対象者の家族への心理支援の在り方について説明することができる。 福祉施設職員への心理支援の在り方について説明することができる。			
6	【授業単元】 児童虐待への心理支援について学ぶ			14	【授業単元】 福祉分野での多職種協働と心理職に位置づけについて学ぶ			
	【到達目標】 児童虐待のげんじょうについて説明することができる。 虐待問題における関係機関の対応や役割について説明することができる。 施設や里親、ファミリーホームへの委託における心理職の役割について説明することができる。				【到達目標】 各専門職の役割と多職種協働、チームアプローチについて説明することができる。 医療福祉現場における公認心理師の役割について説明することができる。 多職種が協働する際の留意点について説明することができる。			
7	【授業単元】 子どもと親への心理支援について学ぶ			15	【授業単元】 これまでのまとめ 定期試験及び解説			
	【到達目標】 現在の子育て環境の現状や支援事業について説明することができる。 ひとり親家庭への支援について説明することができる。 養保護・養育支援ケースや社会的養護における子どもと親への支援について説明することができる。				【到達目標】 第14回目までの授業内容を理解できている 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。			
8	【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中テスト			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明することができる。			- 試験は筆記試験で行う。 - 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
- デバイスには十分な充電を行って講義を受けて下さい。 - グループワークでの討論等に積極的に参加して下さい。								

授 業 概 要

科目名	教育・学校心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 発達と学習に関する理論の深い理解 2. 学校心理学の基礎と実践的知識の習得 3. 心理アセスメントと教育評価の技術の習得 4. 学校における心理的課題への対応と支援スキル 5. 現代の教育・学校心理学に関する課題の理解と対応 以上の5つを理解し習得できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、グループでの発表やグループワークを通して、支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。授業は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、映像や技法の実技を取り入れていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「公認心理師の基礎と実践18 教育・学校心理学」第2版 石隈利紀編 遠見書房					授業で扱う「リエゾン」の内容を必ず読んでください。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の進め方について 第1章「教育学校心理学の意義」 【到達目標】 1.学校現場の特性を理解し、臨床実践における支援の現実を想像しながら学ぶことができる。 2.心理学の理論や知識を、実際の事例や臨床場面に応用する視点を持って学習に取り組める。			9	【授業単元】 第9章「いじめの理解と援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.学校の中で問題が起きた時にはどのような取り組みが行われているのかを知る。 2.いじめ・不登校の現状とその対応の基本的な考え方を理解する。 3.さまざまな被害の背景を知り、その人にとってより良い支援とは何かを考えること。				
2	【授業単元】 第2章「子どもの発達課題への取り組みの理解と援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.発達段階の理論とその特徴を理解し、支援に活かせる力を身につける。 2.子どもの心理的・社会的課題に対する観察・アセスメント能力を高めることができる。 3.起立性調節障害についての理解を深め、その具体的な援助方法を学ぶ。			10	【授業単元】 第10章「非行の理解と非行をする子どもの援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.非行の区分(犯罪型、不良行為型、学校規範違反型)と、学校現場での取り組みを知る。 2.非行問題の現状と、その背景にある「満たされない思い」を理解する。 3.非行をする子どもへの対応において、一方的な叱責ではなく信頼関係を築くSCの役割を理解する				
3	【授業単元】 第3章「子どもの教育課題への取り組みの援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.日本の教育制度と法律(教育基本法、学校教育法等)について基本的な内容を説明できる。 2.いじめや不登校など、現代の教育課題とその背景を具体例を挙げて説明できる。 3.ヤングケアラーが抱える現状の課題とその支援のあり方について説明できる			11	【授業単元】 第11章「学校における危機対応」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.学校危機の定義を理解し、事象発生直後から中長期にわたる実際の対応の流れを学ぶ。 2.さまざまな危機(事件・事故・災害等)に対して、SCとしての基本的な考え方や役割を理解する。 3.大切なものを失った子どもへの「グリーフケア」と、寄り添いながら回復を待つ支援姿勢を学ぶ。				
4	【授業単元】 第4章「スクールカウンセリングの枠組み」 (担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.スクールカウンセラー(SC)の配置状況や現在の役割について理解する。 2.小・中・高の年代ごとの困り感を知り、その背景を想像する力を高める。 3.リストカットなどの自傷行為を繰り返す子どもの心理とその背景を知り、具体的な支援方法を理解する。			12	【授業単元】 スクールソーシャルワーカーとは(ゲストスピーカー) 【到達目標】 1.SSWの役割や専門性を理解し、SCとの違いや連携の重要性を説明できる。 2.家庭・経済・福祉など社会的要因が子どもの学習や通学に影響することを具体例から理解できる。 3.教育現場での「チーム学校」におけるSCとSSWの協働のあり方を具体的にイメージできる。				
5	【授業単元】 第5章「子どもの多様な援助者チーム援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.子どもの困り感を把握し、寄り添える「チーム学校」のあり方について理解できる。 2.チーム学校内での各専門職(教員、SC、SSW等)の役割と連携のポイントを知る。 3.摂食障害の背景にある心理的要因を理解し、チームとしてどのように支援できるかを学ぶ。 第6回:3段階の心理教育的援助サービス			13	【授業単元】 12章「学級づくりの援助」・第13章「学校づくりの援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.学校・学級はどのような相互作用で作られているのかを知る。 2.SCはチーム学校としてどのようなニーズがあるのかを知る。 3「性」のテーマは、学校でどのような対応が行われるのかを知り、命の大切を知る。				
6	【授業単元】 第6章「3段階の心理教育的援助サービス」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.すべての児童生徒を対象とした一次的援助サービスの具体的な取り組み(予防的・発達の支援)を理解する。 2.特定の課題を持つ子どもへの二次的・三次的援助サービスと、SCとしての効果的な関わり方を知る。 3.母子登校を行う子どもの困り感や保護者の心理状態を知り、社会的自立に向けた具体的な支援を学ぶ			14	【授業単元】 第14章「地域ネットワークづくりの援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.虐待の連鎖が家族内でどのように起こるか、その心理的力動を理解する。 2.被虐待児やその家族が抱える罪悪感や嫌悪感などの複雑な心理状態を想像し、支援のあり方を考える。 3.学校・家庭・関係機関をつなぐ地域ネットワークを活用した援助の重要性を学ぶ。				
7	【授業単元】 第7章「発達障害の理解と援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.発達障害(LD、ADHD、ASD等)を「生活障害」として捉え、その特性と背景を理解する。 2.ICF(国際生活機能分類)モデルを活用し、困難さの悪循環を好循環へ変えるための介入方法を学ぶ。 3.校内特別支援委員会や特別支援教室巡回相談心理士の役割を知り、チームでの支援体制を理解する。			15	【授業単元】 定期試験 第15章「教育・学校心理学と公認心理師の実践」 【到達目標】 1.定期テストを通して、これまでの学習を振り返ることができる。 2.学校教育における心理的課題を把握し、その背景を心理学的に説明できる。 3.学校臨床とはどういうものかを振り返り整理することができる。				
8	【授業単元】 中テスト、第8章「不登校の理解と援助」(担当グループのレジュメ発表) 【到達目標】 1.中テストを通してこれまでの内容を確認できる。 2.スクールカウンセラーの課題と今後について知る。			【成績評価の方法と基準】 各回的小テスト、中テスト 40点 グループ発表 20点 定期テスト 40点					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
各回でグループで作成したレジュメを発表する機会を作ります。									

授業概要

科目名	司法・犯罪心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	阿相周一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
司法・犯罪心理学を概観し、基礎的・包括的な知識、理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 犯罪発生のメカニズムおよび犯罪予防、司法制度を理解し、説明することができることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、医療(特に依存症の再発予防や犯罪の再犯防止)や教育等の領域で臨床活動に携わる。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学第2版 遠見書房 参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目オリエンテーション	【到達目標】 司法・犯罪心理学とはどのような学問かを説明できる			9	【授業単元】 犯罪プロファイリング	【到達目標】 犯罪プロファイリングを説明できる		
2	【授業単元】 刑事司法手続き	【到達目標】 刑事司法手続きを説明できる			10	【授業単元】 犯罪・非行の心理アセスメント	【到達目標】 犯罪・非行の心理アセスメントを説明できる		
3	【授業単元】 犯罪動向と犯罪類型	【到達目標】 犯罪動向と犯罪類型を説明できる			11	【授業単元】 鑑定	【到達目標】 鑑定を説明できる		
4	【授業単元】 犯罪心理1	【到達目標】 犯罪を犯すメカニズムを説明できる			12	【授業単元】 犯罪被害者への心理支援	【到達目標】 犯罪被害者への心理支援を説明できる		
5	【授業単元】 犯罪心理2	【到達目標】 犯罪を犯すメカニズムを説明できる			13	【授業単元】 犯罪加害者への再犯防止活動	【到達目標】 犯罪加害者への再犯防止活動を説明できる		
6	【授業単元】 犯罪心理3	【到達目標】 犯罪を犯すメカニズムを説明できる			14	【授業単元】 司法・犯罪領域の現場	【到達目標】 司法・犯罪領域の現場を説明できる		
7	【授業単元】 犯罪心理4	【到達目標】 犯罪を犯すメカニズムを説明できる			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説	【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている		
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士における研究の実践として、以下の内容への理解と取り組みができることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究の実践と手順による体験を各段階において提示し、個別・集団で取り組む研究への取り組みを進める。その過程において、研究テーマ策定、調査手法や実践手法、分析手順、資料の作成、執筆手法などの教授を踏まえ、受講者が段階に応じた研究を進めることで、研究段階への習熟を目指す。また、段階により随時、制作物提出や研究発表などを行うにあたって必要な授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要資料】授業内スライド、コマシラバス、各種ワークシート 【参考資料・教材】HAD(統計ソフト)、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Power Point など。					本授業は段階に応じて進行する「研究」が主軸となるため、各々の作業や達成度が非常に重要となり、授業時間外で取り組むべきことが非常に多い。 ■そのため、以下の学習や姿勢を推奨する。 ①授業課題の確実な達成、②積極的な研究領域の情報収集と理解 ③不明点への早急な質問実践、④計画的な進行姿勢				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、研究前提の確認				9	【授業単元】 研究立案(1)文献研究のテーマ立案と視点の確立			
	【到達目標】 本研究の進行形式を理解し、研究の種別と前提として必要な条件を説明できる。					【到達目標】 ・文献研究のテーマを検討し、確定することができる。 ・自身がどのような観点から研究論理を構成しているかを説明することができる。			
2	【授業単元】 研究準備(1)認知特性と学習・実行スタイルの検討－基本編				10	【授業単元】 研究立案(2)文献研究における資料作成及び収集・整理・読解			
	【到達目標】 研究を段階的に進める上で、自身のインプットやアウトプットの傾向について説明できる。					【到達目標】 ・文献研究のテーマで必要となる各種資料をそろえることができる。 ・作成すべきレジュメの様式について説明し、作成することができる。			
3	【授業単元】 研究準備(2)認知特性と学習・実行スタイルの検討－応用編				11	【授業単元】 研究立案(3)レジュメに基づく発表資料作成のポイント			
	【到達目標】 研究を段階的に進める上で、自身のインプットやアウトプットの傾向を踏まえて、実際にどのような取り組みが必要であるのかを説明し、実践できる。					【到達目標】 ・文献研究で必要となるプレゼンテーションの注意点について説明することができる。 ・文献研究の発表資料の作成を行うことができる。			
4	【授業単元】 研究準備(3)論理的思考と文脈的理解－基本編				12	【授業単元】 研究立案(4)文章表現と研究論理について			
	【到達目標】 研究論理を構成する上で、文脈や論理の読解について、自身の傾向を説明することができる。					【到達目標】 ・レジュメでの論理展開やエビデンスについて、飛躍や欠如を発見できる。 ・結論に向けて述べるべき内容についてまとめることができる。			
5	【授業単元】 研究準備(4)論理的思考と文脈的理解－応用編				13	【授業単元】 研究立案(4)文献研究における質疑応答と校正作業			
	【到達目標】 研究論理を構成する上で、文脈や論理の読解について、自身のバイアスを踏まえて、主観性と客観性を切り分けた活用を説明できる。					【到達目標】 文献研究の発表に備えた資料を完成させ、質疑応答への準備として質問への想定ができる。			
6	【授業単元】 研究準備(5)多面的視点による建設的検討－基本編				14	【授業単元】 期末発表－前編			
	【到達目標】 研究発展に必要な複数の視点からの展望的展開について、どのような点が必要か説明することができる。					【到達目標】 これまでに策定した研究について、その概要を一定の基準に沿って発表することができる。			
7	【授業単元】 研究準備(6)多面的視点による建設的検討－応用編				15	【授業単元】 期末発表－後編			
	【到達目標】 研究発展に必要な複数の視点からの展望的展開について、自身をはじめとした具体的な対象に活用した見通しを立てて実施することができる。					【到達目標】 これまでに策定した研究について、その概要を一定の基準に沿って発表することができる。			
8	【授業単元】 中間試験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 研究準備の過程で得られた重要点について、試験を通して研究実施への取り組みを説明することができる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 小テストの代わりに課題を提示する。これらは各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					本授業は通年であり、前期と後期で継続的に展開する部分もある。また、課題の未達成となると評価不可になることから、課題の確実な達成を推奨する。				
・「目的達成に向けた主体性、計画性、協調性」が本授業の要となる。 ・分からない部分は自分で調べ、質問や学生同士の相互理解を推奨する。 ・心理学研究法、心理学統計法が前提であり、PC操作の習熟が必要。									

授 業 概 要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士における研究の実践として、以下の内容への理解と取り組みができることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究の実践と手順による体験を各段階において提示し、個別・集団で取り組む研究への取り組みを進める。 その過程において、研究テーマ策定、調査手法や実践手法、分析手順、資料の作成、執筆手法などの教授を踏まえ、受講者が段階に応じた研究を進めることで、研究段階への習熟を目指す。また、段階により随時、制作物提出や研究発表などを行うにあたって必要な授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要資料】授業内スライド、コマシラバス、各種ワークシート 【参考資料・教材】HAD(統計ソフト)、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Power Point など。					本授業は段階に応じて進行する「研究」が主軸となるため、各々の作業や達成度が非常に重要となり、授業時間外で取り組むべきことが非常に多い。 ■そのため、以下の学習や姿勢を推奨する。 ①授業課題の確実な達成、②積極的な研究領域の情報収集と理解 ③不明点への早急な質問実践、④計画的な進行姿勢				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、量的研究分野の策定				9	【授業単元】 研究実践(4)結果-統計ソフトと収集データに基づく分析(4)及び中間報告			
	【到達目標】 ・量的研究の概要について説明することができる。 ・量的研究で検討する研究テーマについて選択した理由を述べることができる。					【到達目標】 ・t検定を実施し、表を作成することができる。 ・これまでのデータ分析について、中間課題として分析結果を報告することができる。			
2	【授業単元】 研究手続き(1)問題と目的-実践可能性に基づく量的研究の論理構成について				10	【授業単元】 研究総括(1)考察-研究目的と仮説の支持と不支持			
	【到達目標】 ・量的研究における社会的意義と検討すべきテーマの検討過程について情報収集できる。 ・量的研究で必要な仮説の設定を要因計画を踏まえて検討することができる。					【到達目標】 ・考察の構成を確認し、研究目的をはじめとして必要な内容を説明することができる。 ・仮説の支持と不支持について、分析データを基に読解し、判断することができる。			
3	【授業単元】 研究手続き(2)方法-要因計画と使用尺度の選択について				11	【授業単元】 研究総括(2)考察-本研究の課題と今後の展望			
	【到達目標】 ・量的研究における分析の要である要因計画について、研究テーマに応じた説明ができる。 ・量的研究で必要な使用尺度の選び方について説明し、因子構造の確認ができる。					【到達目標】 ・考察における研究上の課題と今後の展望についてまとめることができる。			
4	【授業単元】 研究手続き(3)方法-倫理事項を踏まえた調査計画書の作成				12	【授業単元】 研究総括(3)全体構成確認と質疑応答のポイント			
	【到達目標】 ・量的研究におけるレジュメの作成を行うことができる。 ・量的研究に必要な倫理申請や関連書類について説明することができる。					【到達目標】 ・発表に向けたレジュメとプレゼン資料について作成することができる。 ・量的研究で問われる質疑応答のポイントについて説明することができる。			
5	【授業単元】 研究手続き(4)方法-量的研究における発表資料の作成				13	【授業単元】 最終校正とリハーサル			
	【到達目標】 ・量的研究における発表資料に必要な内容を説明することができる。 ・問題、目的、方法、結果、考察の構成について、模範的な構成を作成することができる。					【到達目標】 ・期末発表に向けた資料の最終校正とプレゼンテーションのリハーサルを通じて備えることができる。			
6	【授業単元】 研究実践(1)結果-仮説検証に必要なデータの選別と入力				14	【授業単元】 期末発表-前半			
	【到達目標】 ・量的研究における仮説検証のため、実際のデータに基づく分析方法を想定できる。 ・量的研究におけるデータについて、データシートにまとめることができる。					【到達目標】 ・聴衆に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。			
7	【授業単元】 研究実践(2)結果-統計ソフトの扱いと収集データに基づく分析(1)				15	【授業単元】 期末発表-後半			
	【到達目標】 ・結果の報告に必要な表の様式について説明し、作成することができる。 ・基本統計量を算出し、表を作成することができる。					【到達目標】 ・聴衆に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。			
8	【授業単元】 研究実践(3)結果-統計ソフトの扱いと収集データに基づく分析(2)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・因子分析を実施し、因子分析表を作成することができる。 ・相関分析を実施し、相関分析表を作成することができる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 小テストの代わりに課題を提示する。これらは各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					本授業は通年であり、前期と後期で継続的に展開する部分もある。また、課題の未達成となると評価不可になることから、課題の確実な達成を推奨する。				
・「目的達成に向けた主体性、計画性、協調性」が本授業の要となる。 ・分からない部分は自分で調べ、質問や学生同士の相互理解を推奨する。 ・心理学研究法、心理学統計法が前提であり、PC操作の習熟が必要。									

授 業 概 要

科目名	心理学と心理学的支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学と心理学的支援を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 “心”の諸機能や発達過程、“心”の健康・不適応、心理学的支援を理解し、説明できることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた経験を活かし、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指すことは勿論、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルで行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材:配布資料					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な学習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション				9	【授業単元】 心の健康・健康生成論			
	【到達目標】 心理学とはどのような学問かを説明することができる					【到達目標】 心の健康、健康生成論を説明することができる			
2	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能1				10	【授業単元】 心の不適応・精神疾患			
	【到達目標】 感情・動機付け・欲求を説明することができる					【到達目標】 心の不適応、精神疾患を説明することができる			
3	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能2				11	【授業単元】 アセスメントと支援の基本1(心理アセスメント)			
	【到達目標】 感覚・知覚・認知を説明することができる					【到達目標】 心理アセスメントを説明することができる			
4	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能3				12	【授業単元】 アセスメントと支援の基本2(心理検査)			
	【到達目標】 学習と行動を説明することができる					【到達目標】 心理検査を説明することができる			
5	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能4				13	【授業単元】 アセスメントと支援の基本3(心理療法)			
	【到達目標】 知能とパーソナリティを説明することができる					【到達目標】 心理療法や支援の基本的技法、介入技法を説明することができる			
6	【授業単元】 社会の中での心理				14	【授業単元】 アセスメントと支援の基本4(心理療法)			
	【到達目標】 社会の中での心理を説明することができる					【到達目標】 心理療法や支援の基本的技法、介入技法を説明することができる			
7	【授業単元】 人の心の発達過程				15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説			
	【到達目標】 人の心の発達過程を説明することができる					【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授 業 概 要

科目名	社会学と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム(制度・構造など)を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。さらに、具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案することができるようになることである。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉の視野から社会というもののあり方、仕組み(社会システム)自体を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用する資料・レジュメは授業ごとに配布する					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはず。そして、試験前には徹底的に覚えこみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 社会学の視点 第2章 社会変動(社会学の誕生) 【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解する ・コントとマルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ学問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる				9	【授業単元】 第10章 自己と他者 役割問題 【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる			
2	【授業単元】 第3章 家族社会学 【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の変容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・家族機能とジェンダーについて考察することができる				10	【授業単元】 第11章 組織と集団 【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・準集団の説明ができる			
3	【授業単元】 第4章 都市社会学 農村社会学 【到達目標】 ・地域社会の過疎問題を説明できる ・ワースのアーバニズム論を語る事ができる ・クラークの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語る事ができる				11	【授業単元】 第12章 資源と地球環境問題 【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジレンマに関する理論を説明できる ・SDGsを説明できる			
4	【授業単元】 第5章 格差問題 【到達目標】 ・我が国の「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義ができる ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる				12	【授業単元】 第13章 グローバリゼーション 【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・在日外国人労働者の現状を語る事ができる ・グローバル化の経済への影響を説明できる			
5	【授業単元】 第6章 社会政策と社会問題 【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる ・福祉国家成立の歴史的背景を解説できる				13	【授業単元】 第14章 社会構造と変動 【到達目標】 ・コント・スパンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる			
6	【授業単元】 第7章 差別と偏見 社会関係資本と社会的規範 【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの『孤独な群衆』の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる ・ラベリング理論についての解説ができる				14	【授業単元】 第15章 社会学の歴史 【到達目標】 ・社会学の歴史を解説できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる			
7	【授業単元】 第8章 雇用・生活と人生 【到達目標】 ・ベティ=クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる ・ワークライフバランスの背景を説明できる				15	【授業単元】 ・社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験 【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 第9章 人口問題 中テスト15点満点 【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に原因と政府の対策を解説できる ・高齢化の現状とその問題点を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に及ぼす影響を指摘することができる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授業概要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。 ・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスモールステップで進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Teamsで配信するレジュメを使用する。 参考図書は授業内で紹介する。					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類				9	【授業単元】 質的調査の意義・目的			
	【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 ・質的調査と量的調査の違い が説明できる。			
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法				10	【授業単元】 質的調査のデザイン			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。					【到達目標】 ・質的データ分析のための基礎的作業の手順 が説明できる。			
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護				11	【授業単元】 質的データの分析方法 新しい研究方法			
	【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。					【到達目標】 ・データの分析方法の特徴 ・新しい研究法 が説明できる。			
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン				12	【授業単元】 プログラム評価・実践評価			
	【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。			
5	【授業単元】 量的調査の基礎(尺度、信頼性・妥当性)				13	【授業単元】 振り返り①(社会福祉調査の意義)			
	【到達目標】 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。 ・信頼性と妥当性 の概念を理解する。					【到達目標】 社会福祉調査の基礎的知識の定着を図る。			
6	【授業単元】 全数調査と標本調査 横断調査と縦断調査				14	【授業単元】 振り返り②(量的調査・質的調査)			
	【到達目標】 ・全数調査と標本調査の違い、抽出方法の特徴 が説明できる。 ・横断調査と縦断調査の特徴 が説明できる。					【到達目標】 量的調査・質的調査の基礎的知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 質問票の作成・配布・回収				15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験			
	【到達目標】 ・質問法の作成・配布・回収それぞれの留意点 が説明できる。					【到達目標】 ・知識の定着と社会福祉調査の実践力の度合い を確認する。			
8	【授業単元】 データの整理と分析				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・データの視覚化 を理解する。 ・検定の種類と特徴 が説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

授業概要

科目名	権利擁護を支える法制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	上本昌昭		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・権利擁護とは何か、その必要性和活動の実際、ならびにそれを支える人権保障について理解している。 ・権利擁護の前提にある意思決定支援とは何か、それを行う上で遵守すべき事項について、各種ガイドラインに即して理解している。 ・権利擁護の際に必要な成年後見制度の利用手続きと後見人等の活動範囲について理解している。 ・行政不服審査や行政事件訴訟、各種消費者保護法制といった、権利侵害に対する救済制度と、その具体的利用手続きについて理解している。 ・各種の虐待防止や差別解消の仕組みなど、権利侵害を防止する仕組みについて理解している。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
大学や専門学校で基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、意思決定支援、成年後見制度、相談援助に必要な法制度の知識など、要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・配布レジュメ、配付資料					各種の法律や制度を理解するには、まずその全体像をイメージできるようになることが重要である。そのために、各授業のテーマ（単元）を念頭におき、その内容が想起できる程度になるまで振り返る。その上で、授業で解いた問題は確実に解答できるように解き直しておくことよ。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目ガイダンス 意思決定支援とは何か			9	【授業単元】 行政救済の仕組み① —行政行為（処分）—				
	【到達目標】 ・なぜSWに権利擁護の理解が必要となるのかを説明できる。 ・「支援付意思決定」と「代理代行決定」の違いを説明できる。 ・意思決定支援に関する各種指針の内容を理解している。				【到達目標】 ・行政行為（処分）とは何か説明できる。 ・裁量行為と司法審査の関係について理解する。 ・行政救済制度の全体像を理解する。				
2	【授業単元】 要支援者の権利 —支援者の義務—			10	【授業単元】 行政救済の仕組み② —行政訴訟—				
	【到達目標】 ・憲法の「個人の尊重」原理と人格権について説明できる。 ・憲法が保障する各種自由とそれに関連する判例を想起できる。 ・要支援者の自己決定権とプライバシー権の保障を説明できる。				【到達目標】 ・審査請求とは何か説明できる。 ・審査請求前置主義をふまえて救済手続きの流れを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。				
3	【授業単元】 要支援者の生活保障 —社会保障制度の法的根拠—			11	【授業単元】 取引上の保護の仕組み① —契約—				
	【到達目標】 ・生存権の意義と社会保障制度との関連性について説明できる。 ・朝日訴訟と堀木訴訟の違いと最高裁判決の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。				【到達目標】 ・契約の成立要件を理解し、各種の契約の特徴を列挙できる。				
4	【授業単元】 ケアの担い手たる親族関係			12	【授業単元】 取引上の保護の仕組み② —民事救済の方法—				
	【到達目標】 ・婚姻と離婚による親族関係の伸縮の仕組みを説明できる。 ・親子関係の形成、親権の帰属の仕組みを説明できる。 ・遺言と法定相続を理解した上で相続割合を計算できる。				【到達目標】 ・消費者契約法と特定商取引法による救済方法を説明できる。 ・詐欺、強迫、錯誤といった民法による救済方法を説明できる。 ・意思無能力無効の法理を理解している。				
5	【授業単元】 こどもの権利擁護 —こどものアドボカシー—			13	【授業単元】 権利侵害防止の仕組み① —民事責任の追及—				
	【到達目標】 ・こどもの法的位置づけと権利条約の基本原則を説明できる。 ・親子の分離禁止と社会的養護等へつなぐ手続きを説明できる。 ・意見聴取等措置と意見表明等支援員の仕組みを説明できる。				【到達目標】 ・債務不履行、不法行為など民事責任追及の方法を説明できる。 ・行政と民事の救済方法と苦情解決の仕組みを理解している。				
6	【授業単元】 成年後見制度① —大人のアドボカシー—			14	【授業単元】 権利侵害防止の仕組み② —虐待・暴力・差別の防止—				
	【到達目標】 ・法定後見の各類型の対象とその権限の違いを説明できる。 ・法定後見の申立てと辞任・解任の手続きについて説明できる。 ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。				【到達目標】 ・各種の虐待や暴力を防止する仕組みについて理解している。 ・差別解消の仕組みなど権利侵害防止の仕組みを理解している。				
7	【授業単元】 成年後見制度② —日常生活自立支援事業—			15	【授業単元】 定期テスト				
	【到達目標】 ・『概況』の内容と成年後見制度が抱える課題を説明できる。 ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。				【到達目標】 ・学習したことを振り返り、全体像をイメージできる。 ・知識が不足している部分、理解が足りない事項を確認する。 ・定期試験の解答解説を通じて、学習内容を振り返る。				
8	【授業単元】 中間テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・これまでの内容を振り返り、試験を通じて知識を整理する。 ・民法改正（親族関係、成年後見関係等）の動向を想起できる。			科目の評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。 各回の授業で5点満点の小テストを実施する（第8回のみは15点満点）。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数（40点満点：小数点以下は切り上げ）と定期試験（60点満点）を合算した100点満点で、AからFの6段階で評価を行う。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではメモの労はいわず、配布したレジュメ・資料は整理して、授業後に見直せるようにしておくこと。理解の放棄や放置のツケは、必ず後から支払われる！特に国家試験まで時間的余裕がある場合には理解がおろそかになりがちだが、諦めずに取り組んでほしい。									

授 業 概 要

科目名	社会保障	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	若尾 尚子		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ②現代社会における社会保障制度の役割と意義、制度の財政や取り組むべき課題について理解する。 ③わが国における社会保障制度の体系と概要、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座7 社会保障 中央法規出版					過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第4節 社会保障の対象・第5節 社会保障制度の展開			
	【到達目標】 社会保障と社会福祉の関係について理解できる。医療や福祉の専門職として、社会保障を学ぶ意義について理解できる。					【到達目標】 社会保障の人的な適用範囲の捉え方を理解できる。社会保障制度の歴史を理解できる。			
2	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第1節 人口動態の変化				10	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第1節 社会保障の財政			
	【到達目標】 人口減少と少子高齢化が社会および社会保障に与える影響について考えることができる。					【到達目標】 社会保障財政を支える財源は多様であることが理解できる。			
3	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第2節 経済環境の変化				11	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第2節 社会保障給付費・内訳・動向			
	【到達目標】 現在の国民の所得、貯蓄、負債の状況を把握することができる。					【到達目標】 社会保障給付費の内訳と誰に重点が置かれた支出が多いかを理解できる。			
4	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第3節 労働環境の変化				12	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第3節 国民負担率			
	【到達目標】 労働力と失業、非正規雇用の状況等の労働環境の変化について理解することができる。					【到達目標】 国民負担率の定義、その水準や動向が理解できる。			
5	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第1節 社会保障の概念と範囲				13	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第4節 社会保障と経済			
	【到達目標】 社会保障の定義についての説明をよく読み、社会保障の定義が理解できる。					【到達目標】 社会保障の給付と負担の、私たちの経済のなかの大きさについて考えることができる。			
6	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第2節 社会保障の役割と意義				14	【授業単元】 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節 保険と扶助の考え方			
	【到達目標】 個人の人生において社会保障に期待される役割について理解することができる。					【到達目標】 保険と扶助の考え方、原理の違いについて理解できる。			
7	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第3節 社会保障の理念				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 日本国憲法第25条の規定を確認し、生存権について理解することができる。					【到達目標】 前期後半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。			
8	【授業単元】 定期試験(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前期前半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではテキストを使用するため必ず持参すること。また、今回の復習と次回 の予習のためにテキストを読んでおくこと。									

科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。
また、試験は筆記試験で行う。
毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。

授業概要

科目名	社会保障	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	若尾 尚子		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ②現代社会における社会保障制度の役割と意義、制度の財政や取り組むべき課題について理解する。 ③わが国における社会保障制度の体系と概要、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座7 社会保障 中央法規出版					過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第2節 社会保険と社会扶助の考え方・第3節				9	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第4節 労災保険制度と雇用保険制度の概要			
	【到達目標】 歴史的経緯のなかで区別整理された社会保険と社会扶助について理解することができる。					【到達目標】 労働保険(労災保険と雇用保険)の概要を理解することができる。			
2	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節 医療保険制度の概要				10	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第5節 生活保護制度の概要 ・ 第6節 社会手当制度の概要			
	【到達目標】 医療保険制度の全体像、体系と沿革を把握し、医療保険制度の類型について理解できる。					【到達目標】 生活保護制度の概要について理解することができる。各種社会手当の内容が理解できる。			
3	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節 医療保険制度の概要				11	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第7節 社会福祉制度の概要			
	【到達目標】 医療保険制度の財政の仕組みを把握し、医療費の流れを理解することができる。					【到達目標】 社会福祉の各分野(高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉)の諸制度について理解できる。			
4	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第2節 介護保険制度の概要				12	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第1節 諸外国の社会保障			
	【到達目標】 介護保険制度の沿革と概要について理解できる。					【到達目標】 主要国の社会保障制度について、各国の特徴を理解することができる。			
5	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第2節 介護保険制度の概要				13	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第2節 社会保障の国際比較			
	【到達目標】 地域包括ケアシステムと介護保険の関係が理解できる。					【到達目標】 主要国の社会保障の現状を比較し、理解することができる。			
6	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第3節 年金制度の概要				14	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第3節 社会保障の国際化			
	【到達目標】 年金制度の基本的な仕組みについて理解できる。					【到達目標】 社会保障の国際化は必要か、国際化対応により期待される効果は何かを考えることができる。			
7	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第3節 年金制度の概要				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 年金制度の最近の動向と課題について理解できる。					【到達目標】 後期後半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。			
8	【授業単元】 定期試験(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 後期前半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではテキストを使用するため必ず持参すること。また、今回の復習と次回 の予習のためにテキストを読んでおくこと。									

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「精神保健の課題と支援」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 ・オリエンテーション			9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における家族の課題と支援～その1～				
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の目標・予定・進め方について理解できる。 ・国家試験過去問の傾向と対策について理解することができる。 ・精神保健とは、ということについて理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・返却・講評された中間試験を振り返り、後半の課題を明確にすることができる。 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その1～。				
2	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その1～			10	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その2～				
	【到達目標】 ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その2～。				
3	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その2～			11	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その3～				
	【到達目標】 ・社会・時代の変化と精神保健の課題の変化について考え、理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・思春期の家族関係・友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自らの人間関係について振り返ることができる。				
4	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その3～			12	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その4～				
	【到達目標】 ・社会的孤立の問題について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・性と心の結びつきについて理解し、説明することができる。 ・精神保健における性行動への対応について理解し、説明することができる。				
5	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その4～			13	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その5～				
	【到達目標】 ・社会的貧困の問題について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・性別違和について理解し、説明することができる。 ・性別違和の当事者の生きづらさとその支援について理解し、説明することができる。				
6	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その5～			14	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その6～				
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の歴史について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・結婚に関する意識調査に基づく結婚観の変化について理解し、説明することができる。 ・結婚により生じる精神保健の問題について理解し、説明することができる。				
7	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その6～			15	【授業単元】 ・定期試験				
	【到達目標】 ・エリクソンのライフサイクルについて理解し、説明することができる。 ・各発達段階の課題について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・前期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				
8	【授業単元】 ・中テスト			【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援 第2版」(中央法規)				授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。					
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・精神保健における学校教育の課題と支援～その1～ 【到達目標】 ・後期後半の授業の目的・予定について理解することができる。 ・現代の学校教育における諸課題について理解し、説明することができる。			9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における職場の課題と支援～その1～ 【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その1～。				
2	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・いじめの問題とその対策について理解し、説明することができる。			10	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その2～。				
3	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その3～ 【到達目標】 ・学校における暴力問題について理解し、説明することができる。 ・非行問題について理解し、説明することができる。			11	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その3～ 【到達目標】 ・過労死の問題と対策について理解し、説明することができる。				
4	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その4～ 【到達目標】 ・子どもの自殺とその対策について理解し、説明することができる。			12	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その4～ 【到達目標】 ・事業場における勤労者のメンタルヘルス対策について理解し、説明することができる。				
5	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その5～ 【到達目標】 ・教職員の精神疾患の現状について理解し、説明することができる。 ・教職員の支援について理解し、説明することができる。			13	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その1～ 【到達目標】 災害支援について理解し、説明することができる。				
6	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その1～ 【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その1～。			14	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その2～ 【到達目標】 ・緩和ケアについて理解し、説明することができる。				
7	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その2～ 【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その2～。			15	【授業単元】 ・定期試験 【到達目標】 ・後期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				
8	【授業単元】 ・中テスト 【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授業概要

科目名	心理学実験	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山岸 有里		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①心理学実験が心理学研究ひいては臨床実践の基礎にあることについて理解し、説明することができる。 ②さまざまな心理学実験の方法と実際について理解し、説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士の資格保有者である講師が、公認心理師として研究の基礎となり、ひいては、現場に通じる心理学実験に関する授業を行う。グループで実験を実施し、考察レポートを個人で書いていく形式で実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理学実験の概要～その1～				9	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その1～			
	【到達目標】 ・心理学実験の授業の目的・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理学および公認心理師における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。 ・「ミューラーリヤー錯視」について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その1～。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。			
2	【授業単元】 ・心理学実験の概要～その2～				10	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その2～			
	【到達目標】 ・心理学研究における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その2～。			
3	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その1～				11	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その3～			
	【到達目標】 ・動物を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「ラットのレバー押しの実験」について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その3～。			
4	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その2～				12	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その4～			
	【到達目標】 ・学習に関する心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「鏡映描写」について理解し、説明することができる。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その4～。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。			
5	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その3～				13	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その5～			
	【到達目標】 ・感覚・知覚を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「触角の二点弁別」について理解し、説明することができる。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その5～。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。			
6	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その4～				14	【授業単元】 ・心理学実験の実際～その6～			
	【到達目標】 ・記憶を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「系列位置効果」について理解し、説明することができる。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。					【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その6～。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。			
7	【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その5～				15	【授業単元】 ・定期試験 振り取り			
	【到達目標】 ・感情を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「表情研究」について理解し、説明することができる。 ＊標準的レポートを授業中に作成して提出。					【到達目標】 ・1～14回目の振り取りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。			
8	【授業単元】 ・中テスト				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60％、毎回授業の小テスト40％の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・1～7回目の振り取りを行い、その内容を理解し、説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ひとつひとつの実験を研究にそして現場に、どのように活かすことができるのかをつねに意識しながら授業に臨むこと。随時、グループワークを行うので積極的に参加すること。									

授業概要

科目名	知覚・認知心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	望月勇希		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人の感覚や知覚などについてやその機序や障害、人の認知や思考などについてやその機序や障害について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で臨床経験のある講師がその実務経験を活かし、心理学の知識が心理学的支援にどのようにつながるかについても交え授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認心理師の基礎と実践⑦[第7巻] 知覚・認知心理学 箱田裕司編 遠見書房					ニュースやSNSなどでは様々な出来事や現象が発信されています。日ごろからアンテナを立てて心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 知覚・認知心理学を学ぶ前に				9	【授業単元】 第7章 記憶			
	【到達目標】 知覚や認知の定義について説明できる。					【到達目標】 記憶の構造やワーキングメモリー、長期記憶や忘却、顕在記憶と潜在記憶について説明できる。			
2	【授業単元】 第1章 知覚・認知心理学とは				10	【授業単元】 第8章 知識の表象と構造			
	【到達目標】 知覚・認知心理学の歴史や研究法について説明できる。					【到達目標】 宣言的知識と手続き的知識、スキーマとスクリプトについて説明できる。			
3	【授業単元】 第2章 感覚				11	【授業単元】 第9章 イメージの性質と機能			
	【到達目標】 感覚の種類や構造、特性について説明できる。					【到達目標】 イメージについてやその性質や機能について説明できる。			
4	【授業単元】 第3章 視知覚				12	【授業単元】 第10章 問題解決・推論・意思決定			
	【到達目標】 目の構造や網膜の役割について説明できる。					【到達目標】 問題解決や推論、判断と意思決定について心理学的に説明できる。			
5	【授業単元】 第4章 聴知覚				13	【授業単元】 第11章 認知の個人差			
	【到達目標】 聴覚の仕組みや聴覚情報の処理される過程について説明できる。					【到達目標】 認知の個人差、IQとEQについて説明できる。			
6	【授業単元】 第5章 感性				14	【授業単元】 第12章 知覚・認知の障害			
	【到達目標】 感性についてや快、不快、感性和創造の関係について説明できる。					【到達目標】 視知覚や記憶の障害について説明できる。			
7	【授業単元】 第6章 注意				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説			
	【到達目標】 注意についてや注意の仕組みや機序について説明できる。					【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 総復習によって1回から7回までの知覚・認知心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループや個人、ペアなどでの体験を通して学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。									

授業概要

科目名	神経・生理心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿相周一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
神経科学・脳科学の側面から、“こころ”の諸機能および精神疾患の理解を目指す。 具体的には、神経系およびニューロンの構造と機能、神経伝達物質とホルモンの機能、精神疾患を理解し、説明できることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、医療(特に依存症の再発予防や犯罪の再犯防止)や教育、産業等の領域で臨床活動に携わる。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師の基礎と実践 神経・生理心理学 遠見書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書・論文などは、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書・論文などを、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目オリエンテーション			9	【授業単元】 神経変性疾患と脳				
	【到達目標】 神経・生理心理学とはどのような学問かを説明できる				【到達目標】 神経変性疾患を説明できる				
2	【授業単元】 神経科学史			10	【授業単元】 精神疾患と脳(1)				
	【到達目標】 神経科学の歴史を説明できる				【到達目標】 精神疾患を神経・脳科学から説明できる				
3	【授業単元】 神経系の基本的構造と機能(1)			11	【授業単元】 精神疾患と脳(2)				
	【到達目標】 神経系の基本的構造と機能を説明できる				【到達目標】 精神疾患を神経・脳科学から説明できる				
4	【授業単元】 神経系の基本的構造と機能(2)			12	【授業単元】 認知症と脳				
	【到達目標】 神経系の基本的構造と機能を説明できる				【到達目標】 認知症を神経・脳科学から説明できる				
5	【授業単元】 神経伝達物質とホルモン			13	【授業単元】 脳波と睡眠、意識				
	【到達目標】 神経伝達物質とホルモンを説明できる				【到達目標】 脳波と睡眠、意識を説明できる				
6	【授業単元】 進化と遺伝、ゲノム(1)			14	【授業単元】 神経・脳科学総括				
	【到達目標】 遺伝とゲノムを説明できる				【到達目標】 神経・脳科学を説明できる				
7	【授業単元】 進化と遺伝、ゲノム(2)			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト実施 定期テストの解答解説				
	【到達目標】 遺伝とゲノムを説明できる				【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている				
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト実施 中テストの解答解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授業概要

科目名	社会・集団・家族心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人と人との関係を心理学で読み解く・個人から始まり、家族・集団・社会と広がる中で、周りからの影響を受けながら行動していくことを説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、グループでの発表やグループワークを通して、支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。授業は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、映像や技法の実技を取り入れていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考書:社会・集団・家族心理学(竹村和久編 遠見書房) 配布資料					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 社会・集団・家族の心理とは				9	【授業単元】 社会的相互作用			
	【到達目標】 社会的状況では、人の心理は個人の状況とどう違うかを、例を挙げて説明できる。 社会心理学では、歴史的に人間をどう捉えてきたかを説明できる。					【到達目標】 相互依存性理論を説明できる。 囚人のジレンマについて説明できる。 囚人のジレンマが、具体的ななどんな社会的相互作用の理解に役立つか指摘できる。			
2	【授業単元】 対人認知				10	【授業単元】 対人関係の形成と発展			
	【到達目標】 人は他者をどう理解しているかを説明できる。 帰属について説明できる。 認知資源の節約のために陥りやすい認知の歪みを指摘できる。					【到達目標】 対人魅力に影響する要因を列挙し説明できる。 対人魅力と対人関係の進展の関係について説明できる。 関係を維持したり、葛藤を処理する方法を説明できる。			
3	【授業単元】 態度と行動				11	【授業単元】 家族の人間関係			
	【到達目標】 態度が行動をどう予測できるかを説明できる。 態度の測定法について説明できる。 態度形成に影響する要因を指摘できる。					【到達目標】 家族の変遷と現在家族の特徴を説明できる。 家族のライフサイクルを説明できる。 家族内で発生する暴力のメカニズムを説明できる。			
4	【授業単元】 ステレオタイプと偏見				12	【授業単元】 ソーシャルサポート			
	【到達目標】 ステレオタイプや偏見が起こりやすい条件を説明できる 確証バイアスについて説明できる。 ステレオタイプを説明するモデルを2つ説明できる。					【到達目標】 ソーシャルサポートのストレス緩和に及ぼすメカニズムを説明できる。 ソーシャルサポートの持つ機能を説明できる。 家族のソーシャルサポートの特徴を説明できる。			
5	【授業単元】 援助と攻撃(向社会的行動と反社会的行動)				13	【授業単元】 文化と社会心理			
	【到達目標】 援助行動に影響する要因を説明できる。 攻撃行動に影響する要因を説明できる。					【到達目標】 心の文化・社会依存性を具体的に説明できる。 自己・感情・認知に及ぼす文化の影響を説明できる。 別文化へ適応に必要な要因を説明できる。			
6	【授業単元】 社会的促進と社会的抑制				14	【授業単元】 集合行動とコミュニケーション			
	【到達目標】 社会的促進の動因理論を説明できる。 社会的手抜きを防止する方法を指摘できる。 社会的抑制、社会的促進、社会的手抜きの相違を説明できる。					【到達目標】 集合と集団の違いを説明できる。 集合行動に影響する心理過程を説明できる。 マスコミュニケーションと集合行動の関連を説明できる。			
7	【授業単元】 社会的影響				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説			
	【到達目標】 同調行動にはどのような要因が関わっているか説明できる。 服従はなぜ起こり、非人間的な服従を阻止する条件を述べられる。 説得の意義と、説得技法について説明できる。					【到達目標】 科目の重要なポイントが確認できる。 自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 集団過程・中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 社会的アイデンティティの獲得と自己カテゴリー化の関係を説明できる。 内集団バイアスと外集団へのステレオタイプが発生するプロセスを説明できる。 効果的なリーダーシップを発揮するための条件を指摘できる。 集団極性化を起こす要因と対処法を指摘できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。ロールプレーをたくさんしていきます。欠席や遅刻がないようにしてください。									

授 業 概 要

科目名	障害者(児)心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体障害、知的障害及び精神障害の概念と実態を理解できる。 障害者・障害児の具体的な支援の方法について理解できる。 障害者・障害児を支援するための法律を理解できる。									
【学習内容】									
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、障害者(児)の理解と支援方法を習得する授業を行う。さらに、グループワークを通して、障害の支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。授業は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、グループワークを取り入れ、映像や技法の実技を取り入れいく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:障害者・障害児心理学 遠見書房					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。□ □				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション。この授業の目的、障害者を取り巻く法律、障害者心理が役立つ領域、近年の障害者・児を取り巻く状況や支援を巡る状況について理解する。				9	【授業単元】 身体障害者・知的障害を取り巻く心理社会的課題について理解する。			
	【到達目標】 障害者・障害児心理学の目的と貢献について理解する。 障害者・障害児心理学の射程と目的について理解する。 近年の障害者・障害児を取り巻く状況や支援を巡る状況について理解する。					【到達目標】 障害受容とプロセスについて理解する。合理的配慮に関わる課題について理解する。 障害の心理社会的特徴について理解する。 障害のアセスメントと支援の概要について理解する。			
2	【授業単元】 身体障害者(肢体不自由・視覚障害者)・知的障害の概要について理解する。(グループ発表)				10	【授業単元】 精神障害者を取り巻く心理社会的課題について理解する。			
	【到達目標】 身体障害・知的障害の概要と心理状態が理解できる。 公認心理師としてどのような支援が期待されているか理解できる。					【到達目標】 精神障害と心理社会的課題の関係性について理解する。 発達段階と生活領域で抱く心理社会的課題について理解する。 精神障害の心理アセスメントと心理的支援について理解する。			
3	【授業単元】 精神障害の概要について理解する。(グループ発表)				11	【授業単元】 発達障害者を取り巻く心理社会的課題について理解する。			
	【到達目標】 精神医学アセスメントの方法を理解する。 従来診断と操作的診断基準の長所と短所を理解する。 どのような精神症状があるか理解する。					【到達目標】 発達障害の基本的な特徴と支援について理解する。 特別支援教室の取り組みについて理解する。 二次な問題や二次障害の課題と支援について理解する。			
4	【授業単元】 発達障害の概要について理解する。(グループ発表)				12	【授業単元】 心理的支援(支持的心理療法・洞察的心理療法)の方法について理解する。			
	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害、限局性学習症、注意欠如・多動症の症状と心理状態が理解できる。 自閉症スペクトラム障害、限局性学習症、注意欠如・多動症の診断基準(ICD-10及びDSM-5)を説明できる。心理師として、果たすべき役割を説明できる。					【到達目標】 支持的心理療法の概要と手立てを理解する。			
5	【授業単元】 情緒障害(不登校)の心理とその支援について理解する。(グループ発表)				13	【授業単元】 心理的支援(芸術療法)の方法について理解する。			
	【到達目標】 不登校の現状について説明できる。 不登校の対応について説明できる。 心理師として、果たすべき役割を説明できる。					【到達目標】 芸術療法の概要と手立てを理解する。			
6	【授業単元】 ゲストスピーカーとの対話 (肢体不自由の障害を持つ方が生活の中でどういった困難さがあるかを知る)				14	【授業単元】 心理的支援(認知行動療法)の方法について理解する。			
	【到達目標】 当事者からの話を聞き、これまでの困難さ、そして今の困難さを知ることができる。 当事者からの話を聞き、心理師として果たす役割を説明できる。					【到達目標】 認知行動療法の概要と手立てを理解する。			
7	【授業単元】 心理アセスメントと様々な精神障害				15	【授業単元】 これからの公認心理師としてのあり方 定期試験			
	【到達目標】 心理アセスメントについて説明ができる。 どういった対応がより良いかを検討し、具体的な支援方法を説明できる。 様々な精神障害について説明ができる。心理師として、果たすべき役割を考える。					【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト(15満点)、医療・教育・福祉の心理師としての役割について理解する。				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 前半で講義の内容を総括する。 各分野での心理師として、果たすべき役割を説明できる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	心理演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 心理学的支援および心理的アセスメントについて、公認心理師として活動するための知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 2 心理演習全体を通じて、自己理解・他者理解を促進することを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理学的支援を行ってきた講師が、クライアントや利用者とかわるために必要とされる、心理学的支援の実践に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 心理演習総論1・2			17・18	【授業単元】 心理的アセスメント3・4				
	【到達目標】 1 本科目の目的・予定・進め方について理解し、説明することができる。 2 心理学的支援において共通する諸事象について理解し、説明することができる。				【到達目標】 17・18 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その3・その4				
3・4	【授業単元】 心理学的支援1・2			19・20	【授業単元】 心理的アセスメント5・6				
	【到達目標】 3・4 箱庭療法を体験し、味わい楽しむことができる。				【到達目標】 19・20 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その5・その6				
5・6	【授業単元】 心理学的支援3・4			21・22	【授業単元】 心理的アセスメント7・8				
	【到達目標】 5・6 箱庭療法の事例を通して、心理学的支援基礎について理解し、説明することができる。				【到達目標】 21・22 質問紙法(性格検査)を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その1・その2				
7・8	【授業単元】 心理学的支援5・6			23・24	【授業単元】 心理的アセスメント9・10				
	【到達目標】 7・8 心理学的支援の事例を通して、心理学的支援基礎について理解し、説明することができる。				【到達目標】 23・24 質問紙法(性格検査)を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その3・その4				
9・10	【授業単元】 心理学的支援7・8			25・26	【授業単元】 心理的アセスメント11・12				
	【到達目標】 9・10 プレイセラピーの事例を通して、心理学的支援基礎について理解し、説明することができる。				【到達目標】 25・26 質問紙法(性格検査)を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その5・その6				
11・12	【授業単元】 心理学的支援9・10			27・28	【授業単元】 心理的アセスメント13・14				
	【到達目標】 11・12 親子面接の事例を通して、心理学的支援基礎について理解し、説明することができる。その1・その2				【到達目標】 27・28 質問紙法(性格検査)を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その7・その8				
13・14	【授業単元】 心理学的支援11・12			29・30	【授業単元】 振り返りと総まとめ 定期試験				
	【到達目標】 13・14 親子面接の事例を通して、心理学的支援基礎について理解し、説明することができる。その3・その4				【到達目標】 29 振り返りと総まとめを行い、心理演習全体の理解をいっそう深めることができる。 30 定期試験を実施する。				
15・16	【授業単元】 心理的アセスメント1・2			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 15・16 描画法の事例を通して、心理学的支援および心理査定基礎について理解し、説明することができる。その1・その2			・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点とし、その合計145点(5点×29回=135点)を40点満点に換算した点数(小数点切り上げ)を、小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	心理実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	山岸 有里・抜井 健之				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野における見学等による実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種や地域連携、③支援に際する職業倫理や法的義務についての理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
各実習先において、心理に関する実務経験（法第2条各号に掲げる行為の業務に5年以上従事）のある実習指導者が、心理演習担当教員および学科教員と連携し、見学および実習先事業所における心理的支援に関する講義や説明・支援対象者とのコミュニケーション・支援対象者の事例に基づく支援方法の検討・学びの振り返りや学生同士のディスカッションのファシリテート等を通して指導を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 公認心理師指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に活かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
○現場実習 ・保健医療分野（精神科病院・診療所等）、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の領域 ※医療機関については必須 ○実習事前・事後指導を受けることとする。 各現場実習先においては、到達目標の達成のために各実習先の実情に応じて以下について機会を提供および指導を行う。 ①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・事業省における面接や日常場面についての観察 ・対象者に対する支援者の対応についての観察やミーティング等の見学 ・事業所における支援の事例についての理解 ②多職種連携及び地域連携 ・事業所で働く他の専門職の連携の実際についての講義や業務の見学 ・事業所においてチームで取り組んでいる事例についての理解 ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務 ・心理的支援場面における職業倫理の実際についての学び ・心理的支援場面に関連する法的義務の実際について学び なお、事業所の見学と合わせて以下を行うことにより、各学生の理解を促進する。 ・可能な範囲での対象者とのコミュニケーション ・対象者の事例に基づく支援方法の検討 ・学びについての振り返りや学生同士のディスカッション ・実習記録の記入											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
心理師としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						・実習指導者による評価（実習施設ごと）、自己評価（実習施設ごと）、演習担当教員による評価（実習全体・実習報告を通して）を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	健康・医療心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	久保田 康文	
科目 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
1 ストレスと心身の疾病との関係について理解できる。 2 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。 3 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。 4 災害時等に必要な心理に関する支援について理解できる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神科医療や教育現場(スクールカウンセラー・教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、グループでの発表やグループワークを通して、障害の支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。授業は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、映像や技法の実技を取り入れていく。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
使用図書:健康医療心理学 遠見書房					授業を通して「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、健康心理学の概論			9	【授業単元】 総合病院のチーム医療における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 カリキュラムの中で、健康心理学の位置付けを説明できる。 健康心理学で学ぶ4つの目標を説明できる。 健康心理学の基本となる理念について説明できる。				【到達目標】 患者が抱える多様な心理の特徴や問題についてのアセスメントについて説明できる。 総合病院における心理的支援・介入・心理療法について説明できる。 身体疾患患者のメンタルケアの重要性について説明できる。			
2	【授業単元】 ストレスと生理学			10	【授業単元】 高齢者医療における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 ストレスと生理的現象について説明できる。 心理社会的なストレス理論への展開について説明できる。 ストレスと健康について説明できる。				【到達目標】 認知症の中核症状やBPSD(行動と心理の症状)について説明できる。 老年期の老化に伴う喪失体験とストレスと対処について説明できる。 認知症の種類や老年期うつ病、せん妄について説明できる。			
3	【授業単元】 ストレスによる心身の疾病と行動医学			11	【授業単元】 医療観察法指定医療機関における公認心理師の活動(グループ発表)			
	【到達目標】 ストレスと心身の疾病について説明できる。 心身症について説明できる。 行動医学、予防医学、ストレスチェックテスト制度について説明できる。				【到達目標】 医療観察法の目的を説明できる。 医療観察法の対象者について説明できる。 多職種チーム・アプローチについて説明できる。			
4	【授業単元】 健康心理学とポジティブ心理学			12	【授業単元】 健康支援活動における心理学的支援(薬物依存)			
	【到達目標】 ポジティブ心理学の主要な3つのテーマについて説明できる。 24種類の強みの分類について説明できる。 心理的ウェルビーイングについて説明できる。				【到達目標】 薬物依存による健康への影響について説明できる。 薬物依存患者の心理的背景について説明できる。 薬物依存患者への心理学的支援法について説明できる。			
5	【授業単元】 精神科における公認心理師の活動(グループ発表)			13	【授業単元】 医療現場で働く心理師からの話(ゲストスピーカー)			
	【到達目標】 精神科の患者の心理の特徴について説明できる。 精神科チーム医療におけるアセスメントと公認心理師の役割を説明できる。 精神科の心理的介入における基本的な考え方について説明できる。				【到達目標】 医療現場における心理職の具体的な業務内容と役割を理解し、説明できる。 チーム医療の意義を理解し、その中で心理職の「つなぐ・俯瞰する」役割を考察できる。 「全人的医療」の概念を学び、患者や家族に対する心理的サポートの重要性を説明できる。			
6	【授業単元】 心身医学(心療内科など)における公認心理師の活動(グループ発表)			14	【授業単元】 災害被災者の心理と支援			
	【到達目標】 心身医学について説明できる。 心療内科のチーム医療について説明できる。 診療録の記述について説明できる。				【到達目標】 被災後に生じる主な心理学的問題について説明できる。 災害後の心理プロセスについて説明できる。 災害直後の被災者支援(サイコロジカル・ファーストエイド)について説明できる。			
7	【授業単元】 小児医療・母子保健領域における公認心理師の活動(グループ発表)			15	【授業単元】 これからの公認心理師としてのあり方 定期試験、自殺対策			
	【到達目標】 小児医療で求められる心療師の役割について説明できる。 小児医療での診療報酬上の位置づけについて説明できる。 小児医療及び母子保健領域の課題について説明できる。				【到達目標】 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。 自殺の心理学的背景を説明できる。 自殺対策に主体的に関わることが重要であることを説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト(15満点)、脳神経内科・リハビリテーション領域における公認心理師の活動(グループ発表)			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 脳神経内科・リハビリテーション領域における主要疾患について説明できる。 高次機能障害について神経心理学的アセスメントの重要性を説明できる。 主要疾患の精神・行動の特徴について説明できる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
心理師の多くは医療分野で働いています。つまり、医療分野の理解は不可欠です。自分なりに知識を深め、積極的に質問してください。グループ発表やロールプレーなどもしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。								

授 業 概 要

科目名	心理実習前後指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山岸 有里・抜井 健之				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
・心理実習前教育、心理実習後教育を通して目的の立案、評価を行ない、実習を適切に実施していく。そのために以下を目標とする。 ・心理実習の意義について理解する。 ・5領域（保健医療分野、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の領域）の現状（利用者理解を含む）と公認心理師の業務、支援に関する基本的な理解する。 ・心理実習に係る個別指導及び集団指導を通して、必要な知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・公認心理師として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
心理に関する実務経験（法第2条各号に掲げる行為の業務に5年以上従事）のある実習指導者が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 公認心理師指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
・心理実習と心理実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・5領域（保健医療分野、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の領域）の現状（利用者理解を含む）と公認心理師の業務、支援に関する基本的な理解 ・実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 ・公認心理師に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
心理師としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						実習前試験の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	丸山 亮光		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士をはじめとした対人支援職の「研究者・実践家モデル」として求められる「研究者」の実践として、以下の内容の集大成として、全体への卒業研究発表が達成できることを目標とする。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、卒業研究を全体に発表する上で必要となる観点や手法について解説し、研究内容を実際の支援に活用する上で必要となる要点から支援職としての生涯学習への姿勢につながるような内容を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【主要資料】授業内スライド、コマシラバス、各種ワークシート 【参考資料・教材】HAD(統計ソフト)、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Power Point など。 →前年度「卒業研究Ⅰ」で使用した資料は継続して用いる。					本授業は前年度の「卒業研究Ⅰ」の内容を踏まえ、前年度の調査研究や実践研究、文献研究が前提となる。授業内外で取り組む内容もあり、「支援職としての姿勢」や「生涯学習」につながる内容も扱うため、主体性に基づく学習を推奨する。発表に向けて昨年度よりも時間の厳格化が見込まれるため、確実な進行が必要となる。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーションと発表者のディスカッション、目標設定			9	【授業単元】 研究分野習熟(1)乳幼児～児童期・保育に関する研究分野と支援 (※作業進捗度により、研究再修正回となる可能性有)				
	【到達目標】 前年度までの卒業研究の流れを振り返り、全体発表に向けての課題を整理することができる。				【到達目標】 乳幼児～児童期や保育の研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。				
2	【授業単元】 資料構成(1)レジュメの要約と結果・考察の妥当性			10	【授業単元】 研究分野習熟(2)青年期・教育に関する研究分野と支援 (※作業進捗度により、研究再修正回となる可能性有)				
	【到達目標】 卒業研究で作成したレジュメの要約を作成することができる。 自身の研究結果及び考察について、その妥当性と根拠を整理できる。				【到達目標】 青年期と教育における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。				
3	【授業単元】 資料構成(2)スライドとプレゼンテーション、分析の仔細読解と結果の提示			11	【授業単元】 研究分野習熟(3)成人期・産業に関する研究分野と支援 (※作業進捗度により、研究再修正回となる可能性有)				
	【到達目標】 全体発表におけるプレゼンテーションで用いるスライドのポイントについて説明し、一般水準に向けた構成を検討することができる。				【到達目標】 成人期・産業における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。				
4	【授業単元】 資料構成(3)研究課題と今後の展望、証明範囲と未証明範囲の枠組み			12	【授業単元】 研究分野習熟(4)老年期・医療に関する研究分野と支援 (※作業進捗度により、研究再修正回となる可能性有)				
	【到達目標】 卒業研究でまとめた研究課題と今後の展望について、実践する場合の研究概要をまとめることができる。				【到達目標】 老年期・医療における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。				
5	【授業単元】 議題検討(1)研究場面と現場場面、方法・結果の再確認			13	【授業単元】 最終発表に向けて(1)				
	【到達目標】 研究として実施された結果から得られた妥当性と、実際の支援場面においての差異について説明することができる。				【到達目標】 最終発表に向けて必要な資料の整理と質疑応答における対応について説明し、実践することができる。				
6	【授業単元】 議題検討(2)研究活用としての支援、問題・考察の再確認			14	【授業単元】 最終発表に向けて(2)				
	【到達目標】 卒業研究並びに先行研究から得られた知見において、支援職として抑えておくべき現場課題を整理できる。				【到達目標】 発表を展開するにあたって全体での役割を担い、対応を準備することができる。				
7	【授業単元】 議題検討(3)生涯学習と研究的視点、指標確認			15	【授業単元】 最終発表準備＋最終発表本番				
	【到達目標】 研究的な視点を保つことが支援職としての生涯学習にどのように寄与するのかを説明することができる。				【到達目標】 卒業研究を総括し、全体発表として内容を展開することができる。 また、発表日に向けて資料の最終調整を行い、備えることができる。				
8	【授業単元】 中間課題と卒業研究校正			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験はレポート、発表形式(作成物、プレゼンテーション)の評価で行う。 毎回の小テスト課題は各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。 7月末～8月頭にある最終発表においては、基本的に受講者全員が発表者であり、進行する役割を担当する場合があるため、注意しておくこと。					
	【到達目標】 卒業研究にまつわる内容の校正を行うと共に、研究にまつわる場面事例に対して適切な回答ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・本授業は「応用」が主軸となるため、実際の支援場面の想定が重要となる。 ・卒業研究の校正を並行して実施するため、個々で作業を進めていくこと。 ・授業終了後は対応できないため、質問などは効率的に行うことを推奨する。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	幾田　こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	4　単位	総時間数	129　時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士国家試験の出題基準および出題傾向を踏まえ、演習問題と振り返りを反復することで、基礎知識の定着、問題文の読解力、出題意図を捉える力、適切に解答する力を養う。あわせて、1年後に専門職として働くことを見据え、専門職として求められる心構え、気構え、学習姿勢および実践の態度を身につけることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。個の学習のみではなくティーチングアシスタントを活用した学習やAIを活用した弱点解析等も行なっていき、自分の現状を把握しながら学べる授業を展開する。そのため、ソーシャルワーク専門職として実践を行う専門職を講師として招き、実践現場で求められる知識と国家試験の内容を結び付けた指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 受験対策における、学習方法の説明 模擬試験等の説明 ティーチングアシスタント制の意義の説明					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
2	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				10	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
3	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				11	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
4	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				12	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
5	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				13	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
6	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				14	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。			
7	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				15	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。			
8	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。				定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になることなく主体的に学び、インプットとアウトプットの経験を繰り返してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	幾田　こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士国家試験の出題基準および出題傾向を踏まえ、演習問題と振り返りを反復することで、基礎知識の定着、問題文の読解力、出題意図を捉える力、適切に解答する力を養う。あわせて、1年後に専門職として働くことを見据え、専門職として求められる心構え、気構え、学習姿勢および実践的態度を身につけることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。個の学習のみではなくティーチングアシスタントを活用した学習やAIを活用した弱点解析等も行なっていき、自分の現状を把握しながら学べる授業を展開する。そのため、ソーシャルワーク専門職として実践を行う専門職を講師として招き、実践現場で求められる知識と国家試験の内容を結び付けた指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
16	【授業単元】 定期試験								
	【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。								
17	【授業単元】 国試試験後登校日								
	【到達目標】 自己採点								

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介・幾田 こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	96 時間
【授業を通じての到達目標】									
●学習習慣形成とセルフマネジメントを身につけることを目標とする。主な目標は以下とする。 ・国家試験合格までの学習計画を自分で立てられる ・継続的な学習習慣(時間・場所・方法)を確立できる ・自分の認知特性、ストレス反応を理解し、崩れたときに立て直せる ・「勉強が続かない自分」を責めず、行動に戻れる力を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、精神保健福祉士国家試験に向けた受験対策の基礎として、知識以前に必要な学習習慣と自己管理力の形成を目的とする。学生が自分の学習特性や生活リズム、心理状態を理解し、無理なく継続できる学習方法を確立することを重視する。時間管理、計画立案、過去問への向き合い方、ストレスや不安への対処などを段階的に学び、後期の本格的な受験学習に耐える土台を築く授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/6 (月)	【授業単元】夢の実現のために ●学習習慣形成とセルフマネジメントの大切さ 【到達目標】 本格的な受験学習に向けての準備フローをイメージする。				9 4/27 (月)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●前期の学習テーマ確定 各自の重点課題共有、学習宣言(短文) 【到達目標】 自分の前期テーマ(例:習慣、苦手克服)を言語化できる 学習への主体的関与を持つ			
2 4/7 (火)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●オリエンテーション 国家試験の全体像、この授業の目的と進め方、「習慣は才能ではなく技術」 【到達目標】 国家試験合格までの全体像を説明できる 本授業が「知識詰め込みではない」理由を理解する 半年間の授業に安心して参加できる状態になる				10 4/28 (火)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●時間管理の基本 1週間の可視化、「使える時間」と「使えない時間」 【到達目標】 1週間の自分の時間の使い方を可視化できる 勉強に使える現実的時間を把握できる			
3 4/13 (月)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●精神保健福祉士国家試験の特徴 出題形式・合格ライン、落ちやすいイターン分析、合格者の学習行動モデル 【到達目標】 国家試験の出題傾向と合格基準を説明できる 「努力量」より「学習の仕方」が重要だと理解する				11 5/15 (金)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●生活リズムと学習 睡眠・食事・集中力、夜型・朝型の調整 【到達目標】 睡眠と集中力の関係を説明できる 自分に合う学習時間帯を見つける			
4 4/14 (火)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●これまでの学習経験の振り返り 成功体験/挫折体験の棚卸し、学習が止まる瞬間の自己分析 【到達目標】 自分の学習が止まった経験を1言語化できる 失敗を「性格」ではなく「状況」として捉え直せる				12 5/18 (月)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●学習環境の整え方 場所・道具・スマホ対策、集中を奪う要因整理 【到達目標】 集中を妨げる要因を3つ挙げられる 今日から変えられる環境調整を1つ決める			
5 4/17 (金)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●学習スタイル診断 視覚型・聴覚型・体感型、集中の波・時間帯特性 【到達目標】 自分の学習スタイルの特徴を把握できる 合わない学習法を無理に続けなくてよいと理解する				13 5/19 (火)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●学習計画の立て方① 年間・月間計画、完璧を目指さない設計 【到達目標】 年間・月間の大枠計画を作成できる 計画は修正前提でよいと理解する			
6 4/20 (月)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●モチベーションの正体 やる気に頼らない学習設計、行動→感情→意味づけの順序 【到達目標】 やる気なくても行動できる理由を説明できる モチベーションに頼らない学習観を持つ				14 5/22 (金)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●学習計画の立て方② 週間・1日単位への落とし込み、予備日・回復日の考え方 【到達目標】 1週間単位の計画を立てられる 余白を残した計画の意味を理解する			
7 4/21 (火)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●「できない自分」との付き合い方 自己否定と行動停止の関係、支援策としての自己理解 【到達目標】 自己否定が学習停止につながる流れを理解する できない自分を責めず行動に戻る視点を持つ				15 5/25 (月)	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●「毎日勉強できない」を前提にする ゼロか100か思考の修正、最低ライン学習 【到達目標】 「できない日がある前提」で計画を立て直せる 完璧主義が学習を止めることを理解する			
8 4/24 (金)	【授業単元】第1部:受験と自分を理解する ●目標設定ワーク 合格後の自分像、前期・後期・直前期の目標分解 【到達目標】 合格後の自分像を具体的に描ける 長期目標を短期目標に分解できる				【成績評価の方法と基準】				
					定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になりすぎずに、主体的に、学びたい内容や聴講したい分野を提案していくようにしてってください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介 ・ 幾田 こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
●学習習慣形成とセルフマネジメントを身につけることを目標とする。主な目標は以下とする。 ・国家試験合格までの学習計画を自分で立てられる ・継続的な学習習慣(時間・場所・方法)を確立できる ・自分の認知特性、ストレス反応を理解し、崩れたときに立て直せる ・「勉強が続かない自分」を責めず、行動に戻れる力を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、精神保健福祉士国家試験に向けた受験対策の基礎として、知識以前に必要な学習習慣と自己管理力の形成を目的とする。学生が自分の学習特性や生活リズム、心理状態を理解し、無理なく継続できる学習方法を確立することを重視する。時間管理、計画立案、過去問への向き合い方、ストレスや不安への対処などを段階的に学び、後期の本格的な受験学習に耐えうる土台を築く授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
16	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●短時間学習の技術 15分・30分勉強法、スキマ時間活用			24	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●暗記の心理学 忘却曲線、復習タイミング				
5/26 (火)	【到達目標】 15分学習を実際に体験する 短時間でも意味があると実感する			6/15 (月)	【到達目標】 忘れるのは自然だと理解する 復習タイミングを意識できる				
17	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●記録の力 学習ログのつけ方、自己強化としての記録			25	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●過去問との付き合い方① 過去問の役割理解、解く前の準備				
5/29 (金)	【到達目標】 学習記録を自分なりに付けられる 記録が自己肯定感につながると理解する			6/16 (火)	【到達目標】 過去問の目的を説明できる 点数より分析を重視できる				
18	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●習慣が崩れるとき 崩壊パターン分析、再開のルールづくり			26	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●過去問との付き合い方② 解説の読み方、間違いのノートの作り方				
6/1 (月)	【到達目標】 習慣が崩れる自分のパターンを把握する 再開ルールを1つ決める			6/19 (金)	【到達目標】 間違いの原因を分類できる 解説を学習資源として使える				
19	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●学習習慣の個別調整 個別相談／ワーク、習慣プラン修正			27	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●苦手科目へのアプローチ 回避行動の理解、小さな成功設計				
6/2 (火)	【到達目標】 自分に合わない点を修正できる 他者と比べず自分基準を持つ			6/22 (月)	【到達目標】 苦手回避の心理を理解する 小さな取り組み目標を設定する				
20	【授業単元】第2部:学習習慣の土台づくり ●中間振り返り 習慣定着度チェック、成功体験の共有			28	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●得意科目の伸ばし方 得点顕化、油断対策				
6/5 (金)	【到達目標】 前半で身についた変化を言語化できる 続けられている点に気づく			6/23 (火)	【到達目標】 得意科目を得点源として位置づけられる 長心のリスクを理解する				
21	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●インプットとアウトプット 読むだけ学習の限界、書く・話す・解く			29	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●集中力マネジメント 集中が切れる前提、休憩の技術				
6/8 (月)	【到達目標】 アウトプットの重要性を説明できる 自分の学習にアウトプットを1つ加える			6/26 (金)	【到達目標】 集中が切れるサインに気づける 自分なりの体験方法を持つ				
22	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●テキストの使い方 精神保健福祉士向けテキスト読解、線を引かない勉強法			30	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●メンタルが落ちた日の学習 調子が悪い日の最低学習、自己受容トレーニング				
6/9 (火)	【到達目標】 テキストを「理解の道具」として使える ただ読む勉強から抜け出す			6/29 (月)	【到達目標】 調子が悪い日の学習基準を決める 学習をゼロにしない選択ができる				
23	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●ノート術 まとめすぎないノート、復習前提の設計			【成績評価の方法と基準】					
6/12 (金)	【到達目標】 復習しやすいノートの形を理解する まとめすぎない勇気を持つ			定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になりすぎずに、主体的に、学びたい内容や聴講したい分野を提案していくようにしていただきます。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介 ・ 幾田 こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
●学習習慣形成とセルフマネジメントを身につけることを目標とする。主な目標は以下とする。 ・国家試験合格までの学習計画を自分で立てられる ・継続的な学習習慣(時間・場所・方法)を確立できる ・自分の認知特性、ストレス反応を理解し、崩れたときに立て直せる ・「勉強が続かない自分」を責めず、行動に戻る力を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、精神保健福祉士国家試験に向けた受験対策の基礎として、知識以前に必要な学習習慣と自己管理能力の形成を目的とする。学生が自分の学習特性や生活リズム、心理状態を理解し、無理なく継続できる学習方法を確立することを重視する。時間管理、計画立案、過去問への向き合い方、ストレスや不安への対処などを段階的に学び、後期の本格的な受験学習に耐えうる土台を築く授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
31	【授業単元】第3部:学習スキルと試験対応力 ●学習方法の再設計 自分に合う学習法確定			39	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●後期に向けた課題整理 弱点と強みの明確化				
6/30 (火)	【到達目標】 自分に合う学習法を言語化できる 後期に使う学習スタイルを確定する			7/17 (金) 2限	【到達目標】 弱点・強みを整理できる 後期の重点テーマを明確にする				
32	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●ストレスと学習 ストレス反応の理解、支援視点のセルフケア			40	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●継続宣言ワーク 後期までの行動宣言				
7/3 (金)	【到達目標】 自分のストレス反応を理解する 支援職としてのセルフケア意識を持つ			7/17 (金) 3限	【到達目標】 後期までの具体的行動を宣言できる 自分の言葉で決意を表現できる				
33	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●不安との付き合い方 試験不安の正体、思考の書き換え			41	【授業単元】第5部:前期まとめと後期への接続 ●前期の総復習				
7/6 (月) 2限	【到達目標】 試験不安の正体を説明できる 不安があっても行動できる視点を持つ			7/20 (月)	【到達目標】 学習習慣の変化を振り返れる 成長実感を持つ				
34	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●自己効力感を育てる できたことの言語化、比較からの脱却			42	【授業単元】第5部:前期まとめと後期への接続 ●学習習慣チェック最終版				
7/6 (月) 3限	【到達目標】 自分の成長を具体的に挙げられる 他者比較から距離を取れる			7/21 (火)	【到達目標】 現在の習慣定着度を把握する 継続課題を整理する				
35	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●周囲との関係調整 家族・仕事・学習のバランス、境界線の引き方			43	【授業単元】第5部:前期まとめと後期への接続 ●後期学習計画作成①				
7/7 (火)	【到達目標】 学習のための境界線を意識できる 支援を求めることを肯定的に捉える			7/24 (金)	【到達目標】 後期全体の学習計画を描ける 無理のない現実的計画を立てる				
36	【授業単元】模試直前！ ●模範テストの受け方 結果の扱い方、点数に振り回されない視点			44	【授業単元】第5部:前期まとめと後期への接続 ●後期学習計画作成②(個別)				
7/10 (金)	【到達目標】 模試結果を感情と切り離して見られる 次の行動に活かせる			7/27 (月)	【到達目標】 自分専用の後期計画を完成させる 不安点を言語化できる				
37	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●燃え尽き防止 長期戦の心構え、休む勇氣			45	【授業単元】第5部:前期まとめと後期への接続 ●前期クロージング 成長の言語化、後期へのメッセージ				
7/13 (月)	【到達目標】 無理のサインに気づける 休むことも戦略だと理解する			7/28 (火)	【到達目標】 前期で得た力を言語化できる 後期への前向きな一歩を踏み出す				
38	【授業単元】第4部:継続・回復・自己調整力 ●支援職としての自己理解 学習と自己成長の接点、実習・将来との接続			【成績評価の方法と基準】					
7/14 (月)	【到達目標】 学習と将来像を結びつけられる 国家試験の意味づけを再確認する			定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になりすぎずに、主体的に、学びたい内容や聴講したい分野を提案していくようにしていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 大介 ・ 幾田 こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
●学習習慣形成とセルフマネジメントを身につけることを目標とする。主な目標は以下とする。 ・国家試験合格までの学習計画を自分で立てられる ・継続的な学習習慣(時間・場所・方法)を確立できる ・自分の認知特性、ストレス反応を理解し、崩れたときに立て直せる ・「勉強が続かない自分」を責めず、行動に戻る力を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、精神保健福祉士国家試験に向けた受験対策の基礎として、知識以前に必要な学習習慣と自己管理能力の形成を目的とする。学生が自分の学習特性や生活リズム、心理状態を理解し、無理なく継続できる学習方法を確立することを重視する。時間管理、計画立案、過去問への向き合い方、ストレスや不安への対処などを段階的に学び、後期の本格的な受験学習に耐えうる土台を築く授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
46 5/11 (月) 1限	【授業単元】 ●キャリア指導①								
	【到達目標】 自分の希望に合った就職先を想定する。								
47 5/11 (月) 2限	【授業単元】 ●キャリア指導②								
	【到達目標】 自分の希望に合った就職先を想定する。								
48 5/22 (金) 3限	【授業単元】 ●キャリア指導③								
	【到達目標】 自分の希望に合った就職先を想定する。								
					【成績評価の方法と基準】				
					定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になりすぎずに、主体的に、学びたい内容や聴講したい分野を提案していくようにしていきましょう。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	幾田 こそえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士国家試験の出題基準および出題傾向を踏まえ、演習問題と振り返りを反復することで、基礎知識の定着、問題文の読解力、出題意図を捉える力、適切に解答する力を養う。あわせて、1年後に専門職として働くことを見据え、専門職として求められる心構え、気構え、学習姿勢および実践の態度を身につけることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。個の学習のみではなくティーチングアシスタントを活用した学習やAIを活用した弱点解析等も行なっていく、自分の現状を把握しながら学べる授業を展開する。そのため、ソーシャルワーク専門職として実践を行う専門職を講師として招き、実践現場で求められる知識と国家試験の内容を結び付けた指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から選定資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 受験対策における、学習方法の説明 模擬試験等の説明 ティーチングアシスタント制の意義の説明					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
2	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				10	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
3	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				11	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
4	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				12	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
5	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				13	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
6	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				14	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
7	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				15	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)			
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。					【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。			
8	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)				【成績評価の方法と基準】 定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。				
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する、同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になることなく主体的に学び、インプットとアウトプットの経験を繰り返してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	幾田　こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士国家試験の出題基準および出題傾向を踏まえ、演習問題と振り返りを反復することで、基礎知識の定着、問題文の読解力、出題意図を捉える力、適切に解答する力を養う。あわせて、1年後に専門職として働くことを見据え、専門職として求められる心構え、気構え、学習姿勢および実践的態度を身につけることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。個の学習のみではなくティーチングアシスタントを活用した学習やAIを活用した弱点解析等も行なっていき、自分の現状を把握しながら学べる授業を展開する。そのため、ソーシャルワーク専門職として実践を行う専門職を講師として招き、実践現場で求められる知識と国家試験の内容を結び付けた指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
16	【授業単元】 オリエンテーション								
	【到達目標】 受験対策における、学習方法の説明 模擬試験等の説明 ティーチングアシスタント制の意義の説明								
17	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)								
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。								
18	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)								
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。								
19	【授業単元】 受験対策(ゲスト講師)								
	【到達目標】 共通科目・精神専門科目 国家試験を解き現状を把握する。同時に、傾向と分析を行い対策を実施していく。								
20	【授業単元】 定期試験								
	【到達目標】 国家試験を解き現状を把握する。								
21	【授業単元】 国歌試験後登校日								
	【到達目標】 自己採点								
						【成績評価の方法と基準】			
						定期試験を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点とした計100点での評価とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
受け身になることなく主体的に学び、インプットとアウトプットの経験を繰り返してください。									

授 業 概 要

[illegible]

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別講座	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	幾田　こずえ		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
模擬試験の受験と振り返りを通して、自己の学習到達度および課題を把握し、弱点分野の克服と知識の定着を図る。 また、模擬試験の結果に基づく個別面談や学習指導、学習状況に応じたグループ別指導を通して、国家試験合格に必要な問題読解力、解答力、計画的に学習を継続する力を身につけることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士資格を有し、学生指導および国家試験対策を担当する教員が、授業全体の運営、学生の学習状況の把握、個別面談および学習支援を行う。国家試験対策に精通した外部講師と連携し、過去の出題傾向を踏まえた問題演習、解説、復習方法の確認を行う。必要に応じて、模擬試験の結果や学習状況に基づくクラス別指導を実施し、弱点分野の克服、知識の定着、問題読解力および解答力の向上を図る。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
16	【授業単元】 国歌試験対策模擬試験⑩								
	【到達目標】 模擬試験を通して現時点での学習到達度を把握し、今後の学習課題を明確にする。								
17	【授業単元】 模擬試験⑩の振り返りと復習								
	【到達目標】 模擬試験の結果をもとに、誤答の原因や弱点分野を分析する。また、復習を通して知識の定着を図り、今後の学習課題を明確にする。								
18	【授業単元】 定期試験／国歌試験対策模擬試験⑪(3年生合同模試)								
	【到達目標】 模擬試験を通して現時点での学習到達度を把握し、今後の学習課題を明確にする。								
					</				

授 業 概 要

科目名	地域福祉応用実習指導	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
・ 応用実習の意義について理解する。 ・ 応用実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。 ・ ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士もしくは社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する ・ 応用実習と応用実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	地域福祉応用実習	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
・ 応用実習を通して、相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。・ 応用実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・ 相談職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
実務経験がある学科教員が、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、学生が考えた実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
★地域の障害福祉サービス事業を行う施設等 次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・ 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ・ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・ 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ・ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						学科教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	産業・組織心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿相周一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
産業・組織心理学を概観し、基礎的・包括的な知識の獲得と理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 産業・組織の構造、労働関連法、産業保健を理解し、説明することができることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、産業や医療、教育等の領域で臨床活動に携わる。また、企業のメンタルヘルス系新規サービス開発のコンサルテーションも行う。授業では、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目オリエンテーション			9	【授業単元】 職業性ストレスとストレスチェック制度				
	【到達目標】 産業・組織心理学とはどのような学問かを説明できる				【到達目標】 職業性ストレスを説明できる ストレスチェック制度を説明できる				
2	【授業単元】 産業組織			10	【授業単元】 EAP(従業員支援プログラム)の支援				
	【到達目標】 産業と組織の構造を説明できる				【到達目標】 EAP(従業員支援プログラム)を説明できる				
3	【授業単元】 仕事へのモチベーションとリーダーシップ			11	【授業単元】 組織開発				
	【到達目標】 仕事へのモチベーションとリーダーシップを説明できる				【到達目標】 組織開発を説明できる				
4	【授業単元】 ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成			12	【授業単元】 産業・組織心理臨床の実際1				
	【到達目標】 ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成を説明できる				【到達目標】 産業・組織心理臨床の実際を説明できる				
5	【授業単元】 労働・産業分野の法			13	【授業単元】 産業・組織心理臨床の実際2				
	【到達目標】 労働・産業分野の法を説明できる				【到達目標】 産業・組織心理臨床の実際を説明できる				
6	【授業単元】 職場のメンタルヘルス問題と関連労働・産業分野の法1			14	【授業単元】 経営と消費者心理				
	【到達目標】 職場で生じるメンタルヘルス問題を説明できる メンタルヘルス問題に関連する労働・産業分野の法を説明できる				【到達目標】 経営と消費者心理を説明できる				
7	【授業単元】 職場のメンタルヘルス問題と関連労働・産業分野の法2			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説				
	【到達目標】 職場で生じるメンタルヘルス問題を説明できる メンタルヘルス問題に関連する労働・産業分野の法を説明できる				【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている				
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授 業 概 要

科目名	関係行政論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	上本昌昭		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
- 公認心理師の役割を法的視点から理解する。 - 公認心理師が活動を行う「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」における法律や制度を理解する。 - 心理支援する上で必要な法律や制度の知識を有効に活用できる。 - 関連する法令や制度を通じて、多職種と専門家や行政機関などと連携することができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
大学などで基礎法学の教育に携わり、権利擁護や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の各分野の法律や制度、多職種連携に必要な法律の知識などを通じて、公認心理師として支援できる力を身につけるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・配布レジュメ、配付資料					法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で配布された資料は復習し、確実に理解しておく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
	【授業単元】					【授業単元】			
1	科目ガイダンス／法とは何か				9	教育分野に関する法律①			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- なぜCPPに法律や制度の知識が必要となるのかを説明できる。 - 社会規範と法（規範）との違いを説明できるようになる。 - 制定形式の違いに基づく法体系の成り立ちを理解する。					- 学習権とそれを実現するための教育関連法制を理解する。 - 教育の目的と目標、教育機会の提供に関する制度を理解する。 - 学校制度と学校保健管理について理解する。			
2	公認心理師法				10	教育分野に関する法律②			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- 公認心理師の定義、各種手続きについて説明できる。 - 公認心理師の業務と職責、義務について説明できる。 - 公認心理師の法的責任について理解する。					- チーム学校の意義と教育関連職種について知る。 - SC、SSW、SLといった専門職員の位置づけを理解する。 - いじめや自殺など学校の対応課題に関する法律を理解する。			
3	クライアント（患者）の権利				11	司法・犯罪分野に関する法律①			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- インフォームドコンセントと自己決定権の関係を理解する。 - 守秘義務の背景にあるプライバシー権について理解する。 - 医療情報の管理に関する各種の法律、指針の内容を理解する。					- 犯罪、刑事責任、刑事手続き、刑事裁判の各内容を理解する。 - 受刑者の処遇と更生保護の内容について理解する。 - 犯罪被害者を支援する各種制度を理解する。			
4	保健医療分野に関する法律①				12	司法・犯罪分野に関する法律②			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- 医療制度と医療提供施設の種類・機能について説明できる。 - 医療安全を確保する仕組みについて説明できる。 - 医療関連職種の業務について説明できる。					- 刑罰の本質から刑事司法と少年司法の違いを理解する。 - 少年司法の保護主義、全件送致主義などの思想を理解する。 - 少年審判を含む少年司法の流れ、保護処分の内容を理解する。			
5	保健医療分野に関する法律②				13	産業・労働分野に関する法律①			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- 精神保健福祉法の内容を説明できる。 - 心神喪失者等医療観察法の内容を説明できる。					- 労働者の権利と労働関連法制について理解する。 - 労働基準法などの「働き方についての法律」を理解する。 - 労働法などの「労働者の健康を守るための法律」を理解する。			
6	福祉分野に関する法律①				14	産業・労働分野に関する法律②			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- 家庭の抱える問題を念頭に福祉の機能を理解する。 - 一時保護、社会的養護の手続きを理解する。 - 児童虐待防止の仕組みを説明できる。					- 労働衛生の3管理について理解する。 - SCなど、労働者の心の健康を守る仕組みを理解する。 - これまでに学んだ諸法令の目的と内容について振り返る。			
7	福祉分野に関する法律②				15	定期テスト			
	【到達目標】					【到達目標】			
	- 障害者の定義と障害者権利条約などの基本原則を説明できる。 - 障害者関連法の体系、福祉サービスの仕組みを説明できる。 - 各種の障害者関連法それぞれの特徴について説明できる。					- 学習したことを振り返り、全体像をイメージできる。 - 知識が不足している部分、理解が足りない事項を確認する。 - 定期試験の解答解説を通じて、学習内容を振り返る。			
8	福祉分野に関する法律③				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				科目の評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。				
	- 高齢者福祉の背景と高齢者福祉関連法の体系を理解する。 - 介護保険法と老人福祉法に基づく介護給付について理解する。 - 高齢者虐待防止法の内容と各種虐待防止法の関係を理解する。				各回の授業で5点満点の小テストを実施する（第8回のみは15点満点）。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数（40点満点：小数点以下は切り上げ）と定期試験（60点満点）を合算した100点満点、AからFの6段階で評価を行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験の受験は卒業後になるので、この授業を国家試験対策というよりも、公認心理師として必要な法律の知識を知るものと位置づけてもらいたい。積極的に取り組み、理解に努めることを望む。									

授業概要

科目名	刑事司法と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	栗林 正彦		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・本授業では、刑事司法制度と福祉制度の接点に着目し、犯罪・非行・被害の背景にある社会的要因を理解することを目的とする。 1. 刑事司法制度の基本構造と役割を理解する。 2. 犯罪・非行と貧困、障害、依存症、家族問題などの関係を説明できる。 3. 加害者・被害者双方に対する福祉的支援の意義を理解する。 4. 刑罰と福祉の関係について批判的に考察できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
刑事司法は「刑罰」を中心とした制度である一方、福祉は「支援」や「回復」を重視する制度である。本授業では、両者が対立するものではなく、相互に補完し合う関係にあることを、理論・制度・事例の検討を通じて明らかにする。再犯防止、被害者支援、司法福祉の実践など、現代社会における重要課題を扱う。担当教員は、現在保護司として保護観察所と連携を保ちながら、加害者への更生支援に当たっている。また、対人援助技術を駆使しながら、地域包括支援センター及び各種施設での管理者を歴任し相談援助を行ってきた。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10刑事司法と福祉」(中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集					日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】				9	【授業単元】			
	ガイダンス、第1章「刑事司法と福祉」総論					第8章 施設内処遇② 少年			
2	【到達目標】				10	【到達目標】			
	1.2.3.4 刑事司法にソーシャルワーカーが係わる理由、支援にあたって求められる姿勢、刑事司法と福祉の関係がどう展開してきたかを理解する。					1.2.3.4 少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇について確認し、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援を理解する。			
3	【授業単元】				11	【授業単元】			
	第2章 社会と犯罪					第9章 社会内処遇の理論と実践			
4	【到達目標】				12	【到達目標】			
	1.2.3.4 日本の犯罪の状況と、その現象を把握し刑事司法の特徴と問題を理解する。					1.2.3.4 更生保護の意義と歴史を確認し、更生保護制度の概要を学び、ソーシャルワーカーの役割・課題、ネットワークについて理解する。			
5	【授業単元】				13	【授業単元】			
	第3章 犯罪原因論と対策					第10章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度			
6	【到達目標】				14	【到達目標】			
	1.2.3.4 犯罪原因論に基づく犯罪への対応について学び、その限界を把握し、犯罪対策について考える。					1.2.3.4 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。			
7	【授業単元】				15	【授業単元】			
	第4章 刑罰とは何か					第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉			
8	【到達目標】				16	【到達目標】			
	1.2.3.4 刑罰の本質と機能を知り、刑罰の適用状況を把握すること。					1.2.3.4 司法と福祉の連携の展開、地域生活定着支援センターの役割と機能について確認し、高齢者・障害者の特徴を把握し、支援と課題を理解。			
9	【授業単元】				17	【授業単元】			
	第5章 刑事司法					第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法			
10	【到達目標】				18	【到達目標】			
	1.2.3.4 刑事手続の実態と、刑事手続におけるクライアントの扱われ方を知ったうえで、本人と向き合うことを理解する。					1.2.3.4 アディクションについて、ソーシャルワーカーは適切にそのメカニズムを理解し、地域社会の協力を得ながら支援することを理解する。			
11	【授業単元】				19	【授業単元】			
	第6章 少年司法					第13章 犯罪被害者等支援			
12	【到達目標】				20	【到達目標】			
	1.2.3.4 少年による非行・犯罪がさまざまな社会問題や少年自身のニーズと切り離せないものであることを理解し、少年と向き合う。					1.2.3.4 犯罪被害者等支援に関する制度の概要を把握し、支援における考え方、そして支援の実践を理解する。			
13	【授業単元】				21	【授業単元】			
	第7章 施設内処遇① 成人					第14章 コミュニティと刑事司法、まとめ			
14	【到達目標】				22	【到達目標】			
	1.2.3.4 刑務所の生活の枠組みを知り、受刑生活の本人への影響を考える想像力を養う。					1.2.3.4 定期試験・これまでの学びを振り返る。			
15	【授業単元】				23	【授業単元】			
	中間試験					【成績評価の方法と基準】			
16	【到達目標】				24	【到達目標】			
	第1章から第7章の振り返りとまとめ。					1.2.3.4 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義中心の授業となると常に受け身になるが、先ずは聴く姿勢を培う。(対人援助においては、聴くことが相談の第一歩)また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科職員		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
【学習内容】									
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員とともに、上記の目標を達成できるよう精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を事例検討やロールプレイを実践的に行いながら習得する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、レジュメを配布					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習し、実際に活用できるようにする。				
コマ	授業計画								
1・2	【授業単元】								
	・オリエンテーション・演習の意義								
	・主な精神疾患の理解								
3・4	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。								
	【授業単元】								
5・6	・主な精神疾患の理解(ロールプレイ)								
	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。								
7・8	【授業単元】								
	・精神障害者に対する相談援助の理解(マイクロ・メゾ)								
	・様々なアプローチモデルの理解 ※行動変容アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメント・アプローチ、ストレスコーピング、ナラティブ・アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、ソーシャルアクション・アプローチなど								
9・10	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。								
	【授業単元】								
11・12	・福祉サービス等(フォーマルサービス)の利用支援(ロールプレイ)								
	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。								
13・14	【授業単元】								
	・実習の振り返り								
	・実技試験準備								
15	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。								
	【授業単元】								
15	・実技試験準備(メゾ)								
	【到達目標】								
	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。								
15	【授業単元】								
	・定期試験(実技試験)								
	【到達目標】								
15	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。								
	【授業単元】								
	演習まとめ								
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
					・定期試験を100点満点で採点し、A～Fの6段階で評価する。				
					・試験は実技試験で評価する。				
</									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（精神）	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ・精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
・精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解 ・実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・現場体験学習及び見学実習 ・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習（精神）	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。 1. 精神科病院等の病院 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 2. 精神科診療所 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・治療中の患者及びその家族への相談援助 ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関 次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					